

館報 2000 49

ANNUAL REPORT

OF BRIDGESTONE MUSEUM OF ART & ISHIBASHI MUSEUM OF ART

石橋財団 ブリヂストン美術館
石橋財団 石橋美術館

館報 2000 49

ANNUAL REPORT

OF BRIDGESTONE MUSEUM OF ART & ISHIBASHI MUSEUM OF ART

石橋財団 ブリヂストン美術館
石橋財団 石橋美術館

館報49号(2000年度)

編集・発行

石橋財団ブリヂストン美術館

〒104-0031 東京都中央区京橋1-10-1

石橋財団石橋美術館

〒839-0862 福岡県久留米市野中町1015

制作

三友社

2002年3月発行

Annual Report of Bridgestone Museum of Art &
Ishibashi Museum of Art No.49(2000)

Edited and published by

Bridgestone Museum of Art, Ishibashi Foundation

10-1, Kyobashi 1-chome, Chuo-ku, Tokyo 104-0031, Japan

Ishibashi Museum of Art, Ishibashi Foundation

1015, Nonaka-machi, Kurume-shi, Fukuoka 839-0862, Japan

Creative direction by Sanyusha Inc.

©2002

Bridgestone Museum of Art,

Ishibashi Museum of Art,

Ishibashi Foundation

目次 Contents

1	設立趣旨,機構・運営	4
	Brief Histories of the Museums, Organization and Management	
2	展覧会	
	ブリヂストン美術館	
	● 特別展	6
	● 特集展示	9
	● コーナー展示	12
	石橋美術館・石橋美術館別館	
	● 特別展示	18
	● 特集展示	21
3	教育普及	
	● ブリヂストン美術館	27
	● 石橋美術館・石橋美術館別館	32
4	入場者数	35
5	新収蔵作品 New Acquisitions	36
6	新収図書	40
7	修復記録	41
8	作品貸出記録	
	● ブリヂストン美術館	53
	● 石橋美術館	57
9	刊行物一覧	58
10	作品の移管	62
11	ビデオ・インスタレーション(ブリヂストン美術館)	66
12	研究報告	67
13	個人活動記録	74
14	美術館案内 Guide to the Museums	78
15	石橋財団職員	79

設立趣旨

ブリヂストン美術館

ブリヂストン美術館は、石橋正二郎(1889-1976)が多年にわたって蒐集愛蔵した内外の美術品を、社会公共のため、広く一般の鑑賞に供し、文化向上の一端に貢献したいとの趣旨に基づき、1952(昭和27)年1月8日、ブリヂストンビルディング竣工とともに同ビル内に開設されたものである。その後1956(昭和31)年4月に設立された財団法人石橋財団がその経営を継承し、1961(昭和36)年9月には同財団が石橋正二郎から所蔵美術品の寄贈を受けた。なお、1959(昭和34)年5月には面積が二倍に拡張された。1999(平成11)年12月には、面積をさらに拡張するとともに内装を一新した。

石橋美術館

石橋美術館は、株式会社ブリヂストンの創業者・石橋正二郎が1956(昭和31)年4月26日、同社の創立25周年を記念して、社会公共の福祉と文化向上のために、郷土久留米市に寄贈した石橋文化センターの中心施設である。1977(昭和52)年、石橋正二郎の遺族の寄付により増改築が行われ、同年4月以降、久留米市の要請により、石橋財団がその経営に当たっている。

石橋美術館別館

石橋美術館別館は、1995(平成7)年1月8日、石橋正二郎によって蒐集された石橋コレクションのうち書画・陶磁器類を収蔵展示する施設として石橋幹一郎により久留米市に建設寄贈され、一年余の養生期間を経て1996(平成8)年10月17日に開館した。なお建設寄贈と同時に石橋美術館と同様、石橋財団が管理運営に当たっている。

機構・運営

石橋財団 (2001年3月31日現在)

理事長・評議員	内田 宏						
理事・評議員	中川 洋,	石橋 寛,	鶴澤昌和,	加嶋昭男,	城多秀年,	富山秀男,	喜多村禎勇
監事	亀徳正之,	唐澤高美,	湯淺達祐				
評議員	石井公一郎,	高崎芳郎,	橋口 収,	高階秀爾,	三木常正,	石樽和夫,	平野 実,
	大原 譲						

美術館運営委員会

委員長	石橋 寛						
委員	嘉門安雄,	高階秀爾,	内田 宏,	小林 忠,	富山秀男,	喜多村禎勇	

寄付助成委員会

委員長	鶴澤昌和						
委員	内田 宏,	吉久勝美,	加嶋昭男,	富山秀男,	喜多村禎勇		

財団委員会

委員長	内田 宏						
委員	石橋 寛,	鶴澤昌和,	亀徳正之,	唐澤高美,	湯淺達祐,	城多秀年,	富山秀男
	喜多村禎勇						

常務理事	城多秀年,	富山秀男					
------	-------	------	--	--	--	--	--

事務局

事務局長	遠藤長夫						
------	------	--	--	--	--	--	--

ブリヂストン美術館

館長	富山秀男	事務部長	尾島 聡	事務部次長	黒田昌弘	学芸課長	宮崎克己
----	------	------	------	-------	------	------	------

石橋美術館／石橋美術館別館							
館長	喜多村禎勇	事務部次長	郷原耕亮	学芸課長	田内正宏		

Brief Histories of the Museums

Bridgestone Museum of Art

On January 8, 1952, ISHIBASHI Shojiro (1889-1976), wishing to promote cultural development in Japan, opened to the public a museum of art within the newly-completed Bridgestone Building under the name of the "Bridgestone Gallery". The works of art, both Japanese and foreign, which he had collected over the years formed the nucleus of the exhibits. In April 1956, the Ishibashi Foundation was established to take over the management of the Gallery, and in September 1961, ISHIBASHI donated the works in the Gallery to the Foundation. In May 1959, the Gallery was enlarged to twice its original size. In January 1968, the English name was changed from the "Bridgestone Gallery" to the "Bridgestone Museum of Art". In December 1999, the Gallery was more enlarged and totally renovated.

Ishibashi Museum of Art

On April 26, 1956, in commemoration of the 25th anniversary of the Bridgestone Corporation, ISHIBASHI Shojiro, the founder of the Corporation, donated the Ishibashi Cultural Center to his home town of Kurume to render a public service and promote cultural development. The Ishibashi Museum of Art (originally the Ishibashi Art Gallery) is the principal institution in the Center. In 1971, the English name was changed from the "Ishibashi Art Gallery" to the "Ishibashi Museum of Art". In 1977, the Museum building was enlarged and renovated, thanks to a contribution from the Ishibashi family, and in April of the same year the city of Kurume entrusted the Ishibashi Foundation with the management of the Museum.

Ishibashi Museum of Art, Asian Gallery

On January 8, 1995, ISHIBASHI Kanichiro, son of ISHIBASHI Shojiro donated to the city of Kurume a new museum especially designated to exhibit Shojiro's collection of Asian Arts, such as brush painting, calligraphy, porcelain works. The museum has been open to the public since October 17, 1996, after careful observation and research for over a year. Since the time of its donation to Kurume, the museum is being managed by the Ishibashi Foundation, along with the Ishibashi Museum of Art.

Organization and Management

Ishibashi Foundation

(As of March 31, 2001)

President of the Board of Directors and Councillor	UCHIDA Hiroshi			
Directors and Councillors	NAKAGAWA Yoh KITA Hidetoshi	ISHIBASHI Hiroshi TOMIYAMA Hideo	UZAWA Masakazu KITAMURA Sadao	KASHIMA Akio
Auditors	KITOKU Masayuki	KARASAWA Takami	YUASA Tatsusuke	
Councillors	ISHII Koichiro MIKI Tsunemasa OHARA Yuzuru	TAKASAKI Yoshiro ISHIKURE Kazuo	HASHIGUCHI Osamu HIRANO Minoru	TAKASHINA Shuji
<hr/>				
Executive Committee of the Museums				
Chairman	ISHIBASHI Hiroshi			
Members	KAMON Yasuo TOMIYAMA Hideo	TAKASHINA Shuji KITAMURA Sadao	UCHIDA Hiroshi	KOBAYASHI Tadashi
<hr/>				
Program Development Grant Committee				
Chairman	UZAWA Masakazu			
Members	UCHIDA Hiroshi KITAMURA Sadao	YOSHIHISA Katsumi	KASHIMA Akio	TOMIYAMA Hideo
<hr/>				
Strategic Planning Committee				
Chairman	UCHIDA Hiroshi			
Members	ISHIBASHI Hiroshi YUASA Tatsusuke	UZAWA Masakazu KITA Hidetoshi	KITOKU Masayuki TOMIYAMA Hideo	KARASAWA Takami KITAMURA Sadao
<hr/>				
Managing Director	KITA Hidetoshi			
Art Director	TOMIYAMA Hideo			
<hr/>				
Administration				
Executive Secretary	ENDO Takeo			
<hr/>				
Bridgestone Museum of Art				
Director	TOMIYAMA Hideo			
Administrator	OJIMA Satoru	Manager KURODA Masahiro	Chief Curator MIYAZAKI Katsumi	
<hr/>				
Ishibashi Museum of Art / Ishibashi Museum of Art, Asian Gallery				
Director	KITAMURA Sadao			
Manager	GOHARA Kosuke	Chief Curator TAUCHI Masahiro		

<特別展>

ルノワール：異端児から巨匠への道 1870-1892

2001年2月10日(土)～4月15日(日)

会場：第4室～第10室

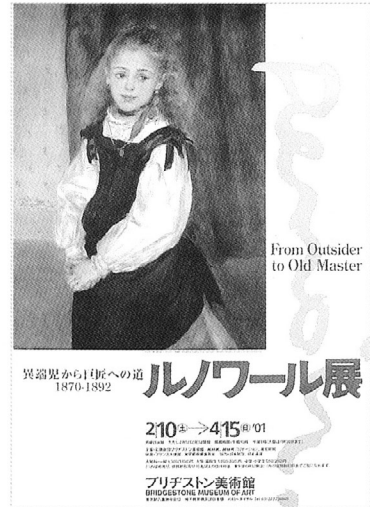
主催：石橋財団ブリヂストン美術館 / NHK / NHKプロモーション / 東京新聞

出品内容：油彩51点、パステル・素描12点 計63点

(下記リストにおいて*印を付けたものは東京会場に出品されなかった。)

入場者総数：331,337人 (1日平均 5,713人)

担当＝宮崎克己、福満葉子



展覧会ポスター

出品目録：

1. 《水浴の女とグリフォンテリア》/ 1870年 / 油彩・カンヴァス / 184×115cm / サンパウロ美術館
2. 《芸術家の兄、ピエール＝アンリ・ルノワール》/ 1870年 / 油彩・カンヴァス / 81×64.1cm / 個人蔵
3. 《読書するカミーユ・モネ》/ 1873年頃 / 油彩・カンヴァス / 61.2×50.3cm / クラーク・アート・インスティテュート
4. 《アヒルの池》/ 1873年 / 油彩・カンヴァス / 47.3×56.2cm / トラメル・クロウ夫妻蔵
5. 《アルジャントゥイユの庭で制作するモネ》/ 1873年 / 油彩・カンヴァス / 46×60cm / ワズワース美術館
6. 《セースのボート遊び》/ 1873年頃 / 油彩・カンヴァス / 50.2×61cm / 個人蔵
7. 《シャトゥーの橋》/ 1875年頃 / 油彩・カンヴァス / 51×65.2cm / クラーク・アート・インスティテュート
8. 《ルグラン嬢》/ 1875年 / 油彩・カンヴァス / 81.3×59.1cm / フィラデルフィア美術館
9. 《ぶらんこ》/ 1876年 / 油彩・カンヴァス / 92×73cm / オルセー美術館
10. 《すわるジョルジュ・シャルパンティエ嬢》/ 1876年 / 油彩・カンヴァス / 97.8×70.8cm / 石橋財団ブリヂストン美術館
11. 《カフェにて》/ 1877年 / 油彩・カンヴァス / 35×28cm / クレラー＝ミュラー美術館
12. 《読書する二人》/ 1877年 / 油彩・カンヴァス / 32.4×24.8cm / 群馬県立近代美術館
13. 《洗濯女》/ 1877-79年 / 油彩・カンヴァス / 81.4×56.5cm / シカゴ美術館
14. 《ジャクヤク》/ 1878年 / 油彩・カンヴァス / 59×49.5cm / 個人蔵
15. 《シャトゥーの舟遊び》/ 1879年 / 油彩・カンヴァス / 81.2×100.2cm / ワシントン・ナショナル・ギャラリー
16. 《牧神の宴》/ 1879年 / 油彩・カンヴァス / 60×72cm / ベリー＝ヒル画廊
17. 《タンホイザーの舞台(第1幕)》/ 1879年 / 油彩・カンヴァス / 50×135cm / 個人蔵, 日本
18. 《タンホイザーの舞台(第3幕)》/ 1879年 / 油彩・カンヴァス / 50×135cm / 個人蔵, 日本
19. 《テオドル・ド・バンヴィルの肖像》/ 1879年 / コンテ・紙 / 30×23.2cm / 財団法人長島美術館
20. 《麦わら帽子の女》/ 1880年 / 油彩・カンヴァス / 50×61cm / 北九州市立美術館
21. 《シャトゥーのセヌ河》/ 1881年頃 / 油彩・カンヴァス / 73.5×92.5cm / ボストン美術館
22. 《桃のある静物》/ 1881年 / 油彩・カンヴァス / 53.3×64.8cm / メトロポリタン美術館
23. 《ヴェネツィアの大運河》/ 1881年 / 油彩・カンヴァス / 54×65cm / ボストン美術館
24. 《レストランのオリーブ畑》/ 1882年 / 油彩・カンヴァス / 37×66cm / 丸紅株式会社
25. 《レストランの岩山》/ 1882年 / 油彩・カンヴァス / 32.2×40.3cm / 個人蔵
26. 《アラブの老女》/ 1882年 / 油彩・カンヴァス / 29.9×24cm / ウースター美術館

-
27. 《波》/ 1882年 / 油彩・カンヴァス / 53.3×63.5cm / ディクソン美術館
28. 《ブージュヴァルのダンス》/ 1883年頃 / 油彩・カンヴァス / 88×47.4cm / 個人蔵
29. 《ブージュヴァルのダンス(素描)》/ 1883年頃 / 鉛筆, ペン, 黒インク・紙 / 30.4×19.2cm / フィラデルフィア美術館
30. 《田舎のダンス(素描)》/ 1883年頃 / 鉛筆・紙 / 24.5×12.3cm / オルセー美術館(ルーヴル美術館素描版画部保管)
31. 《ボール・アヴィランの肖像》/ 1884年 / 油彩・カンヴァス / 57.5×43.2cm / ネルソン=アトキンズ美術館
32. 《ヴァルジュモンの子どものたちの午後》/ 1884年 / 油彩・カンヴァス / 127×173cm / ベルリン・ナショナル・ギャラリー
33. 《麦わら帽子をかぶった若い娘》/ 1884年 / 油彩・カンヴァス / 54.6×47cm / 個人蔵, 日本
34. 《髪を編む娘》/ 1884年 / 油彩・カンヴァス / 57×47cm / ラングマット財団
35. 《若い女の肖像》/ 1884年 / 油彩・カンヴァス / 51×44cm / ラングマット財団
36. 《花のある静物》/ 1885年 / 油彩・カンヴァス / 81.9×65.8cm / グッゲンハイム美術館
37. 《アリス・シャリゴの肖像》/ 1885年 / 油彩・カンヴァス / 65.4×53.9cm / フィラデルフィア美術館
38. 《麦わら帽子の少女》/ 1886年 / 油彩・カンヴァス / 48×37cm / 呉市立美術館
39. 《少女(シュザンヌ・アダン嬢)》/ 1887年 / パステル・紙 / 60.8×46cm / 石橋財団ブリヂストン美術館
40. 《シュザンヌ・アダン嬢の肖像》/ 1887年 / パステル・紙 / 61×49cm / 個人蔵
- * 41. 《腕をぬぐう水浴の女》/ 1884-85年 / 鉛筆, インク・紙 / 26×21.5cm / オルセー美術館(ルーヴル美術館素描版画部保管)
- * 42. 《〈大水浴〉のための習作 I》/ 1884-87年頃 / グワッシュ, インク, 鉛筆・紙 / 32.5×49.5cm / オルセー美術館(ルーヴル美術館素描版画部保管)
43. 《〈大水浴〉のための習作 II》/ 1884-85年 / 鉛筆・紙 / 27×43cm / リチャード・J・エルカスJr.夫妻蔵
44. 《〈大水浴〉のための習作 III》/ 1884-87年頃 / 油彩・カンヴァス / 62×95cm / 個人蔵, ジュネーヴ
45. 《〈大水浴〉のための習作 IV》/ 1884-87年頃 / 赤チョーク, 白チョーク・紙 / 71×100cm / 個人蔵
46. 《化粧する少女》/ 1885年 / 油彩・カンヴァス / 52×37cm / 個人蔵, 日本
47. 《水浴の女》/ 1885-87年頃 / 赤チョーク, 白チョーク・紙 / 37×28cm / ヘルマン・シュナーベル氏蔵
48. 《水浴の女》/ 1887年 / 油彩・カンヴァス / 81.5×53cm / 個人蔵, 東京
49. 《母と子(アリスと息子ピエール)》/ 1886年 / 油彩・カンヴァス / 80×64cm / 箱根芦ノ湖美術館(ユニマット近代絵画コレクション)
50. 《母と子(習作)》/ 1886年 / インク, 赤チョーク・紙 / 71×53cm / 姫路市立美術館 国富奎三コレクション
51. 《収穫》/ 1886年頃 / 水彩, ペン, インク, 鉛筆・紙 / 34×31cm / オルセー美術館(ルーヴル美術館素描版画部保管)
52. 《牛飼いの娘》/ 1886-87年 / 油彩・カンヴァス / 53×64cm / 個人蔵, 日本
53. 《泉のそばの少女》/ 1887年 / 油彩・カンヴァス / 41×32.5cm / 笠間日動美術館
54. 《読書する少女》/ 1887年 / 油彩・カンヴァス / 35.6×27.3cm / 個人蔵
55. 《葡萄摘みの昼食》/ 1888年頃 / 油彩・カンヴァス / 55.8×47.7cm / アーモンド・ハマー・コレクション
56. 《ムール貝採り》/ 1888-89年頃 / 油彩・カンヴァス / 56.5×46.5cm / 個人蔵, 東京
57. 《サント=ヴィクトワール山》/ 1888-89年 / 油彩・カンヴァス / 53×64.1cm / イェール大学美術館
58. 《樹木の習作 I》/ 1885-90年頃 / 鉛筆, 水彩・紙 / 14.5×23cm / オルセー美術館(ルーヴル美術館素描版画部保管)
- * 59. 《樹木の習作 II》/ 1885-90年頃 / 水彩・紙 / 14.3×20cm / オルセー美術館(ルーヴル美術館素描版画部保管)
60. 《花と果物》/ 1889年頃 / 油彩・カンヴァス / 65.1×54cm / リチャード・グリーン画廊
61. 《大きな夏の花かご》/ 1890年 / 油彩・カンヴァス / 63.5×79cm / 個人蔵
62. 《リング売り》/ 1890年頃 / 油彩・カンヴァス / 65.8×54.5cm / クリーヴランド美術館
63. 《鎌を持つ女》/ 1890年頃 / 赤チョーク, 白チョーク・紙 / 33.6×26cm / 個人蔵
- * 64. 《帽子の女》/ 1891年 / 油彩・カンヴァス / 56×46.5cm / 国立西洋美術館 松方コレクション
65. 《果物盆をいただく裸婦》/ 1890-95年頃 / 油彩・カンヴァス / 131×41.3cm / アサヒビール株式会社
66. 《水浴の女》/ 1891年 / 油彩・カンヴァス / 80.9×65.6cm / 川村記念美術館
67. 《ピアノを弾く少女たち》/ 1892年 / 油彩・カンヴァス / 116×90cm / オルセー美術館
-

関連事業：

「イヴェニング・レクチャー：ルノワール学入門」

火・木曜日 18:15～19:00 ホール

- 2001年2月13日 「本展のみどころ」 宮崎克己
2001年2月15日 「本展のみどころ」 宮崎克己
2001年2月20日 「ルノワールとは何者か」
阿部信雄 氏（美術評論家）
2001年2月22日 「ルノワールのアルジェリア・イタリア旅行」
賀川恭子 氏（美術史家）
2001年2月27日 「ルノワールのコレクター：シャルパンティエ家
とベラル家を中心に」 賀川恭子 氏
2001年3月 1日 「本展のみどころ」 福満葉子
2001年3月 6日 「セーヌの印象派」 島田紀夫 氏（実践女子大学教授）
2001年3月 8日 「ルノワールの裸婦」 賀川恭子 氏
2001年3月13日 「ルノワールと日本」 富山秀男
2001年3月15日 「モネとルノワール」 賀川恭子 氏
2001年3月20日 「ルノワールと音楽(1)：〈ピアノを弾く女性の主題を
めぐって〉」 大森達次 氏（女子美術大学教授）
2001年3月22日 「本展のみどころ」 福満葉子
2001年3月27日 「印象派のグループ展」 島田紀夫 氏
2001年3月29日 「ルノワールと音楽(2)：ワーグナーからオッフェン
バックへ」 大森達次 氏
2001年4月 3日 「ルノワールと日本」 富山秀男
2001年4月 5日 「描かれた子どもたち」 阿部信雄 氏
2001年4月10日 「本展のみどころ」 福満葉子
2001年4月12日 「ルノワールの描いた恋人たち」 宮崎克己



From Outsider
to Old Master
1870-1892
異端児から巨匠への道
ルノワール展
210^円→415^円01
午前10時～午後8時（月曜日休館、例年2/12は開館）
ブリヂストン美術館
東京都中央区有楽町1丁目10番1号 〒104-8001
TEL 03-5562-0241 FAX 03-5562-1000 <http://www.bridgestone-museum.org/jp/>
交通案内（JR）有楽町線・有楽町駅・徒歩5分
※地下鉄：有楽町線・有楽町駅・徒歩5分
写真：（上）ルノワール『雨、蒸気、大鉄橋』（下）ルノワール『セーヌの印象派』（右）ルノワール『裸婦』

イヴェニング・レクチャー案内はがき

広報記録：

新聞・雑誌：

C.B.LIDDELL, "Renoir revealed as reluctant revolutionary", *Asahi Evening News*, February 16, 2001

Linda INOKI, "Bridgestone Exhibition. Renoir's transition to Old Master", *The Japan Times*, February 18, 2001

Robert REED, "Early works offers insight into Renoir's career", *The Daily Yomiuri*, March 1, 2001

深井晃子「モードの画家ルノワール」『日本経済新聞』2001年3月10日 夕刊

竹田博志「固定観念揺さぶる実験性 ルノワール展」『日本経済新聞』2001年3月16日

田中三蔵「巨匠の試行錯誤たどり新鮮ルノワール展」『朝日新聞』2001年3月28日 夕刊

テレビ：

「新日曜美術館」日本放送協会、2001年3月4日放送

「朝日ニュースター・ニュースジョッキー」株式会社衛星チャンネル（朝日ニュースター）2001年3月7日 放送

<特集展示>

『レスタンプ・オリジナル』—世紀末フランスの版画革命

2000年3月7日(火)～6月4日(日)

会場: 第1室, 第2室

主催: 石橋財団ブリヂストン美術館 / 石橋財団石橋美術館

出品内容: 版画98点

入場者総数: 16,739人 (1日平均 217人)

担当=福満葉子

* 館報48号(1999年度) p.9-11参照

オリエントのガラスと陶器

2000年10月6日(金)～2001年1月12日(金)

会場: 第1室, 第2室

主催: 石橋財団ブリヂストン美術館 / 石橋財団石橋美術館別館

出品内容: ガラス13点, 土器2点, 陶器44点 計59点

入場者総数: 17,146人 (1日平均 214人)

担当=坂本恭子



展覧会ポスター

出品目録:

I. 土器

1. 《幾何文台付鉢》/ イラン(テベ・シアルク) / 紀元前4千年紀(シアルクIII期) / H.17.9cm, D.16.2cm / cat.no.15
2. 《嘴形注口把手付壺》/ イラン(イラン北部) / 紀元前1千年紀(シアルクVI期) / H.9.1cm, W.19.2cm / cat.no.16

II. ガラス

3. 《梨形長頸瓶》/ シリア・パレスチナまたはキプロス / 1世紀中葉(ローマ帝国) / H.22.4cm, W.14.2cm / cat.no.1
4. 《梨形瓶》/ シリア・パレスチナまたはキプロス / 1世紀後半(ローマ帝国) / H.12.8cm, W.9.4cm / cat.no.2
5. 《突起文瓶》/ シリア・パレスチナ / 3世紀(ローマ帝国) / H.11.2cm, W.7.3cm / cat.no.5
6. 《球形長頸瓶》/ シリア・パレスチナ / 2世紀中葉-後半(ローマ帝国) / H.19.9cm, W.14.7cm / cat.no.3
7. 《突起文花瓶》/ シリア・パレスチナ / 3世紀中葉-後半(ローマ帝国) / H.8.6cm, W.11.7cm / cat.no.6
8. 《貼付紐文広口瓶》/ シリア・パレスチナ / 4世紀前半(ローマ帝国) / H.11.3cm, W.8.7cm / cat.no.7
9. 《貼付紐文広口瓶》/ シリア・パレスチナ / 4世紀前半(ローマ帝国) / H.7.8cm, W.7.3cm / cat.no.8
10. 《円筒形把手付瓶》/ シリア・パレスチナ / 4世紀初頭-中葉(ローマ帝国) / H.24.8cm, W.10.4cm / cat.no.10
11. 《脚台把手付瓶》/ シリア・パレスチナ / 4世紀(ローマ帝国) / H.44.3cm, W.17.7cm / cat.no.9
12. 《大皿》/ エジプト / 4世紀 / H.5.8cm, D.34.8cm / cat.no.11
13. 《貼付幾何文長杯》/ イラン(イラン北部) / 2-3世紀(パルティア朝またはサーサーン朝) / H.22.7cm, W.9.5cm / cat.no.4

-
14. 《円形切子碗》/ イラク / 6世紀前半(サーサーン朝) / H.8.8cm, D.11.8cm / cat.no.12
15. 《貼付線文鼓形把手付瓶》/ イラン(イラン北部) / 10世紀末(ガズニ朝) / H.19.2cm, W.14.1cm / cat.no.13

III. 陶器

16. 《青緑釉耳付壺》/ イラクまたはイラン / 5-7世紀(サーサーン朝) / H.17.5cm, W.22.4cm / cat.no.18
17. 《青緑釉耳付壺》/ シリア / 7世紀? / H.26.4cm, W.21.1cm / cat.no.19
18. 《青緑釉鉢》/ イラン / 12-13世紀 / H.8.6cm, D.21.3cm / cat.no.26
19. 《白地多彩鳥文鉢》/ イラン(サーリー) / 10-11世紀 / H.6.8cm, D.18.1cm / cat.no.22
20. 《白搔落象文鉢》/ イラン(ガルス) / 11-12世紀(セルジューク朝) / H.12.0cm, D.28.5cm / cat.no.23
21. 《青釉刻線文輪花鉢》/ イラン / 11世紀後半-12世紀(セルジューク朝) / H.9.1cm, D.20.0cm / cat.no.24
22. 《紫釉螢手刻線文鉢》/ イラン / 12世紀(セルジューク朝) / H.7.8cm, D.19.0cm / cat.no.25
23. 《青緑釉藍黑彩花文瓶》/ イラン / 13世紀(セルジューク朝) / H.31.4cm, W.18.6cm / cat.no.39
24. 《青緑釉文字文鉢》/ イラン / 12-13世紀 / H.8.6cm, D.22.8cm / cat.no.27
25. 《青緑釉黑搔落花文鉢》/ イラン / 12-13世紀 / H.8.4cm, D.19.7cm / cat.no.28
26. 《藍釉黑彩魚文鉢》イラン(スルターナバード) / 13世紀後半-14世紀前半(イル・ハーン朝) / H.10.7cm, D.21.6cm / cat.no.45
27. 《白地藍緑彩花文鉢》/ イラン(スルターナバード) / 13世紀後半-14世紀前半(イル・ハーン朝) / H.11.2cm, D.21.6cm / cat.no.46
28. 《青釉黑彩花文鉢》/ イラン(スルターナバード) / 13世紀後半-14世紀前半(イル・ハーン朝) / H.10.4cm, D.21.3cm / cat.no.47
29. 《藍釉黑彩花鳥文鉢》/ イラン(カーシャーン) / 13世紀 / H.7.2cm, D.15.9cm / cat.no.33
30. 《白地藍黑彩花文鉢》/ イラン / 13世紀 / H.8.8cm, D.20.5cm / cat.no.34
31. 《白釉螢手花文鉢》/ イラン / 18世紀(サファヴィー朝-カージャール朝) / H.6.5cm, D.19.2cm / cat.no.54
32. 《青緑釉黑彩花文把手付壺》/ シリア(ラッカ?) / 13世紀 / H.16.1cm, W.13.1cm / cat.no.37
33. 《青緑釉把手付壺》/ シリア / 13-14世紀 / H.12.9cm, W.13.9cm / cat.no.42
34. 《青緑釉黑彩蔓草文八耳壺》/ イランまたはシリア / 13-14世紀 / H.18.1cm, W.22.8cm / cat.no.43
35. 《青緑釉黑彩壺》/ イランまたはシリア / 13-14世紀 / H.24.3cm, W.17.5cm / cat.no.38
36. 《ラスター彩人物文鉢》/ イラン / 13世紀 / H.6.5cm, D.17.4cm / cat.no.30
37. 《ラスター彩幾何文鉢》/ イラン / 13世紀 / H.6.8cm, W.15.5cm / cat.no.31
38. 《ラスター彩草花文輪花鉢》/ イラン / 13世紀後半(イル・ハーン朝) / H.9.5cm, D.15.3cm / cat.no.32
39. 《ラスター彩草花文皿》/ スペイン / 16世紀? (イスパニア王国?) / H.6.0cm, D.37.8cm / cat.no.参考1
40. 《ラスター彩蔓草文四耳壺》/ スペイン / 16世紀? (イスパニア王国?) / H.22.0cm, W.17.9cm / cat.no.参考4
41. 《ラスター彩蔓草文瓶》/ スペイン / 17世紀? (イスパニア王国?) / H.22.8cm, W.9.0cm / cat.no.参考9
42. 《青緑釉ランプ》/ エジプト / 13-14世紀(マムルーク朝) / H.8.5cm, W.12.6cm / cat.no.40
43. 《青緑釉ランプ》/ エジプト / 13-14世紀(マムルーク朝) / H.8.1cm, W.11.1cm / cat.no.41
44. 《青緑釉黑彩花文皿》/ シリア / 15-16世紀 / H.7.0cm, D.26.5cm / cat.no.50
45. 《白釉多彩花文瓶》/ トルコ(キュタフィア) / 17世紀 / H.17.1cm, W.8.2cm / cat.no.53
46. 《多彩釉刻線文鉢》/ イラク / 9-10世紀 / H.7.7cm, D.22.6cm / cat.no.20
47. 《多彩釉刻線文台付鉢》/ 東地中海地方 / 12-13世紀? (ビザンツ帝国?) / H.9.2cm, D.14.5cm / cat.no.29
48. 《白盛上花鳥文鉢》/ イラン(スルターナバード) / 13-14世紀(イル・ハーン朝) / H.8.2cm, D.15.9cm / cat.no.44
49. 《青釉文字文鉢》/ イラン / 13世紀後半-14世紀前半(イル・ハーン朝) / H.8.9cm, D.16.0cm / cat.no.48
50. 《白地藍彩花蔓草文壺》/ イランまたはトルコ / 17世紀 / H.12.2cm, W.11.4cm / cat.no.52
51. 《白地藍彩花鳥文鉢》/ イラン / 17世紀(サファヴィー朝) / H.5.6cm, D.11.4cm / cat.no.51
52. 《白釉刻線文鉢》/ イラン / 18世紀(サファヴィー朝-カージャール朝) / H.5.4cm, D.12.8cm / cat.no.55
53. 《白地多彩花鳥文鉢》/ イラン / 18-19世紀(カージャール朝) / H.8.5cm, D.18.4cm / cat.no.56
54. 《白地多彩人物草花文タイル》/ イラン / 19世紀(カージャール朝) / 26.3×35.1cm / cat.no.59
55. 《青釉黑彩草花文鉢》/ イラン? / 19世紀(カージャール朝) / H.9.6cm, D.18.5cm / cat.no.57
56. 《白地多彩狩獵文柑子口瓶》/ イラン / 19世紀(カージャール朝) / H.17.5cm, W.13.5cm / cat.no.58
57. 《白地多彩騎馬人物文角瓶》/ イラン / 20世紀初頭(カージャール朝) / 11.7×6.9×27.1cm / cat.no.63

58. 《白地刻線花文鉢》/ イラン(カスピ海南岸地方) / 11世紀 / H.8.4cm, D.19.7cm / cat.no.21

59. 《白地多彩人物文鉢》/ イラン / 13世紀? / H.9.7cm, D.22.4cm / cat.no.35

* 出品作品はすべてブリヂストン美術館蔵。ただし石橋美術館別館に巡回後、同美術館に移管された(→ p.64-65)。



19. 《白地多彩鳥文鉢》

関連事業:

土曜講座「ガラスと陶器の物語」→ p.27

広報記録:

「museum 東西文化にない魅力」『館林ニュース ジャトル』上毛新聞社, 2000年12月3日

<コーナー展示>

レンブラントからアングルまで一館蔵品を中心に

2000年6月8日(木)－8月27日(日)

会場：第1室

出品内容：油彩7点、水彩1点、木炭1点、鉛筆2点、銅版画5点 計16点

入場者総数：17,188人（1日平均 246人）

担当＝中田裕子



5. ジャン＝バティスト・パテル《水浴》

出品目録：

1. グレゴリオ・ラザリーニ《黄金の子牛の礼拝》/ 1700-07年頃 / 油彩・カンヴァス / 91.2×148.4cm
2. アントニー・ヤンスゾーン・ファン・デル・クロース《レイスウェイク城》/ 油彩・板 / 59.4×89.2cm
3. レンブラント・ファン・レイン《聖書あるいは物語に取材した夜の情景》/ 1626-28年 / 油彩・銅板 / 22.1×17.1cm
4. レンブラント・ファン・レイン《ミネルヴァ》/ 1635年 / 油彩・カンヴァス / 137.0×115.0cm / 個人蔵
5. ジャン＝バティスト・パテル《水浴》/ 油彩・カンヴァス / 56.7×65.5cm
6. トマス・ゲنزバラ《婦人像》/ 油彩・カンヴァス / 77.7×64.1cm
7. ジャン＝オーギュスト＝ドミニク・アングル《若い女の頭部》/ 油彩・カンヴァス / 40.8×32.3cm
8. ドメニコ・ロブスティ《競技者の素描》/ 鉛筆、淡彩・紙 / 34.8×13.7cm
9. カミュー・コロ《風景》/ 木炭・紙 / 46.6×30.6cm
10. ジャン＝オーギュスト＝ドミニク・アングル《足の習作》/ 鉛筆・紙 / 16.0×19.9cm / 個人蔵
11. ウジェーヌ・ドラクロワ《馬習作》/ 水彩・紙 / 19.9×24.9cm
12. レンブラント・ファン・レイン《帽子と衿巻を着けた暗い顔のレンブラント》/ 1633年 / エッチング / 13.3×10.4cm
13. レンブラント・ファン・レイン《聖母の死》/ 1639年 / エッチング、ドライポイント・和紙 / 39.5×31.5cm
14. レンブラント・ファン・レイン《大きな樹と小屋のある風景》/ 1641年 / エッチング / 12.5×32.0cm
15. レンブラント・ファン・レイン《版画商クレメント・デ・ヨンゲ》/ 1651年 / エッチング、ドライポイント、ビュラン / 21.0×16.3cm
16. レンブラント・ファン・レイン《説教するキリスト》/ 1652年頃 / エッチング、ドライポイント、ビュラン / 15.5×20.6cm

* 所蔵の標記のない作品は、すべてブリヂストン美術館蔵。

巨匠たちの素顔―水彩・素描の魅力

2000年6月8日(木)―8月27日(日)

会場：第2室

出品内容：パステル3点、グワッシュ5点、テンペラ1点、水彩17点、
クレヨン2点、墨2点、木炭1点、鉛筆10点、インク1点
計42点

入場者総数：17,188人（1日平均 246人）

担当＝中田裕子

41. 猪熊弦一郎《夜の猫》

出品目録：

1. ギュスターヴ・モロー 《化粧》 / 1885-90年頃 / グワッシュ、水彩・紙 / 33.0×19.3cm
2. エドゥアール・マネ 《メリー・ローラン》 / 1882年 / パステル・カンヴァス / 41.6×37.1cm
3. エドガー・ドガ 《踊りの稽古場にて》 1895-98年 / パステル・紙 / 45.9×89.8cm
4. エドガー・ドガ 《浴後》 / 1900年頃 / パステル・紙 / 62.7×68.5cm
5. エドガー・ドガ 《踊り子》 / 鉛筆、油彩・紙 / 27.7×21.8cm
6. ボール・セザンヌ 《水浴》 / 1865-70年頃 / 水彩・紙 / 19.9×11.1cm / 個人蔵
7. オディロン・ルドン 《裸婦》 / 鉛筆、パステル・紙 / 59.8×68.0cm
8. オーギュスト・ロダン 《裸婦》 / 鉛筆、淡彩・紙 / 17.8×11.5cm
9. エミール＝アントワヌ・ブールデル 《レダと白鳥》 / 水彩、ペンとインク・厚紙 / 18.2×13.1cm
10. エミール＝アントワヌ・ブールデル 《クロノス》 / グワッシュ、ペンとインク・紙 / 16.4×20.9cm
11. エミール＝アントワヌ・ブールデル 《傷つける精を運ぶケンタウロス》 / 水彩、ペンとインク・紙 / 15.7×20.2cm
12. ボール・シニャック 《ラ・ロシェル》 / 水彩、鉛筆・紙 / 20.8×27.0cm
13. ボール・シニャック 《プティ・タンダリー》 / 水彩、コンテ・紙 / 26.7×39.4cm
14. アンリ・マティス 《リュリュと犬》 / 1931年 / ペンとインク・紙 / 55.4×44.8cm
15. ジョルジュ・ルオー 《風景》 / 1913年 / 水彩・紙 / 20.4×30.9cm
16. アルベール・マルケ 《ハンブルクの四輪馬車》 / 1906年 / 墨・紙 / 20.5×26.7cm
17. ラウル・デュフィ 《ロアジス》 / 1921年 / 鉛筆・紙 / 45.6×56.0cm
18. ラウル・デュフィ 《開かれた窓の静物》 / 水彩・紙 / 46.2×58.8cm
19. パウル・クレー 《冬》 / 1932年 / 水彩・紙 / 48.0×42.0cm / 個人蔵
20. アンドレ・デュノワイエ・ド・スゴンザック 《風景》 / 水彩・紙 / 49.9×56.9cm
21. マルク・シャガール 《ヴェンスの新月》 / 1955-56年 / グワッシュ・紙 / 64.9×50.1cm
22. オシップ・ザツキン 《三つの冒険》 / 1951年 / グワッシュ・紙 / 65.2×49.7cm
23. マリノ・マリーニ 《馬と騎手》 / 1954年 / テンペラ・紙 / 61.7×42.8cm
24. ヘンリー・ムア 《ファミリー・グループのための習作》 / 1949年頃 / 鉛筆、ワックス・クレヨン、水彩、ペンとインク・紙 / 29.2×24.1cm
25. ヘンリー・ムア 《プロメテウスの頭部》 / 1950年頃 / 鉛筆、ワックス・クレヨン、クレヨン、水彩、ペンとインク、グワッシュ・紙 / 35.0×27.4cm
26. ザオ・ウーキー 《サヴァンナ(草原)》 / 1952年 / 水彩、ペンとインク・紙 / 33.2×37.4cm
27. ピエール・アレシンスキー 《木の根》 / 1954年 / 水彩、ペンとインク・紙 / 31.8×47.9cm
28. 浅井忠 《ヴェネツィア》 / 1902年 / 水彩・紙 / 36.2×25.1cm
29. 原田直次郎 《外国の男》 / 1889年 / 鉛筆、ペンとインク・紙 / 27.5×24.5cm
30. 原田直次郎 《風景》 / 水彩・紙 / 9.3×22.6cm
31. 藤島武二 《裸婦》 / 1906-07年 / 鉛筆・紙 / 31.1×23.8cm
32. 藤島武二 《臥裸婦》 / 1906-07年 / 鉛筆・紙 / 23.8×31.1cm

-
33. 山下新太郎《婦人像》/ 1906年 / 木炭・紙 / 31.9×24.0cm
 34. 山下新太郎《パリの画室にて》/ 1908年 / 鉛筆・紙 / 18.3×10.7cm
 35. 山下新太郎《靴の女》/ 1910年 / 鉛筆, 水彩・紙 / 16.0×11.6cm
 36. 青木繁《子守》/ 1904年頃 / 鉛筆・紙 / 17.2×10.6cm
 37. 安井曾太郎《馬（『徳田秋声選集』表紙絵）》/ 1948年 / 鉛筆, グワッシュ, コラージュ, 墨・厚紙 / 18.7×29.0cm / 個人蔵
 38. 岸田劉生《麗子坐像》/ 1920年 / 水彩・紙 / 34.5×47.5cm
 39. 猪熊弦一郎《犬》/ 1954年 / ペンと墨, 水彩, グワッシュ・紙 / 47.3×62.5cm / 石橋財団石橋美術館
 40. 猪熊弦一郎《犬と猫》/ 1954年 / 筆と墨, ペンと墨, 水彩, 鉛筆・紙 / 50.3×65.0cm / 石橋財団石橋美術館
 41. 猪熊弦一郎《夜の猫》/ 1954年 / 水彩, ペンとインク, 墨, グワッシュ, 鉛筆・紙 / 42.3×54.4cm
 42. 香月泰男《えさやり》/ 墨, パステル, 鉛筆・紙 / 52.5×31.9cm

* 所蔵の標記のない作品は、すべてブリヂストン美術館蔵。

リクエスト月間一贋作だってお見せします…

2000年8月30日(水)－10月1日(日)

会場：第1室－第3室

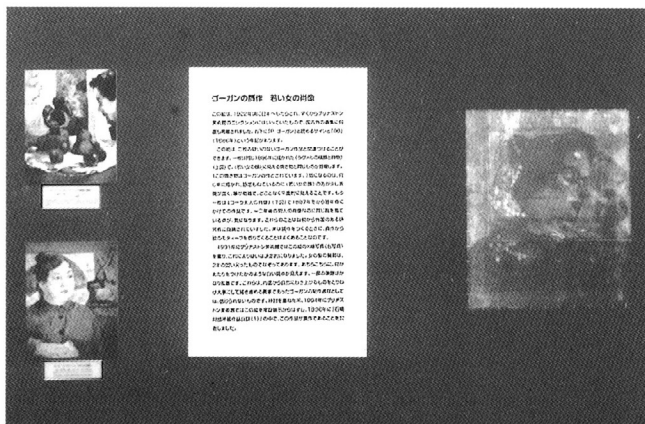
出品内容：絵画47点、版画15点、彫刻3点、ガラス2点 計67点

入場者総数：7,932人（1日平均 274人）

担当＝宮崎克己、塚田美香子

出品目録：

1. エジプト(ファイユーム)《婦人のミイラ肖像》/ 1世紀 / 蠟画・板 / 26.2×12.4cm
2. 中国《仏頭》/ 唐時代 / 石 / H.11.8cm
3. 北部フランス《キリストの顔》/ 14世紀 / 木 / H.39.0cm
4. 三連祭壇画《デイシス図》/ ビザンティン様式 / テンペラ・板 / 40.0×58.0cm
5. レンブラント・ファン・レイン《聖書あるいは物語に取材した夜の情景》/ 1626-28年 / 油彩・銅板 / 22.1×17.1cm
6. ジャン＝バティスト・パテル《水浴》/ 油彩・カンヴァス / 56.7×65.5cm
7. カミュー・コロー《イタリアの女》/ 1826-28年 / 油彩・カンヴァス / 33.4×21.3cm
8. カミュー・コロー《オルレアン風景》/ 1845-50年 / 油彩・板 / 26.9×37.3cm
9. ジャン＝フランソワ・ミレー《乳しぼりの女》/ 1854-60年 / 油彩・カンヴァス / 59.0×72.4cm
10. ギュスターヴ・クールベ《石切り場の雪景色》/ 1870年頃 / 油彩・カンヴァス / 43.0×60.2cm
11. ジョン・ラスキン《ばら》/ 油彩・鉄板 / 28.6×35.8cm
12. ジョージ・スミス《婦人像》/ 1866年 / 油彩・板 / 56.0×40.1cm
13. アルフレッド・シスレー《サン＝マメスのラ・クロワ＝ブランシュ》/ 油彩・カンヴァス / 54.4×73.5cm
14. ポール・セザンヌ《鉢と牛乳入れ》/ 1873-77年 / 油彩・カンヴァス / 20.0×18.1cm
15. オディロン・ルドン《ステファン・マルメの『骰子一擲』のための挿絵》/ 1900年 / リトグラフ / 30.0×24.5cm (image); 38.1×28.1cm (paper)
16. クロード・モネ《アルジャントウイユ》/ 1874年 / 油彩・カンヴァス / 43.0×70.0cm
17. クロード・モネ《霧のテムズ河》/ 1899-1901年 / パステル・紙 / 31.1×48.0cm
18. モネの贋作《セーヌ河》/ 油彩・カンヴァス / 21.7×26.3cm
19. ビエール＝オーギュスト・ルノワール《裸婦》/ 1908年 / コンテ・紙 / 31.9×17.2cm
20. ビエール＝オーギュスト・ルノワール《青帽子の女》/ 1917年頃 / 油彩・カンヴァス / 25.7×23.3cm
21. エミール・ガレ《蜻蛉文花瓶》/ 1880-1900年頃 / ガラス / H.27.9cm
22. エミール・ガレ《野草文花瓶》(一対) / ガラス / H.38.3cm
23. ゴーガンの贋作《若い女の顔》/ 油彩・カンヴァス / 46.0×38.2cm



ゴーガンの贋作 解説パネル (右はX線写真)



23. ゴーガンの贋作《若い女の顔》

-
24. エドヴァルト・ムンク 《病める少女》/ 1894年 / ドライポイント, ルーレット / 36.0×26.7cm(image); 59.8×44.1cm (paper)
25. アンリ・ド・トゥルーズ=ロートレック 《ムーラン・ルージュ, ラ・グーリュ》/ 1891年 / リトグラフ / 166.9×123.0cm (image)
26. アンリ・ド・トゥルーズ=ロートレック 《エグランティエヌ嬢一座》/ 1896年 / リトグラフ / 61.6×79.3cm(image); 61.9×79.3cm(paper)
27. アンリ・マティス 《静物》/ 1903年 / 油彩・カンヴァス / 7.0×9.0cm / 個人蔵
28. アンリ・マティス 《オダリスク》/ 1926年 / 油彩・カンヴァス / 55.5×46.8cm
29. モーリス・ドニ 《パッカス祭》/ 1920年 / 油彩・カンヴァス / 99.2×139.5cm
30. ジョルジュ・ルオー 《芝居の呼込》/ 1906年 / 油彩・紙 / 28.1×45.0cm / 個人蔵
31. ジョルジュ・ルオー 《赤鼻のクラウン》/ 1925-29年 / 油彩・紙 / 75.0×52.0cm / 個人蔵
32. ジョルジュ・ルオー 《裁判所のキリスト》/ 1935年 / 油彩・紙 / 75.0×105.0cm / 個人蔵
33. ジョルジュ・ルオー 《エルサレムへの途上》/ 1953年 / 油彩・紙 / 70.0×55.0cm / 個人蔵
34. シャルル・デスビオ 《クラ=クラ》/ 1919年 / ブロンズ / H.27.0cm
35. アルベール・マルケ 《道行く人, ラ・フレット》/ 1946年 / 油彩・カンヴァス / 54.0×65.1cm
36. ラウル・デュフィ 《ボワレの服を着たモデルたち, 1923年の競馬場》/ 1943年 / 油彩・カンヴァス / 45.6×109.8cm
37. ラウル・デュフィ 《ドーヴィルの突堤》/ 油彩・カンヴァス / 54.3×80.9cm
38. ケース・ヴァン・ドンゲン 《シャンゼリゼ大通り》/ 1924-25年 / 油彩・カンヴァス / 68.0×52.2cm
39. パウル・クレー 《ホフマン風物語の情景》/ 1921年 / リトグラフ / 31.7×23.0cm(image); 35.2×26.5cm(paper)
40. アンドレ・ドラン 《聖母子》/ 1913年頃 / 油彩・板 / 27.0×21.6cm
41. パブロ・ピカソ 《カップとスプーン》/ 1922年 / 油彩・カンヴァス / 16.0×27.2cm
42. パブロ・ピカソ 《『ヴォラルのための連作集』96 鳩を持った少女に導かれる盲目のミノタウロス》/ 1934年 / エッチング / 23.8×29.8cm(image); 34.0×45.0cm(paper)
43. パブロ・ピカソ 《茄子》/ 1946年 / 油彩, グワッシュ・紙 / 51.1×66.2cm
44. モーリス・ユトリロ 《サン=ドニ運河》/ 1906-08年 / 油彩・紙 / 53.4×74.5cm
45. モーリス・ユトリロ 《パリのアンジュエ河岸》/ 1929年 / 油彩・カンヴァス / 100.0×81.3cm
46. モーリス・ユトリロ 《ムーランド・ラ・ギャレット》/ 1933年 / 鉛筆, パステル・厚紙 / 26.4×30.0cm
47. マリー・ローランサン 《女と犬》/ 1923年頃 / 油彩・カンヴァス / 81.1×65.2cm
48. マリー・ローランサン 《手鏡を持つ女》/ 1937年頃 / 油彩・カンヴァス / 46.3×38.4cm
49. アメデオ・モディリアーニ 《D氏の肖像》/ 鉛筆・紙 / 42.3×26.0cm
50. ベン・シャーン 《『リルケ「マルテの手記」より 一行の詩のために…』VI 小さな草花のたたずまい》/ 1968年刊行 / リトグラフ / 44.2×37.0cm(image); 57.4×44.8cm(paper)
51. ベン・シャーン 《『リルケ「マルテの手記」より 一行の詩のために…』XVI 星くずとともに消え去った旅寝の夜々》/ 1968年刊行 / リトグラフ / 44.7×41.2cm(image); 57.3×45.2cm(paper)
52. アルベルト・ジャコメッティ 《アンネットの顔》/ 1955年 / エッチング / 20.8×6.0cm(image); 43.1×21.7cm (paper)
53. ジャン・デュビュッフェ 《暴動》/ 1961年 / 油彩・カンヴァス / 105.0×80.8cm
54. ベルナール・ビュッフェ 《アナベル夫人像》/ 1961年 / 油彩・カンヴァス / 130.5×97.5cm
55. 黒田清輝 《杣》/ 1912年頃 / 油彩・カンヴァス / 80.4×60.5cm
56. 藤田嗣治 《巴里風景》/ 1918年 / 油彩・カンヴァス / 46.0×55.2cm
57. 藤田嗣治 《横たわる女と猫》/ 1932年 / 油彩・カンヴァス / 65.0×100.0cm
58. 藤田嗣治 《カルポーの公園》/ 1940年 / 油彩・カンヴァス / 31.8×40.9cm
59. 岸田劉生 《麗子像》/ 1922年 / テンペラ・カンヴァス / 41.0×31.9cm
60. 猪熊弦一郎 《Sky Triangle》/ 1968年 / 油彩・カンヴァス / 127.2×102.0cm
61. 猪熊弦一郎 《スペース旅行基地》/ 1986年 / 油彩・カンヴァス / 111.8×96.0cm
62. 浜口陽三 《『6枚のカラー・メゾチント』さくらんぼ》/ 1978年 / メゾチント / 11.5×11.5cm(image); 28.4×19.1cm (paper)
63. 柄沢齊 《『古生代の夢』1 海百合花》/ 1977年 / 木口木版 / 12.7×4.2cm(image); 28.4×19.2cm(paper)
64. 柄沢齊 《『古生代の夢』2 放散虫》/ 1977年 / 木口木版 / 7.1×7.0cm(image); 28.4×19.2cm(paper)
-

-
65. 柄沢齊《『古生代の夢』3 菌朶》/ 1977年 / 木口木版 / 12.7×3.6cm(image); 28.4×19.2cm(paper)
66. 柄沢齊《『古生代の夢』4 菊石》/ 1977年 / 木口木版 / 6.7×8.6cm(image); 28.3×19.1cm(paper)
67. 柄沢齊《『古生代の夢』5 甲冑魚》/ 1977年 / 木口木版 / 14.4×4.3cm(image); 28.3×19.1cm(paper)

* 所蔵の標記のない作品は、すべてブリヂストン美術館蔵。

リクエスト集計：

募集期間5月初旬～8月17日のうち応募総数379件(人)、作品総数241点

藤田嗣治《横たわる女と猫》	30人
ルオー《裁判所のキリスト》	25人
モネ《アルジャントゥイユ》	16人
ユトリロ《ムーラン・ド・ラ・ギャレット》	14人
モネの贋作《セーヌ河》	14人
モネ《霧のテームズ河》	14人
セザンヌ《鉢と牛乳入れ》	12人
ルノワール《青帽子の女》	12人
ルオー《エルサレムへの途上》	12人
ルノワール《水浴の女》	11人

* 応募人数 (第1希望+第2希望)

広報記録：

新聞・雑誌：

- 「Arts ブリヂストン美術館ワケありの秘蔵公開」『週刊新潮』2000年7月6日号
「愛する作品とデートする方法を教えます」『新美術新聞』no.901, 2000年8月1日
「ブリヂストン美術館の『リクエスト月間』展」『朝日新聞』2000年9月17日
「文化往来 館蔵品の見たい作品を募り展覧会」『日本経済新聞』2000年9月18日
“Arts weekend, Poll brings surprises out of the closet” *The Daily Yomiuri*, September 21, 2000
「Stardust ブリヂストン美術館の太っ腹『リクエスト月間』展」『芸術新潮』10月号, 2000年

テレビ：

- 「リクエスト月間」『NHKニュース10』NHKテレビ, 2000年8月17日 放送
「アートシーン『リクエスト月間』展」『新日曜美術館』NHK教育テレビ, 2000年9月17日 放送
「ニュースジョッキー」衛星チャンネル朝日ニュースター, 2000年9月20日 放送

<特別展示>

東京国立近代美術館所蔵

近代の名作 日本画・洋画・版画・彫刻

2000年4月8日(土)－5月7日(日)

会場：石橋美術館，石橋美術館別館

主催：石橋財団石橋美術館，石橋財団石橋美術館別館，

東京国立近代美術館

後援：久留米市，財団法人久留米文化振興会

出品内容：東京国立近代美術館所蔵の日本画29点，

洋画42点，版画10点，彫刻5点 計86点

入場者総数：8,480人（1日平均 326人）

担当＝植野健造



42. 岸田劉生 《麗子肖像(麗子五歳之像)》

出品目録：

I. 日本画

1. 下村観山《木の間の秋》/ 1907年 / 紙本彩色，二曲一双屏風装 / (各)169.5×170.0cm / cat.no.1
2. 菱田春草《賢首菩薩》/ 1907年 / 絹本彩色，掛軸装 / 185.7×99.5cm / 重要文化財 / cat.no.2
3. 小林古徑《極楽井》/ 1912年 / 絹本彩色，掛軸装 / 193.5×100.8cm / cat.no.3
4. 富岡鉄斎《東坡三養図》/ 1921年 / 紙本墨画淡彩，掛軸装 / 132.0×49.5cm / cat.no.4
5. 小茂田青樹《出雲江角港》/ 1921年 / 紙本彩色，掛軸装 / 38.5×59.0cm / cat.no.5
6. 速水御舟《茶碗と果実》/ 1921年 / 絹本彩色，掛軸装 / 27.0×24.0cm / cat.no.6
7. 川端龍子《盗心》/ 1923年 / 絹本墨画，掛軸装 / 82.6×113.2cm / cat.no.7
8. 富岡鉄斎《蓬莱仙境図》/ 1924年 / 紙本墨画淡彩，掛軸装 / 140.5×37.5cm / cat.no.8
9. 横山大観《東山》/ 1924年 / 絹本墨画，掛軸装 / 68.5×101.0cm / cat.no.9
10. 土田麦僊《舞妓林泉》/ 1924年 / 絹本彩色，額装 / 217.7×102.0cm / cat.no.10
11. 竹内栖鳳《宿鴨宿鴉》/ 1926年 / 紙本墨画，掛軸装 / 92.0×116.0cm / cat.no.11
12. 小川芋銭《荒園晴秋》/ 1928年 / 紙本彩色，掛軸装 / 60.0×104.0cm / cat.no.12
13. 平幅百穂《堅田の一休》/ 1929年 / 紙本彩色，掛軸装 / 86.0× 83.0cm / cat.no.13
14. 鐙木清方《三遊亭円朝像》/ 1930年 / 絹本彩色，額装 / 138.5×76.0cm / cat.no.14
15. 菊池契月《涅槃》/ 1933年 / 紙本彩色，額装 / 159.5×76.5cm / cat.no.15
16. 上村松園《母子》/ 1934年 / 絹本彩色，額装 / 168.0×115.5cm / cat.no.16
17. 村上華岳《空山清高之図》/ 1935年頃 / 紙本彩色，掛軸装 / 34.5×55.5cm / cat.no.17
18. 松林桂月《春宵花影図》/ 1939年 / 絹本墨画，掛軸装 / 119.3×134.5cm / cat.no.18
19. 川合玉堂《彩雨》/ 1940年 / 絹本彩色，掛軸装 / 87.7×116.7cm / cat.no.19
20. 前田青邨《激流》/ 1944年 / 紙本彩色，掛軸装 / 63.5× 87.0cm / cat.no.20
21. 東山魁夷《道》/ 1950年 / 絹本彩色，額装 / 134.4×102.2cm / cat.no.23
22. 小倉遊亀《O夫人坐像》/ 1958年 / 紙本彩色，額装 / 129.0×103.0cm / cat.no.25
23. 安田靫彦《伏見の茶亭》/ 1956年 / 紙本彩色，掛軸装 / 109.3×117.5cm / cat.no.28
24. 徳岡神泉《赤松》/ 1956年 / 紙本彩色，額装 / 157.5×139.5cm / cat.no.29
25. 杉山寧《孔雀》/ 1956年 / 紙本彩色，額装 / 183.5×152.5cm / cat.no.30

-
26. 加山又造《冬》/ 1957年 / 紙本彩色, 額装 / 128.5×191.5cm / cat.no.31
27. 横山操《ウォール街》/ 1962年 / 紙本彩色, 額装 / 271.5×136.5cm / cat.no.33
28. 奥村土牛《閑日》/ 1974年 / 紙本彩色, 額装 / 73.0×100.0cm / cat.no.36
29. 高山辰雄《いだく》/ 1977年 / 紙本彩色, 額装 / 194.5×181.0cm / cat.no.37

II. 洋画

30. 黒田清輝《落葉》/ 1891年 / 油彩・キャンバス / 80.8×63.8cm / cat.no.38
31. 石井柏亭《草上の小憩》/ 1904年 / 油彩, バステル・キャンバス / 92.0×137.5cm / cat.no.39
32. 中沢弘光《夏》/ 1907年 / 油彩・キャンバス / 81.2×60.7cm / cat.no.40
33. 和田三造《南風》/ 1907年 / 油彩・キャンバス / 151.5×182.4cm / cat.no.41
34. 和田英作《おうな》/ 1908年 / 油彩・キャンバス / 94.0×136.5cm / cat.no.42
35. 山本森之助《曲浦》/ 1908年 / 油彩・キャンバス / 60.5×81.0cm / cat.no.43
36. 山下新太郎《靴の女》/ 1910年 / 油彩・キャンバス / 71.7×59.8cm / cat.no.44
37. 小杉未醒(放庵)《水郷》/ 1911年 / 油彩・キャンバス / 161.0×107.0cm / cat.no.45
38. 萬鉄五郎《裸体美人》/ 1912年 / 油彩・キャンバス / 162.0×97.0cm / cat.no.46
39. 川上涼花《鉄路》/ 1912年 / 油彩・キャンバス / 59.0×44.0cm / cat.no.47
40. 藤島武二《うつつ》/ 1913年 / 油彩・キャンバス / 64.0×52.0cm / cat.no.48
41. 村山槐多《バラと少女》/ 1917年 / 油彩・キャンバス / 116.5×72.0cm / cat.no.49
42. 岸田劉生《麗子肖像(麗子五歳之像)》/ 1918年 / 油彩・キャンバス / 45.3×38.0cm / cat.no.50
43. 中村彝《エロシェンコ氏の像》/ 1920年 / 油彩・キャンバス / 45.5×47.2cm / 重要文化財 / cat.no.51
44. 古賀春江《観音》/ 1921年 / 油彩・キャンバス / 91.0×72.5cm / cat.no.52
45. 神原泰《スクリアピンの「エクスタシーの詩」に題す》/ 1922年 / 油彩・布 / 114.6×89.6cm / cat.no.53
46. 岡本唐貴《制作》/ 1924年 / 油彩, デトランプ・綿布 / 106.0×72.3cm / cat.no.54
47. 清水登之《街の掃除夫》/ 1925年 / 油彩・キャンバス / 81.0×65.0cm / cat.no.55
48. 石垣栄太郎《二階つきバス》/ 1926年 / 油彩・キャンバス / 76.5×61.0cm / cat.no.56
49. 佐伯祐三《モランの寺》/ 1928年 / 油彩・キャンバス / 60.0×73.0cm / cat.no.57
50. 国吉康雄《秋のたそがれ》/ 1929年 / 油彩・キャンバス / 102.0×143.0cm / cat.no.58
51. 福沢一郎《Poisson d'Avril (四月馬鹿)》/ 1930年 / 油彩・キャンバス / 80.3×116.5cm / cat.no.59
52. 長谷川利行《鉄工場の裏》/ 1931年 / 油彩・キャンバス / 46.0×61.0cm / cat.no.60
53. 安井曾太郎《金蓉》/ 1934年 / 油彩・キャンバス / 96.5×74.5cm / cat.no.61
54. 三岸好太郎《雲の上を飛ぶ蝶》/ 1934年 / 油彩・キャンバス / 91.6×60.6cm / cat.no.62
55. 野田英夫《帰路》/ 1935年 / 油彩・キャンバス / 97.0×146.0cm / cat.no.63
56. 坂本繁二郎《水より上る馬》/ 1937年 / 油彩・キャンバス / 80.0×116.2cm / cat.no.64
57. 北脇昇《空港》/ 1937年 / 油彩・キャンバス / 72.5×60.5cm / cat.no.65
58. 村井正誠《CITÉ》/ 1938年 / 油彩・キャンバス / 60.7×72.7cm / cat.no.66
59. 鬚光《眼のある風景》/ 1938年 / 油彩・キャンバス / 102.0×193.5cm / cat.no.67
60. 今西中通《静物》/ 1940年 / 油彩・キャンバス / 60.0×72.7cm / cat.no.68
61. 松本竣介《ニコライ堂と聖橋》/ 1941年 / 油彩・板 / 37.7×45.0cm / cat.no.69
62. 梅原龍三郎《北京秋天》/ 1942年 / 油彩, 岩絵具・紙 / 88.5×72.5cm / cat.no.70
63. 香月泰男《水鏡》/ 1942年 / 油彩・キャンバス / 72.3×116.5cm / cat.no.71
64. 須田国太郎《犬》/ 1950年 / 油彩・キャンバス / 91.0×73.3cm / cat.no.72
65. 山口薫《母子》/ 1951年 / 油彩・キャンバス / 80.0×65.0cm / cat.no.73
66. 石井茂雄《戒厳状態》/ 1956年 / 油彩・キャンバス / 182.0×227.5cm / cat.no.74
67. 瑛九《れいめい》/ 1957年 / 油彩・キャンバス / 80.3×65.2cm / cat.no.75
68. 難波田龍起《発生》/ 1959年 / 油彩・キャンバス / 130.5×162.0cm / cat.no.76
69. 麻生三郎《母子像》/ 1959年 / 油彩・キャンバス / 90.0×71.5cm / cat.no.77
70. 山口長男《転》/ 1961年 / 油彩・合板 / 182.0×182.3cm / cat.no.78
71. オノサト・トシノブ《作品》/ 1962年 / 油彩・キャンバス / 130.5×193.5cm / cat.no.79
-

III. 版画

72. 橋口五葉《ゆあみ》/ 1915年 / 木版(多色)・紙 / 40.0×26.5cm / cat.no.80
73. 川瀬巴水《曇り日の矢口》/ 1919年 / 木版(多色)・紙 / 45.5×16.6cm / cat.no.81
74. 山本鼎《ブルトンス》/ 1920年 / 木版(多色)・紙 / 36.8×28.7cm / cat.no.82
75. 織田一磨《水亭夜曲》/ 1927年 / リトグラフ・紙 / (中央)54.5×39.7cm; (左・右)54.5×18.2cm / cat.no.83
76. 藤牧義夫《赤陽》/ 1934年 / 木版(多色), 手彩色, コラージュ・紙 / 41.0×27.0cm / cat.no.84
77. 谷中安規《春の自転車》/ 1937-39年頃 / 木版(多色)・紙 / 20.7×26.7cm / cat.no.85
78. 恩地孝四郎《『氷島』の著者(萩原朔太郎像)》/ 1943年 / 木版(多色)・紙 / 55.4×44.0cm / cat.no.86
79. 駒井哲郎《束の間の幻影》/ 1951年 / 銅版・紙 / 17.5×28.5cm / cat.no.87
80. 浜口陽三《パリの屋根》/ 1956年 / 銅版・紙 / 18.4×18.5cm / cat.no.88
81. 長谷川潔《草花とアカリヨム(アカリヨムの前の草花)》/ 1969年 / 銅版・紙 / 26.4×35.4cm / cat.no.89

IV. 彫刻

82. 萩原守衛《坑夫》/ 1907年 / ブロンズ / H.47.5cm / cat.no.90
83. 高村光太郎《手》/ 1923年 / ブロンズ / H.38.6cm / cat.no.91
84. 仲田定之助《首》/ 1924年 / 白銅 / H.40.5cm / cat.no.92
85. 舟越保武《萩原朔太郎像》/ 1955年 / ブロンズ / H.25.5cm / cat.no.93
86. 柳原義達《風の中の鴉》/ 1982年 / ブロンズ / H.58.0cm / cat.no.94

関連事業:

開催記念美術講座 → p.32

広報記録:

新聞・雑誌:

- 「東京国立近代美術館所蔵『近代の名作 日本画・洋画・版画・彫刻』」『朝日新聞』2000年3月30日(全面広告版)
「展覧会から 東京国立近代美術館の名作86点ずらり」『西日本新聞』2000年3月30日 夕刊
「『近代の名作』展から」(1)~(7)『西日本新聞』2000年4月16日, 17日, 18日, 19日, 20日, 22日, 23日(筑後版)
「近代の名作一堂に」『毎日新聞』2000年4月16日

<特集展示>

安井曾太郎の『文藝春秋』表紙絵

2000年5月12日(金)－7月30日(日)

会場：第6室－第8室

主催：石橋財団石橋美術館

後援：久留米市 / 財団法人久留米文化振興会

協力：株式会社文藝春秋

出品内容：『文藝春秋』表紙絵の原画76点、『別冊文藝春秋』表紙絵の

原画10点 計86点

入場者総数：7,228人（1日平均 105人）

担当＝森山秀子



展覧会ポスター

出品目録：

* 館報48号(1999年度) p.6－8 参照。

関連事業：

開催記念美術講座 → p.32

広報記録：

新聞・雑誌：

「展覧会から 安井曾太郎を特集『文芸』の表紙絵86点」『西日本新聞』2000年5月11日 夕刊

「文芸誌の表紙絵ざらり」『朝日新聞』2000年5月13日(筑後版)

「安井曾太郎の魅力探る『文芸春秋』表紙絵展」『西日本新聞』2000年5月15日

「安井曾太郎の表紙絵原画『文芸』飾った86点展示」『読売新聞』2000年6月3日



展示会場風景

『レスタンプ・オリジナル—世紀末フランスの版画革命』

会期：2000年8月3日(木)－10月1日(日)

会場：第5室－第8室

主催：石橋財団石橋美術館

後援：久留米市、財団法人久留米文化振興会

出品内容：ブリヂストン美術館所蔵の76作家による96点の版画

入場者総数：4,868人（1日平均 94人）

担当＝植野健造



II-52. ウジェーヌ・グラッセ 《硫酸魔》

出品目録：

I. 参考出品

レスタンプ・オリジナル協会版『レスタンプ・オリジナル』第1号

1885年5月刊

1. フェリックス・ブラックモン 《レオン・クラデルの肖像》/ エッチング、アクアチント / 31.6×25.7cm
2. ダニエル・ヴィエルジュ 《習作》/ 1888年 / エッチング / 26.8×19.2cm
3. トニー・ベルトラン 《独楽を見つめる子ども》/ 木口木版 / 19.5×19.8cm
4. トニー・ベルトラン 《子どもの習作》/ 木口木版 / 19.8×39.2cm
5. アンリ・ブテ 《舗道にて》/ ドライポイント、アクアチント / 28.3×10.4cm
6. アンリ・ブテ 《パリの街角、夜》/ ドライポイント、アクアチント / 39.6×16.1cm
7. アンリ＝バトリス・ディヨン 《アトリエの情景》/ リトグラフ / 22.5×32.1cm
8. アンリ＝バトリス・ディヨン 《綺想》/ リトグラフ / 30.4×18.9cm
9. オーギュスト＝レイ・ルペール 《モンターニュ＝サント＝ジュヌヴィエーヴ通り》/ 木口木版 / 31.1×13.7cm
10. オーギュスト＝レイ・ルペール 《オーステルリッツ橋から望むセーヌ河》/ 木口木版 / 17.0×27.0cm

II. アンドレ・マルティ版『レスタンプ・オリジナル』

1893-95年刊

1. アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック 《『レスタンプ・オリジナル』第1年次の表紙》/ 1893年 / リトグラフ / 56.3×64.3cm
2. ジョルジュ・オリオール 《『レスタンプ・オリジナル』の序文装飾》/ 木版 / 6.6×21.1cm
3. ルイ・アンクタン 《騎士と乞食》/ 1893年 / リトグラフ / 36.7×50.1cm
4. ピエール・ボナール 《家族の情景》/ 1893年 / リトグラフ / 31.3×17.8cm
5. モーリス・ドニ 《慈愛》/ リトグラフ / 30.1×25.2cm
6. シャルル・モラン 《トゥールーズ＝ロートレックの肖像》/ エッチング、アクアチント / 22.8×13.7cm
7. ポール＝エリー・ランソン 《密林の虎》/ リトグラフ / 36.7×28.5cm
8. ケル＝グザヴィエ・ルーセル 《雪の中で》/ リトグラフ / 33.0×19.5cm
9. フェリックス・ヴァロットン 《街頭デモ》/ 木版 / 20.4×32.1cm

-
10. エドゥワール・ヴューヤール 《室内》/ リトグラフ / 27.9×22.8cm
 11. ジョルジュ・オリオール 《ざわめく森》/ リトグラフ / 49.8×32.6cm
 12. アンリ・ブテ 《パリの女》/ エッチング, アクアチント, ドライポイント, ルーレット / 49.5×27.4cm
 13. シャルル＝マリー・デュラック 《風景》/ リトグラフ / 31.4×48.3cm
 15. シャルル・ギュー 《洪水》/ リトグラフ / 20.9×29.1cm
 16. アンリ・ラシュ 《装飾パネル》/ リトグラフ / 48.5×29.8cm
 17. ジャン＝フランソワ・ラファエリ 《自画像》/ ドライポイント / 19.0×15.9cm
 18. オディロン・ルドン 《耳の細胞》/ リトグラフ / 26.8×25.0cm
 19. オーギュスト・ロダン 《アンリ・ベックの肖像》/ 1883-87年頃 / ドライポイント / 15.9×20.3cm
 20. ポール・セリュジェ 《風景》/ リトグラフ / 23.3×30.3cm
 21. アルベール・ベナール 《闖入者》/ 1893年 / リトグラフ / 36.0×46.0cm
 22. アンリ＝バトリス・ディヨン 《マンドリン弾き》/ リトグラフ / 18.5×30.8cm
 23. アンリ・ファンタン＝ラトゥール 《聖アントニウスの誘惑》/ リトグラフ / 32.6×40.2cm
 24. オーギュスト＝ルイ・ルベール 《洗濯女》/ ソフトグランド・エッチング, アクアチント, ルーレット / 39.4×22.8cm
 25. アレクサンドル・リュノワ 《あかり》/ リトグラフ / 32.8×27.2cm
 26. ヴィクトール・ブルヴェ 《猛禽》/ エッチング, アクアチント / 22.4×41.0cm
 27. カルロス・シュヴァーブ 《受胎告知》/ 1893年 / リトグラフ / 25.9×36.5cm
 28. ヴィクトール・ヴィニョン 《牛》/ エッチング / 25.1×27.0cm
 29. アドルフ・レオン・ヴィレット 《運命の女神》/ リトグラフ / 25.5×24.7cm
 30. フェリックス・ブラックモン 《ツァー万歳》/ エッチング / 32.8×22.6cm
 31. ジュール・シェレ 《ダンス》/ リトグラフ / 37.0×23.1cm
 32. アンリ・ド・グルー 《旗手》/ リトグラフ / 27.7×21.8cm
 33. ビエール・ビュヴィス・ド・シャヴァンヌ 《ノルマンディー》/ 転写リトグラフ / 46.2×38.8cm
 35. ビエール・ロッシュ 《海藻》/ ジブソタイプ / 16.8×10.3cm
 36. アンリ・リヴィエール 《波》/ リトグラフ / 29.3×46.3cm
 37. フェリシアン・ロップス 《悲しみの母》/ ドライポイント, エッチング / 13.6×10.3cm
 38. ジェイムス・マクニール・ホイッスラー 《踊り子》/ 転写リトグラフ / 22.0×17.0cm
 39. カミュー・マルタン 《『レスタンブ・オリジナル』の第2年次の表紙》/ リトグラフ / 58.5×85.3cm
 40. エミール・ベルナル 《磔刑》/ 木版 / 35.3×15.0cm
 41. エルネスト＝アンジュ・デュエス 《花》/ ドライポイント / 40.8×19.0cm
 42. ノルベール・グヌート 《女の肖像》/ 1894年 / リトグラフ / 53.3×25.7cm
 43. ポール＝セザール・エルー 《もの思い》/ ドライポイント / 28.2×20.0cm
 44. アントニオ・ド・ラ・ガンダラ 《座る女》/ リトグラフ / 25.5×11.4cm
 45. カミュー・ピサロ 《オスニー風景》/ 1887年 / ドライポイント / 11.5×15.6cm
 46. リュシアン・ピサロ 《子供たちの輪舞》/ 1893年 / 木版 / 20.8×15.9cm
 47. アンリ・ソム 《パリの女》/ ドライポイント / 24.5×16.9cm
 48. テオドル・ピエール・ヴェグネール 《夢》/ リトグラフ / 31.3×23.8cm
 49. ジョルジュ・ド・フル 《悪の泉》/ リトグラフ / 34.9×25.1cm
 50. ウジェーヌ・ドラートル 《ユイスマンスの肖像》/ エッチング, アクアチント, ルーレット / 32.2×24.6cm
 51. ポール・ゴーガン 《マナオ・トゥパバウ (死霊が見ている)》/ リトグラフ / 18.1×27.3cm
 52. ウジェーヌ・グラッセ 《硫酸魔》/ 写真凸版, ステンシルによる手彩色 / 40.0×27.6cm
 53. アンリ＝シャルル・ゲラル 《霧の中の船》/ ルーレット / 14.8×20.4cm
 54. エルマン＝ポール 《帽子屋の女たち》/ リトグラフ / 24.7×35.6cm
 55. アンリ＝ギュスターヴ・ジョソ 《波》/ リトグラフ / 53.1×35.5cm
 56. マクシミリアン・リュス 《梳る女》/ 転写リトグラフ / 43.2×30.8cm
 57. アンリ・ド・トゥルーズ＝ロートレック 《アンバサドゥールにて》/ リトグラフ / 30.4×24.6cm
 58. フィリップ＝シャルル・ブラーシュ 《黄昏》/ 1894年 / リトグラフ / 36.7×25.4cm
 59. シャルル・ラコスト 《ポートランド広場》/ リトグラフ / 24.9×32.5cm
 60. ジョルジュ・マンザナ＝ピサロ 《いたずら七面鳥》/ 木版 / 21.5×22.6cm
-

-
61. ヴィクトール・ブルヴェ 《阿片》/ 1894年 / リトグラフ, 空押し / 55.2×40.3cm
 62. チャールズ・リケッツ 《大洪水》/ 木口木版 / 8.7×9.5cm
 63. アルマン・セガン 《風景》/ エッチング, アクアチント, ルーレット / 23.0×22.7cm
 64. チャールズ・ヘイゼルウッド・シャノン 《女と猫》/ リトグラフ / 21.5×25.3cm
 65. ポール・シニャック 《サン＝トロペ》/ リトグラフ / 27.6×36.8cm
 66. テオドール・ヴァン・レイセルベルヘ 《漁船》/ エッチング, アクアチント / 22.5×28.2cm
 67. アルベール・ベナール 《水浴》/ エッチング, アクアチント / 15.9×23.9cm
 68. シャルル＝マリー・デュラック 《木立》/ リトグラフ / 47.8×36.4cm
 69. シャルル＝ルイ・ウダール 《蛙》/ アクアチント / 26.1×40.0cm
 70. アンリ＝ガブリエル・イベルス 《舗装工事の男たち》/ エッチング / 27.4×15.4cm
 71. ウィリアム・ニコルソン 《橋の下》/ リトグラフ / 24.1×28.7cm
 72. リシャール・ランフト 《使い走りの娘たち》/ エッチング, アクアチント / 40.0×25.9cm
 73. シャルル・ポール・ルヌワール 《踊り子と母親》/ リトグラフ / 47.3×34.6cm
 74. ウィリアム・ローセンスタイン 《肖像》/ 1894年 / 転写リトグラフ / 19.2×15.0cm
 75. フェリックス・ヴァロットン 《入浴》/ 木版 / 18.2×22.5cm
 76. アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック 《『レスタンプ・オリジナル』最終号の表紙》/ 1895年 / リトグラフ / 59.3×81.5cm
 77. アルベール・ベナール 《読書する女》/ 1888年 / エッチング / 13.1×19.0cm
 78. ウジェーヌ・カリエール 《ネリー・カリエール》/ リトグラフ / 46.7×36.0cm
 79. ウォルター・クレイン 《シンバルを持つ踊り子》/ 1894年 / リトグラフ / 43.5×30.7cm
 80. アントニオ・ド・ラ・ガンダラ 《女の肖像》/ リトグラフ / 27.8×20.7cm
 81. コンスタンタン・ムニエ 《炭鉱夫》/ 転写リトグラフ / 34.5×53.9cm
 82. カミュー・ピサロ 《水浴の女たち》/ リトグラフ / 15.4×22.0cm
 83. ピエール・ピュヴィス・ド・シャヴァンヌ 《女性習作》/ 写真平版 / 30.9×15.1cm
 84. オディロン・ルドン 《仏陀》/ リトグラフ / 31.5×24.9cm
 85. ピエール＝オーギュスト・ルノワール 《水浴の女たち》/ エッチング / 26.2×24.1cm
 86. ピエール・ロッシュ 《山椒魚》/ リトグラフ / 24.4×18.8cm
 87. フェリシアン・ロップス 《柴を集める女》/ 1874年 / エッチング, ドライポイント / 27.3×17.0cm
 88. アドルフ・レオン・ヴィレット 《復讐》/ リトグラフ / 40.2×36.2cm

* 番号は図録の図版 no.を示す。14と34の2点は出品展示されていないため欠番となっている。寸法は画面部。

関連事業：

開催記念美術講座 → p.32

広報記録：

「来月必見 パリの薫り漂う版画『レスタンプ・オリジナル』展」『朝日新聞』7月25日
「『レスタンプ・オリジナル』展 19世紀末の仏版画集う」『西日本新聞』2000年8月5日(筑後版)
「ちくごありあけワイド ギャラリー レスタンプ・オリジナル—世紀末フランスの版画革命」『西日本新聞』2000年8月11日(筑後版)
「ちくごありあけワイド ギャラリー レスタンプ・オリジナル—世紀末フランスの版画革命」『西日本新聞』2000年9月8日(筑後版)
「さんさんネット 展覧会 レスタンプ・オリジナル—世紀末フランスの版画革命」『朝日新聞』2000年9月14日
「19世紀の仏版画集を紹介」『読売新聞』2000年9月26日(筑後版)

新収蔵・移管 名作選

会期：2001年1月23日(火)－4月22日(日)

会場：第7室、第8室

主催：石橋財団石橋美術館

後援：久留米市、財団法人久留米文化振興会

出品内容：1998年から2000年にかけての購入作品 4点、

寄贈受入作品13点、ブリヂストン美術館より

の移管作品25点 計42点

入場者総数：6,700人(1日平均 86人)

担当＝植野健造



3. 藤島武二《チョチャラ》

出品目録：

1. 浅井忠《ヴェネツィア》/ 1902年 / 水彩・紙 / 36.2×25.1cm / 移管
2. 藤島武二《噴水》/ 1908-09年 / 油彩・カンヴァスボード / 16.0×21.9cm / 移管
3. 藤島武二《チョチャラ》/ 1908-09年 / 油彩・カンヴァス / 45.5×38.0cm / 移管
4. 藤島武二《ボンベイ》/ 1908-09年 / 油彩・板 / 26.1×35.0cm / 移管
5. 藤島武二《雲(ローマ)》/ 1908-09年 / 油彩・カンヴァス / 22.1×38.1cm / 移管
6. 藤島武二《イタリアの海》/ 1908-09年 / 油彩・板 / 23.7×32.1cm / 移管
7. 藤島武二《浪(大洗)》/ 1931年 / 油彩・カンヴァス / 33.3×45.6cm / 移管
8. 藤島武二《日の出》/ 1931-33年頃 / 油彩・板 / 23.7×33.2cm / 移管
9. 藤島武二《日の出》/ 1931-33年頃 / 油彩・板 / 18.8×24.1cm / 移管
10. 藤島武二《屋島よりの遠望》/ 1932年 / 油彩・カンヴァス / 52.9×72.5cm / 移管
11. 藤島武二《旭光(新高山)》/ 1935年 / 油彩・カンヴァス / 38.0×45.8cm / 移管
12. 藤島武二《黄浦江》/ 1938年 / 水彩・紙 / 27.5×36.2cm / 移管
13. 山下新太郎《シュゼンヌ》/ 1909年 / 油彩・カンヴァス / 53.1×42.9cm / 移管
14. 山下新太郎《靴の女》/ 1910年 / 鉛筆、水彩・紙 / 16.0×11.6cm / 寄贈受入
15. 山下新太郎《端午》/ 1915年 / 油彩・カンヴァス / 55.3×46.0cm / 寄贈受入
16. 青木繁《車中風景》/ 1902年 / 鉛筆、淡彩・紙 / 14.9×19.0cm / 購入
17. 青木繁《海》/ 1904年 / 油彩・カンヴァス / 36.5×73.0cm / 購入
18. 青木繁《子守》/ 1904年頃 / 鉛筆・紙 / 17.2×10.6cm / 移管
19. 青木繁《晩帰》/ 1908年 / コンテ・紙 / 11.9×19.0cm / 購入
20. 坂本繁二郎《二馬》/ 1930年 / 鉛筆・紙 / 17.3×23.5cm / 寄贈受入
21. 坂本繁二郎《水より上る馬》/ 1935年 / 水彩・紙 / 15.8×21.4cm / 寄贈受入
22. 金山平三《習作・女》/ 1915-34年頃 / 油彩・カンヴァス / 91.2×72.9cm / 移管
23. 金山平三《港》/ 1945-56年頃 / 油彩・カンヴァス / 33.5×52.9cm / 移管
24. 藤田嗣治《横たわる女と猫》/ 1932年 / 油彩・カンヴァス / 65.0×100.0cm / 移管
25. 藤田嗣治《カルポーの公園》/ 1940年 / 油彩・カンヴァス / 31.8×40.9cm / 移管
26. 安井曾太郎《水車小屋》/ 1911年頃 / 油彩・カンヴァス / 38.0×46.5cm / 寄贈受入
27. 安井曾太郎《湯河原風景》/ 鉛筆、水彩・紙(スケッチブック) / 26.9×34.8cm / 寄贈受入
28. 安井曾太郎《上高地風景》/ 鉛筆、水彩・紙 / 28.2×36.3cm / 寄贈受入
29. 安井曾太郎《風景素描》/ 鉛筆・紙(スケッチブック) / 22.0×25.0cm / 寄贈受入
30. 牧野虎雄《ひまわり》/ 1929年 / 油彩・カンヴァス / 116.7×90.8cm / 移管
31. 高島野十郎《ベニスの昼》/ 1930-33年頃 / 油彩・カンヴァスボード / 22.7×15.6cm / 寄贈受入
32. 高島野十郎《筑紫観音寺》/ 1952年 / 油彩・カンヴァス / 45.6×52.9cm / 寄贈受入

-
33. 岸田劉生《画家の妻》/ 1914年 / 油彩・カンヴァス / 53.0×45.7cm / 移管
 34. 岸田劉生《麗子像》/ 1922年 / テンペラ・カンヴァス / 41.0×31.9cm / 移管
 35. 児島善三郎《立つ》/ 1928年 / 油彩・カンヴァス / 139.0×78.0cm / 購入
 36. 古賀春江《筑後川》/ 1914年頃 / 水彩・紙 / 51.4×61.8cm / 寄贈受入
 37. 古賀春江《自画像》/ 1916年 / 水彩・紙 / 14.3×9.0cm / 移管
 38. 古賀春江《美しき博覧会》/ 1926年 / 水彩・紙 / 38.4×56.5cm / 移管
 39. 佐伯祐三《広告貼り》/ 1927年 / 油彩・カンヴァス / 73.4×60.2cm / 移管
 40. 中西利雄《ピアノのある部屋》/ 1947年 / 水彩・紙 / 60.6×47.9cm / 移管
 41. 猪熊弦一郎《青い星座》/ 1983年 / 油彩・カンヴァス / 111.0×96.0cm / 寄贈受入
 42. 佐藤敬《作品》/ 1957年 / 油彩・カンヴァス / 89.1×116.0cm / 寄贈受入

* 寄贈受入は、1998年4月、故・石橋幹一郎氏のご遺族よりの寄贈。(館報47号(1998年度) p.31-91 参照)

* 移管は、2000年10月、ブリヂストン美術館よりの移管。(→ p.62-63)

関連事業：

開催記念美術講座 → p.32

石橋美術館の名作と俳句の出会い

会期中の2001年1月23日から2月20日まで、展示作品から受けた印象をもとに詠まれた俳句を募集、105名、777句の応募があり、選考委員によって24名、47句が選ばれた。入選者名を会場にパネルで掲示するとともにリーフレットを作成した。

選考委員は、伊藤通明、隈本恭子、田中妙子、谷川章子、松原新一の5氏。

担当＝田内正宏、後藤純子

広報記録：

「九州大通り 出番 新収蔵・移管名作選」『西日本新聞』2001年1月11日(九州版)

「青木繁の『海』など新収蔵品を展示へ」『西日本新聞』2001年1月19日(筑後版)

「『新収蔵・移管名作選』から」『西日本新聞』2001年1月23日、24日、25日、26日、28日、29日、30日

「青木繁の『海』 石橋美術館が購入 29年ぶり故郷で公開」『朝日新聞』2001年1月24日(筑後版)

「青木繁の『海』『海の幸』『海景』29年ぶりそろって展示」『読売新聞』2001年1月24日(筑後版)

「絵画の印象を俳句に 石橋美術館が作品募集」『毎日新聞』2001年1月30日(筑後版)

「新収蔵・移管 名作選(広告)」『月刊ぶらざ』第13号、2001年2月1日

「石橋美術館 新収蔵・移管名作選」『MADO 美術の窓』第209号、2001年2月20日

「展覧会から『新収蔵・移管名作選』」2001年3月13日(九州版)

「青木繁の『海』など42点を展示」『西日本新聞』2001年3月22日 夕刊

<土曜講座>

土曜日 14:00～16:00 ホール

通算回数 月日 講座題目 講師

《版画の社会学》

* 館報48号 (1999年度) p.20 参照。

《地中海学会春期連続講演会 地中海世界の歴史：古代から中世へ》

企画＝高山 博 氏 (地中海学会, 東京大学助教授)

1870	2000年5月13日	古代ギリシアと地中海世界	桜井万里子 氏 (東京大学教授)
1871	5月20日	古代ローマと地中海世界	本村凌二 氏 (東京大学教授)
1872	5月27日	ゲルマンと地中海世界	高山 博 氏
1873	6月 3日	ビザンツ帝国と地中海世界	大月康弘 氏 (一橋大学助教授)
1874	6月10日	中世イスラムと地中海世界	私市正年 氏 (上智大学教授)

《色彩をめぐる5つの扉》

企画＝塚田美香子

1875	7月 1日	「色彩感覚」の心理	近江源太郎 氏 (女子美術大学教授)
1876	7月 8日	画家クレーにとっての色彩	有川治男 氏 (学習院大学教授)
1877	7月15日	20世紀の色・青	小林康夫 氏 (東京大学教授)
1878	7月22日	白や黒は色なのか	千住 博 氏 (画家)
1879	7月29日	時代は色を着る：服飾史にみる流行色	深井晃子 氏 (静岡文化芸術大学教授)

《美術館の未来を考えるために》

企画＝貝塚 健

1880	9月 9日	美術館改革の時代—独立行政法人化問題の背後にあるもの—	山本育夫 氏 (『ドーム』編集長)
1881	9月16日	なぜ、美術館へ税金が投入されなければならないのか	後藤和子 氏 (埼玉大学助教授)
1882	9月23日	コミュニティとアート	小石原剛 氏 (美術家, MEATS代表)
1883	9月30日	美術館に来るのは、いったい誰なのか	山下雅之 氏 (近畿大学助教授)
1884	10月 7日	美術館倫理のすすめ	加藤尚武 氏 (京都大学教授)

《古書のコスモロジー》

企画＝中村節子

1885	10月14日	美術資料発掘の楽しみ	蝦名 則 氏 (えびな書店店主)
1886	10月21日	雑書にみるもうひとつの文学史	横田順彌 氏 (作家)
1887	10月28日	モロッコ革の匂い	鹿島 茂 氏 (共立女子大学教授)
1888	11月 4日	画文交響：古書にみる文学と美術の蜜月時代	紅野敏郎 氏 (早稲田大学名誉教授, 日本近代文学館常任理事, 山梨県立文学館館長)

《ガラスと陶器の物語》

企画＝坂本恭子

1889	11月11日	イスラーム陶器の歴史について	岡野智彦 氏 (財団法人中近東 文化センター研究員)
1890	11月18日	ブリヂストン美術館の古代ガラス	谷一 尚 氏 (共立女子大学助教授)

《地中海学会秋期連続講演会 都市ローマへの誘い—聖年にちなんで》

企画＝小佐野重利 氏（地中海学会、東京大学教授）

1891	11月25日	古代ローマの偉容	本村凌二 氏
1892	12月 2日	ローマの驚異—宗教、芸術の巡礼地	小佐野重利 氏
1893	12月 9日	バロック・ローマの美術	宮下規久朗 氏（神戸大学助教授）
1894	12月16日	都市ローマを読む	陣内秀信 氏（法政大学教授）

<日曜レクチャー>

【入門編】日曜日 11:00～11:45

【応用編】日曜日 14:00～14:45

月日	タイトル	講師	場所
2000年 4月 9日	【入門編】印象派って何？	宮崎克己	ホール
	【応用編】『レスタンプ・オリジナル』について	福満葉子	展示室
4月23日	【入門編】日本人画家のヨーロッパ体験	貝塚 健	ホール
	【応用編】日本近代美術を読む—黒田清輝《ブレハの少女》—	貝塚 健	展示室
5月14日	【入門編】インターネットと美術情報	中村節子	ホール
	【応用編】『レスタンプ・オリジナル』について	福満葉子	展示室
5月28日	【入門編】日本近代洋画考—壁画—	中田裕子	ホール
	【応用編】『レスタンプ・オリジナル』について	福満葉子	展示室
6月11日	【入門編】絵の見方	宮崎克己	ホール
	【応用編】パリ美術案内	宮崎克己	ホール
6月25日	【入門編】美術の中の「日本」—ジャポニスム—	坂本恭子	ホール
	【応用編】世紀末の接吻	坂本恭子	ホール
7月 9日	【入門編】絵の見方	宮崎克己	ホール
	【応用編】パリ美術案内	宮崎克己	ホール
7月23日	【入門編】世紀末ウィーンの装飾	坂本恭子	ホール
	【応用編】かざる壁画—クリムト《ベートーヴェン・フリーズ》—	坂本恭子	ホール
8月13日	【入門編】ギリシア彫刻をじっくり見る	中村るい 氏 (大妻女子大学講師)	展示室
	【応用編】オリジナルとコピー：ギリシア彫刻の場合	中村るい 氏	ホール
8月27日	【入門編】まんがとアートの接点	高橋瑞木 氏 (森アートセンター準備室学芸員)	ホール
	【応用編】まんがの勉強法	高橋瑞木 氏	ホール
9月10日	【入門編】戦争の中の美術—美術の中の戦争—	河田明久 氏 (早稲田大学非常勤講師)	ホール
	【応用編】イメージから戦争を読む	河田明久 氏	ホール
9月24日	【入門編】まんがとアートの接点	高橋瑞木 氏	ホール
	【応用編】まんがの勉強法	高橋瑞木 氏	ホール
10月 8日	【入門編】南イタリアの初期中世美術	加藤磨珠枝 氏 (東京芸術大学非常勤講師)	ホール
	【応用編】南イタリアの岩窟聖堂	加藤磨珠枝 氏	ホール
10月22日	【入門編】ギリシア彫刻をじっくり見る	中村るい 氏	展示室
	【応用編】オリジナルとコピー：ギリシア彫刻の場合	中村るい 氏	ホール
11月12日	【入門編】ルノワールの肖像画	賀川恭子 氏 (美術史家)	ホール
	【応用編】描かれた鉄道	賀川恭子 氏	ホール

11月26日【入門編】南イタリアの初期中世美術	加藤磨珠枝 氏	ホール
【応用編】南イタリアの岩窟聖堂	加藤磨珠枝 氏	ホール
12月10日【入門編】戦争の中の美術—美術の中の戦争	河田明久 氏	ホール
【応用編】イメージから戦争を読む	河田明久 氏	ホール
12月24日【入門編】ルノワールの肖像画	賀川恭子 氏	ホール
【応用編】描かれた鉄道	賀川恭子 氏	ホール

< 見学研究会「教材としての美術館2000」>

2000年 7月20日(木・祝), 21日(金), 25日(火)

主催: 石橋財団ブリヂストン美術館

参加者: 小学校教諭6名, その他3名

企画=貝塚 健

プログラム:

第1日

10:00~10:30	受付	
10:30~11:00	オリエンテーション	
11:00~12:30	自己紹介	
12:30~14:00	昼食休憩	
14:00~15:00	展示室の見学	
15:00~16:00	感想の発表とディスカッション	
16:00~16:30	休憩	
16:30~17:30	事例紹介「桐朋学園小学校6年生のブリヂストン美術館見学」	関 恵子 氏 (桐朋学園小学校教諭)

第2日

10:30~11:30	美術館活動の実際 1 ビデオ「クーリエの記録」	
11:30~12:30	美術館活動の実際 2 「美術作品の保存」	田中千秋
12:30~14:00	昼食休憩	
14:00~15:00	ギャラリートーク 1「黒田清輝《ブレハの少女》」	貝塚 健
15:00~15:30	休憩	
15:30~16:30	ギャラリートーク 2「美術の近代について」	貝塚 健
16:30~17:30	ディスカッション「私の美術館体験」	

第3日

10:30~12:30	見学プランの検討	
12:30~14:00	昼食休憩	
14:00~17:00	見学プランの発表	
17:00~17:30	まとめ	

< 見学解説>

2000年 5月 9日(火)	古川市立古川東中学校	3年生21名
5月19日(金)	佐屋町立佐屋中学校	3年生11名
5月23日(火)	文化学院	20名
5月24日(水)	春日井市立松原中学校	3年生 7名
5月25日(木)	春日井市立南城中学校	3年生 7名
6月 1日(木)	豊田市立井郷中学校	3年生 9名
6月 2日(金)	江南市立古知野中学校	3年生 5名

6月15日(木)	桐朋学園小学校	6年生80名
6月20日(火)	高崎市立佐野中学校	3年生 4名
6月30日(金)	中央区立中央小学校	5年生17名・6年生15名
7月13日(木)	葛飾区立西小菅小学校	5年生45名・6年生37名
7月14日(金)	東京大学文化資源学研究室	10名
7月25日(火)	武蔵野東小学校	6年生80名
7月27日(木)	小平市市民講座(花小金井南公民館)	28名
7月30日(日)	玉川大学教育博物館	60名
8月 3日(木)	東海市市民グループ	13名
9月14日(木)	聖心女子学院初等科	6年生79名
9月22日(金)	栃木県立石橋高校PTA	70名
10月 8日(日)	一丸会(東邦大学同窓会)	30名
10月21日(土)	名古屋造形芸術短期大学	51名
10月25日(水)	文京区立駕籠町小学校	3・5年生41名
11月15日(水)	中央区立阪本小学校	6年生13名
11月21日(火)	桜陰高校	1年生50名
	東京文化学園中学校	2年生52名
11月24日(金)	文京区立第七中学校	1年生40名
	共立女子学園中学校	1年生141名
11月28日(火)	筑波大学附属小学校	4年生39名
11月29日(水)	共立女子学園中学校	1年生141名
11月30日(木)	共立女子学園中学校	1年生94名
12月 2日(土)	東北芸術工科大学	60名
12月14日(木)	文京区立駕籠町小学校	4・6年生40名
12月19日(火)	中央区立阪本小学校	6年生15名
12月26日(火)	共立女子大学	18名
2001年 2月13日(火)	中央区立中央小学校	4・5年生25名
3月15日(木)	中央区区民講座	17名

* 事前の打合せのうえ、解説を行った団体のみを記している。

<特別講演会>

2000年4月15日(土) 14:00~16:00 ホール

主催：石橋財団ブリヂストン美術館、ジャポニスム学会

ジャポニスムと世紀末フランスの絵画、版画、装飾 宮崎克己
『レスタンパ・オリジナル』について 福満葉子

2000年5月24日(土) 14:00~16:00 ホール

主催：石橋財団ブリヂストン美術館、ジャポニスム学会

ラファエル・コランと日本 三浦 篤 氏(東京大学助教授)

<イブニング・レクチャー>

ルノワール展期間中、2月13日から4月12日までの、毎週火曜日と木曜日、18:15~19:00に開講した。(→ p.8)

<博物館実習生の受入れ>

学芸員資格取得のための博物館実習生を次のように受入れた。

期間：2000年9月5日－10日，9月12日－17日の各6日間

人数：16校 実習生20名，インターン生3名 計23名

実習内容：

	10:00～11:00	11:30～12:30	13:30～15:00	15:30～17:00
第1日	オリエンテーション	館長挨拶	美術館の表と裏	館内見学
	10:30～12:30		13:30～15:00	15:30～17:00
第2日	学芸員と展示企画 1		保存修復 1	レジストレーション 1-1
第3日	レジストレーション 2		保存修復 2	レジストレーション 1-2
第4日	作品収集について		美術情報と文献の探索 1	美術情報と文献の探索 2
第5日	学芸員と展示企画 2		土曜講座聴講	土曜講座聴講，感想レポート
第6日			展示デザイン演習，まとめ	

その他：

貸出見学：レンブラント・ファン・レイン《ミネルヴァ》（アテネ・ナショナル・ギャラリー）

ビエール＝オーギュスト・ルノワール《水浴の女》（ふくやま美術館）

教育普及見学：聖心女子学院初等科の団体見学

<インターンシップ>

2000年4月1日から2001年3月31日まで，以下のようなインターンシップを行った。

このインターンシップは，原則として国内の大学院に在学し，今後美術館職員として働くことを志望している30歳以下の学生を対象にしている。保存修復と教育普及の2部門において，館内の実務を体験しながら，美術館業務を学ぶプログラムを実施した。

インターン：

保存修復部門：

坂井史恵（東京芸術大学大学院 美術研究科 文化財保存学専攻保存修復技術（油画）修士課程修了）

山崎真紀子（東京芸術大学大学院 美術研究科 文化財保存学専攻保存修復技術（油画）修士課程修了）

教育普及部門：

磯谷麗子（日本大学大学院 芸術学研究科 造形芸術専攻博士課程前期）

荻田麻子（成城大学大学院 文学研究科 美学・美術史専攻博士課程後期）

草壁美和子（日本大学大学院 芸術学研究科 造形芸術専攻博士課程前期）

関根 緑（実践女子大学大学院 文学研究科 美術史学専攻修士課程）

妹尾知子（千葉大学大学院 教育研究科 美術教育専攻修士課程）

高田瑠美（学習院大学大学院 人文科学研究科 哲学専攻博士課程前期）

吉田奈加（実践女子大学大学院 文学研究科 美術史学専攻修士課程）

活動日：

保存修復部門：36日間

教育普及部門：34日間

主な実習内容：

保存修復部門：美術館における保存修復の理念，理論，実務

教育普及部門：美術館における教育普及の理念，理論，実務

担当者：

保存修復部門：田中千秋

教育普及部門：貝塚 健，坂本恭子

< 美術講座 >

土曜日 14:00～15:30

月日 講座題目

講師

《「東京国立近代美術館所蔵 近代の名作 日本画・洋画・版画・彫刻」展開催記念美術講座》

2000年4月 8日 作品にみる歴史と個人 ————— 市川政憲 氏（東京国立近代美術館次長）

4月23日 人間像と風景 ————— 中林和雄 氏（東京国立近代美術館主任研究官）
* 石橋文化会館2階小ホール

《特集展示「安井曾太郎の『文藝春秋』表紙絵」開催記念美術講座》

5月20日 安井曾太郎の芸術 ————— 富山秀男
* 石橋文化会館2階小ホール

6月 3日 『文藝春秋』表紙絵から見た安井曾太郎 ————— 貝塚 健
* 石橋美術館集会室

《特集展示「『レスタンプ・オリジナル』一世紀末フランスの版画革命」開催記念美術講座》

8月 5日 フランスの世紀末美術 ————— 宮崎克己

8月26日 『レスタンプ・オリジナル』とは何か？ ————— 福満葉子
* 石橋美術館集会室

《秋の美術講座 やきものの魅力》

10月14日 仁清と乾山 ————— 伊藤嘉章 氏（東京国立博物館工芸課陶磁室長）

10月28日 中国の青磁 ————— 出川哲朗 氏（大阪市立東洋陶磁美術館学芸課長）
* 石橋文化会館2階小ホール

《石橋美術館学芸員による美術講座》

11月 4日 日本絵画と草花 ————— 平間理香

11月11日 青木繁再考 ————— 植野健造

11月18日 近代洋画における群像表現 ————— 森山秀子

11月25日 19世紀末のパリと日本趣味 ————— 田内正宏
* 石橋美術館集会室

《特集展示「新収蔵・移管 名作選」開催記念美術講座》

2001年2月 3日 新収蔵作品の紹介—青木繁《海》を中心に ————— 植野健造
* 石橋美術館集会室

<ギャラリートーク>

石橋美術館：第1，第3日曜日

石橋美術館別館：第2日曜日

各館展示室にてそれぞれ毎回テーマを替えて実施した。

時間：14:00～14:20

<見学解説>

2000年4月21日(金)	久留米教育クラブ	
5月19日(金)	久留米教育クラブ	
6月15日(木)	久留米市立中学校美術教諭研修会	22名
6月24日(土)	春日市教育委員会主催「親と子の芸術鑑賞教室」	約40名
7月19日(水)	筑後地区観光協議会	20名
7月21日(金)	久留米教育クラブ	
9月 8日(金)	県立学校事務職員筑後地区研修会	30名
9月 8日(金)	久留米教育クラブ	7名
9月27日(水)	宮崎県北郷中学校	
10月20日(金)	久留米教育クラブ	8名
10月31日(火)	九州博物館協議会第30回芸員・事務職員研修会	
11月 1日(水)	鹿児島県徳之島中学校	70名
11月 2日(木)	愛媛県美術館友の会	
12月15日(金)	久留米教育クラブ	5名
2001年2月16日(金)	久留米教育クラブ	8名
3月16日(金)	久留米教育クラブ	3名

<学習における美術館の利用>

2000年6月22日(木)	久留米市立諏訪中学校「諏訪中美術館をつくろうー 石橋美術館をウォッチング(観察)しよう」	22名
7月 4日(火)	八女市立三河小学校5年生(坂本繁二郎についての学習)	39名
7月15日(土)	久留米市立西国分小学校6年生(石橋美術館の作品についての学習)	約100名
9月 8日(金)	福岡教育大学附属久留米中学校1年生「私の美術館を企画しよう」	各回約40名
9月13日(水)		
9月14日(木)		
10月13日(金)	久留米市立良山中学校3年生「夢を探してみま専科一職場体験」	2名

* 学校側からの依頼により、見学解説だけでなく一歩踏み込んだ対応をしたものをあげている。

< ラジオ放送 >

DREAMS-FM((株)くるめシティエフエム)の久留米市ラジオ広報番組『くるめラジオかわら版』で、ラジオコラム「美術の森へもう一步」を石橋美術館で担当した。放送は2000年4月から2001年3月まで、毎週火・水・木曜の3回(放送時間は毎回2分弱)。内容は週単位で替わり、前もって収録したものが放送された。

< 博物館実習生の受入れ >

学芸員資格取得のための博物館実習生を次のように受入れた。

期間：2000年8月1日－8月13日

人数：6校 8名

実習内容：

	10:00～12:00	13:00～17:00
8月 1日(火)	館長挨拶／展示作業見学	展示作業見学
8月 2日(水)	展示作業見学	展示作業見学／マスコミレビュー見学
8月 3日(木)	組織と運営／館内見学	作品の管理
8月 4日(金)	文献資料の収集	文献資料の収集
8月 5日(土)	写真資料の整理保存	美術講座聴講
8月 6日(日)	他館見学	他館見学／実習ノートの整理
8月 8日(火)	作品の調査と調書の作成	作品の調査と調書の作成
8月 9日(水)	資料の整理	資料の整理
8月10日(木)	作品の調査と調書の作成	作品の調査と調書の作成
8月11日(金)	図書資料の整理保存	図書資料の整理保存
8月12日(土)	写真の撮影	作品の取り扱い
8月13日(日)	図書資料の整理保存	実習ノートの整理、提出

入場者数

ブリヂストン美術館

月	開館日数	有 料					無料	総計	一日平均
		一般	大・高生	中・小生	団体	合計			
4	25	3,089	517	202	244	4,052	189	4,241	170
5	26	4,565	976	329	517	6,387	349	6,736	259
6	24	3,481	786	160	762	5,189	230	5,419	226
7	26	4,346	900	354	573	6,173	122	6,295	242
8	26	5,169	819	913	230	7,131	227	7,358	283
9	26	5,895	489	78	461	6,923	186	7,109	273
10	23	3,603	360	65	499	4,527	140	4,667	203
11	26	4,072	580	59	1,024	5,735	205	5,940	228
12	24	3,778	545	147	361	4,831	206	5,037	210
1	8	1,373	254	59	60	1,746	170	1,916	240
2	17	60,395	5,011	1,829	397	67,632	14,473	82,105	4,830
3	27	96,604	8,143	3,828	895	109,470	48,230	157,700	5,841
合計	278	196,370	19,380	8,023	6,023	229,796	64,727	294,523	1,059

石橋美術館

月	開館日数	有 料					無料	総計	一日平均
		一般	大・高生	中・小生	団体	合計			
4	22	3,376	224	143	605	4,348	821	5,169	235
5	23	3,302	196	181	670	4,349	1,012	5,361	233
6	26	1,457	113	41	618	2,229	388	2,617	101
7	26	1,402	70	74	621	2,167	401	2,568	99
8	25	1,477	365	240	136	2,218	164	2,382	95
9	26	1,246	128	74	499	1,947	348	2,295	88
10	25	1,439	42	19	416	1,916	216	2,132	85
11	26	1,312	26	26	637	2,001	87	2,088	80
12	23	791	40	21	29	881	15	896	39
1	23	1,079	45	43	117	1,284	48	1,332	58
2	24	1,613	73	49	383	2,118	212	2,330	97
3	27	1,891	108	46	193	2,238	99	2,337	87
合計	296	20,385	1,430	957	4,924	27,696	3,811	31,507	106

石橋美術館別館

月	開館日数	有 料					無料	総計	一日平均
		一般	大・高生	中・小生	団体	合計			
4	22	3,088	195	115	628	4,026	665	4,691	213
5	23	2,303	155	143	329	2,930	711	3,641	158
6	26	419	69	7	4	499	52	551	21
7	26	549	25	30	7	611	17	628	24
8	27	753	258	69	22	1,102	34	1,136	42
9	26	550	46	23	219	838	34	872	34
10	26	987	20	6	17	1,030	152	1,182	45
11	26	925	20	8	79	1,032	53	1,085	42
12	23	534	14	9	12	569	14	583	25
1	23	626	25	20	43	714	8	722	31
2	24	907	23	15	188	1,133	23	1,156	48
3	27	685	31	13	30	759	22	781	29
合計	299	12,326	881	458	1,578	15,243	1,785	17,028	57

モンドリアン, ピート

MONDRIAN, Piet

1872-1944

砂丘

1909年

油彩, 鉛筆・厚紙

29.6×39.1cm

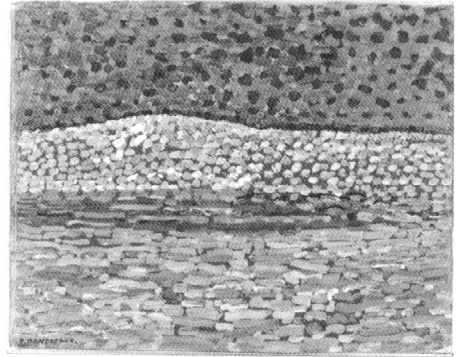
左下に署名

Dune

Oil and pencil on cardboard

29.6×39.1cm

Signed lower left: P. MONDRIAAN.



来歴 Prov.: c.1919, S.B. Slijper, Blaricum; Dr. and Mrs. Norman Laskey, New York; 1960, Sidney Janis Gallery, New York; 1962, Acquired from the above, Mr. and Mrs. James H. Clark, Dallas; James H. and Lillian Clark Foundation, Dallas; Christie's New York; Acquavella Contemporary Art, Inc.; 2000, Ishibashi Foundation.

展覧会歴 Exh.: 1922, Stedelijk Museum, Amsterdam, *Hollandsche Kunstenaarskring: Schilderijen, Beeldhouwwerken en Teekenningen*; 1953, Sidney Janis Gallery, New York, *50 Years of Mondrian*, no.10; 1962, Sidney Janis Gallery, New York, *Paintings by Mondrian: Early & Late Work in Progress*, no.12; 1962, Museum for Contemporary Arts, Dallas, *Dallas Collects*; 1963, Museum of Fine Arts, Dallas, *Dallas Collects*; 1963, Sidney Janis Gallery, New York, *Paintings, Drawings and Watercolors by Piet Mondrian*, no.16; 1965, Museum of Art, Santa Barbara/ Museum of Fine Arts, Dallas/ Gallery of Modern Art, Washington, D.C., *Piet Mondrian*, no.29; 1971, The Solomon R. Guggenheim Museum, New York, *Piet Mondrian, 1872-1944: Centennial Exhibition*, no.38; 1978, Museum of Fine Arts, Dallas, *Dallas Collects: Impressionist and Early Modern Masters*, no.69.

文献 Bibl.: 1974, M.G. Ottolenghi, *L'opera completa di Mondrian*, Milan, p.101, no.220; 1986, J. Holtzman, "Piet Mondrian: The Man and His Work" in H. Holtzman and M.S. James, eds., *The New Art - The New Life: The Collected Writings of Piet Mondrian*, Boston, fig.60; 1998, R.P. Welsh, *Piet Mondrian: Catalogue Raisonné of the Naturalistic Works (until early 1911)*, New York, vol. I, p.100, 464-465, no.A703; 1998, *Christie's twentieth century art, New York Thursday 19 November 1998 at 7pm*, p.84-85, no.336.

保管: ブリヂストン美術館 (外洋203)

Managed by Bridgestone Museum of Art (Tokyo)

モンドリアンがゼーラント地方(オランダ南西部)の行楽地ドムブルフをはじめて訪れるのは、1908年のこと。当時ここには、ヤン・トーロップをはじめとするオランダの前衛芸術家が集っており、モンドリアンは彼らとの接触をとおして、アムステルダムの展覧会などで見知った点描技法を修得していくことになる。

翌1909年に、彼は集中してドムブルフの砂丘を描いた。ウェルシュはレゾネの第1巻で、本作品とハーグ市立美術館所蔵の2点を「点描主義の砂丘の習作」と共通タイトルでまとめ、それぞれに「左に丘陵」「中央に丘陵」「右丘陵」と補足を加えている (Welsh, 1998, A702, A703, A704)。本作品は、「中央に丘陵」(A703)に相当する。

3作とも、1919年にS.B.スレイパーの所蔵となっている。うち2点は画家から直接購入され、その後ハーグ市立美術館に寄託されているのに対し、今回の購入作品は、スレイパーのコレクションから離れた時期、ならびにその経緯を詳らかにしない。

なお、スレイパーは所蔵するモンドリアン作品のインヴェントリー・ブックを残している。レゾネ第2巻を編集したヨーステンによれば、ウェルシュはno.746を本作品に同定している。

青木繁

AOKI, Shigeru

1882-1911

車中風景

1902年

鉛筆、淡彩・紙

14.4×19.0cm (2 枚)



Scene in a Train

1902

Pencil and watercolor on paper

14.4×19.0cm (2 sheets)



来歴：個人蔵；華の実画廊，東京；2000年，石橋財団

Prov.: Private collection; Hananomi Gallery, Tokyo;
2000, Ishibashi Foundation.

文献：1972年，河北倫明『青木繁』日本経済新聞社，図版20

保管：石橋美術館（日洋496）

Managed by Ishibashi Museum of Art (Kurume)

青木繁

AOKI, Shigeru

1882-1911

晩婦

1908年

木炭・紙

12.3×18.7cm



Returning Late in the Evening

1908

Chacoal on paper

12.3×18.7cm

来歴：個人蔵；吉井画廊，東京；2000年，石橋財団

Prov.: Private collection; Yoshii Gallery, Tokyo; 2000, Ishibashi Foundation.

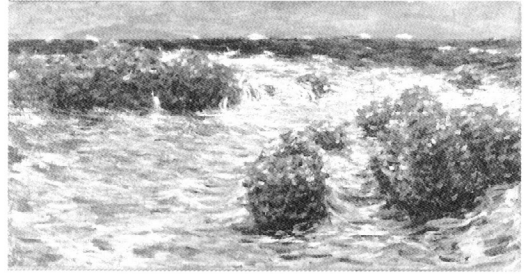
文献：1972年，河北倫明『青木繁』日本経済新聞社，図版313

保管：石橋美術館（日洋497）

Managed by Ishibashi Museum of Art (Kurume)

青木繁
AOKI, Shigeru
1882-1911

海
1904年
油彩・カンヴァス
36.5×73.0cm



Sea
1904
Oil on canvas
36.6×73.0cm

来歴：1912年頃、蒲原有明；川端康成；フジキ画廊、東京；2000年11月25日、A.J.C.オークション、東京；フジテレビギャラリー、東京；2000年、石橋財団

Prov.: c.1912, Kanbara Ariake; Kawabata Yasunari; Fujii Gallery, Tokyo; November 25, 2000, A. J. C. Auction, Tokyo, Lot.no.50; Fuji Television Gallery, Tokyo; 2000, Ishibashi Foundation.

展覧会歴 Exh.: 1953年、国立近代美術館、東京「近代洋画の歩み(西洋と日本)展」no.7; 1972年、ブリヂストン美術館 / 石橋美術館「生誕90年記念 青木繁展」no.17; 1984年、三重県立美術館「海・その幸と形象展」no.33; 1987-88, Washington University Gallery of Art, St. Louis, Missouri / Japan House Gallery, New York / Wight Art Gallery, University of California at Los Angeles, *Paris in Japan*, no.1.

文献 Bibl.: 1913年、蒲原隼雄「蠱惑的画家(伝説と印象)」『青木繁画集』政教社, p.139-142, 図版40; 1924年、蒲原有明『飛雲抄』書物展望社; 1947年、蒲原有明『夢は呼び交す』東京出版; 1962年、河北倫明『日本近代絵画全集(4) 青木繁』講談社, p.19, 図版15; 1970年、河北倫明『近代の美術(1) 青木繁と浪漫主義』至文堂, 図版6; 1972年、河北倫明『青木繁』日本経済新聞社, p.19-20, 図版140; 1976年、『巨匠の名画(10) 青木繁』学習研究社, p.120, 図版20(解説：陰里鐵郎); 1984年、蒲原有明『夢は呼び交す』岩波文庫, p.143-147

保管：石橋美術館（日洋498）
Managed by Ishibashi Museum of Art (Kurume)

新聞・雑誌記事記録：

「青木繁3部作そろそろ 所在不明だった『海』を落札 石橋美術館」『西日本新聞』2000年12月15日

「青木繁の『海』来月公開 石橋美術館落札」『読売新聞』2000年12月17日

「オークション情報」『新美術新聞』第915号, 2001年1月11日・21日合併号

「青木繁の『海』石橋美術館が購入 29年ぶり故郷で公開」『朝日新聞』2001年1月24日

「TOPICS A.J.C.オークション」『MADO 美術の窓』第20巻第3号, 2001年2月20日



2000年12月18日(月)、展示室にて一般公開に先立つプレビューを行った。
写真右より『海景(布良の海)』『海の幸』と新収蔵作品『海』

カリエール, ウジェーヌ

CARRIERE, Eugène

1849-1906

女の顔

『レスタンプ・オリジナル』第4号(1893年)所収

リトグラフ

画面サイズ : 39.3×34.1cm; 紙サイズ : 59.7×42.7cm

版の左下に署名; 右下の余白に鉛筆で署名; 左下の余白に鉛筆で番号;
右下隅の余白に『レスタンプ・オリジナル』の空押し印; 左下の余白
に紫色のインクで押された所蔵印; 左下の余白に空押しによる所蔵印

Head (Tête)

Lithograph

Image size : 39.3×34.1cm; sheet size : 59.7×42.7cm

Signed, lower left on stone: *Eugène Carrière*; signed, lower right
margin, pencil: *Eugène Carrière*; numbered, lower left margin,
pencil: *no.39*; blind stamp for *L'Estampe originale*, lower right
corner margin; collection stamp of Heinrich Stinnes, lower left
margin, in violet; collection stamp of Heinrich Neuerburg, lower
left margin, blind stamp.



来歴 Prov.: Heinrich Stinnes, Cologne; Heinrich Neuerburg, Cologne; Galleria Grafica Tokio; Ishibashi Foundation.

保管 : ブリヂストン美術館 (外版324)

Managed by Bridgestone Museum of Art (Tokyo)

新収図書

ブリヂストン美術館

	購入	寄贈	計
和書	132冊	49冊	181冊
洋書	114冊	22冊	136冊
計	246冊	71冊	317冊

(展覧会図録・逐次刊行物は含まない)

石橋美術館・石橋美術館別館

	購入		寄贈	計
	石橋美術館	石橋美術館別館		
和書	110冊	58冊	60冊	228冊
洋書	0冊	0冊	1冊	1冊
計	110冊	58冊	61冊	229冊

(展覧会図録・逐次刊行物は含まない)

トマス・ゲンズバラ《婦人像》

制作年不詳

油彩・カンヴァス 75.5×64.5cm

ブリヂストン美術館

はじめに

本作品は18世紀に描かれ制作後約250年が経過する中で、経年劣化が進行し過去に数回の修復を受けたものと考えられる。この修復処置のうち明らかなものは、裏打ちと広範囲の補彩およびワニスの塗布であるが、これらについての記録は残されていなかった。石橋正二郎がこの作品を購入したのは1953年であるが、もともとは松方幸次郎のコレクションとして我が国に招来された。松方がこの作品を購入したのは1910年代末頃と考えられ、その購入以前の処置だとすると最低でもほぼ100年以前の修復であろう。よって、現状の画布には緩やかではあるが大きな変形が発生していた(fig.2)。同時にワニスの変質および変色、さらには補彩部分にも変色が観察された。

この作品は石橋正二郎の購入記録はあるが、それ以前の山下や松方の購入については不明な部分も多い。作品の来歴を調査する上でも修復処置は大きな情報を持っている。従って今回の修復はできる限り過去の修復を生かしながら、作品鑑賞の妨げとなっている損傷を除去することを主眼とした。

作品の状態

作品は白色の油性地が施された亜麻布に油彩で描かれている。画布は張り代部分から切断され、全面を水溶性の接着剤で裏打ちされている。この裏打ちと画布の接着は良好で浮き上がり等の損傷は見られない。また、この

時の裏打ち以前にも処置がなされており、左辺と下辺には紙テープが貼られている。さらに上辺ではこのテープを剥した際のものと思われる絵具層の損傷がある。

木枠は員数5本で楔付き、裏面左下の楔1本が一旦脱落し、その後異型のものが補充されている。特徴としては上下辺の材と左右辺の材の幅が大きく異なる点で、これは作品の幅に合わせて上下辺の材の外側に棒材が足されているためである(fig.3)。

作品の張り込みには鉄製の釘が使用され、この釘は何れの辺も著しく酸化している。特に上辺の劣化が激しく、画布をも腐食し左側の釘3本を除き全てが脱落している(fig.4)。この脱落が画布の大きな変形の原因となっている。

紫外線蛍光反応の調査の結果では広範囲に補彩が観察された(fig.5)。また、実体顕微鏡による拡大観察の結果では、この補彩は時期的にも数回に分けられ、さらにタッチや絵具の材質が異なることから、異なった修復家によってなされたものと考えられる。これは経年によって変色した旧補彩部分に、その上から色合せを行ったものと思われる。今回X線による調査は行わなかったのですが、この補彩が施された部分のオリジナルの状況は不明である。特に補彩部が婦人像の目の部分に広範囲に施されているので、今後X線調査を行いオリジナルの状態を確認した後、補彩に対しての処置を行う必要がある。

紫外線蛍光反応の調査によって画面全体に厚くワニス塗布されていることも確認された。このワニスも経年劣化による軽い白亜化と細かな亀裂や黄化が観察された。また、欠損やスポット状に白亜化が進行した部分もあった(fig.6)。

額縁はイギリスのルイ15世(ジョージ2世)様式で典型的な18世紀中頃のデザインである。木彫りに金箔が押さ



fig.1 トマス・ゲンズバラ《婦人像》 処置前 全図



fig.2 処置前 側光線写真(上部から照射)

れた非常に豪華なものであり、グレーズや裏板といった作品保護材は付加されていない。また、ヘダテに使用されたチーク材は留めが離れた上に寸法が不適切である。残念なことに額縁も左右辺が大きく欠損しており (fig.7)、今後修復されることを期待する。

処置について

前述したように今回の修復では、できる限り過去の修復をも生かしながら、作品鑑賞の妨げとなっている損傷を除去することを主眼とした。

具体的には、画布の大きな変形に対しての処置と、旧補彩やワニスに対するもの、そして額装を改善することである。

1. 写真撮影および状態調査

写真の撮影は可視光線による全光および側光、紫外線による蛍光撮影、実体顕微鏡による拡大撮影を含む。状態調査は記録表を作成する。

2. ストリップライニングをほどこす

錆びて腐食した釘を抜き、画布を木枠から外す。木枠から外した画布を修復用の仮枠に画鋲を使用して仮留めにした後、画布裏面の清掃を行う。

画布裏面からのごく軽い湿りと低温のアイロンでの加温加圧によって画布の変形を修正する。

腐食した画布の張り代部を、薄手の目の詰んだ亜麻布をBEVA371film(エチレン化酢酸ビニル樹脂を主成分としたフィルム状の修復用接着剤)で接着補強し、ストリップライニングをする。

3. ルースライニングをほどこす

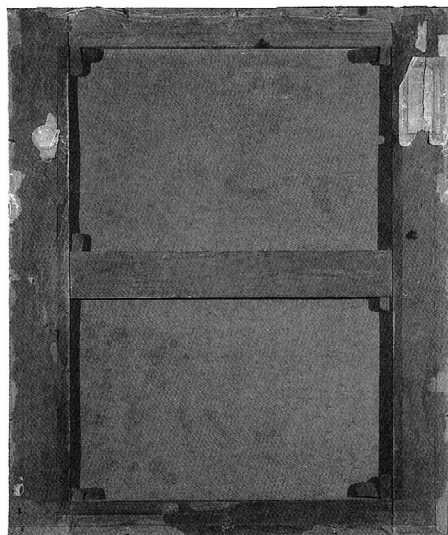


fig.3 処置前 裏面

ルースライニングの張力に耐え得るようにオリジナル木枠の画面側に米杉材の補強枠を装着する。この補強枠はネジ留めにし、簡単に着脱が可能なものとする。ライニングに使用する布には亜麻布を使用し、布の湿度変化による伸縮を止めるため、アクリル樹脂プライマーを塗布する。ライニング布は補強された木枠にステンレス製のステーブルで張り込む。ライニングに被せるようにストリップライニングした画布を張り込む。この張り込みでは錆びた釘をステンレス製のものと取り換える。この際画布や絵具層に修復以前と異なる張力を与えないように当初の釘跡に釘を打ち、さらに直接画布に釘が当たらないようにシリコンラバーシート(厚さ0.5mm)を挟む。

4. 画面洗浄

画面の洗浄には精製水を使用し、軟毛の筆で描かれた形態と筆触に沿って洗浄を行う。

5. 旧補彩に対する処置

旧補彩部分にはできる限り処置を行わないようにし、明らかに鑑賞の妨げとなっている部分にのみ旧補彩の上から水彩絵具によって若干の色合せを行う。

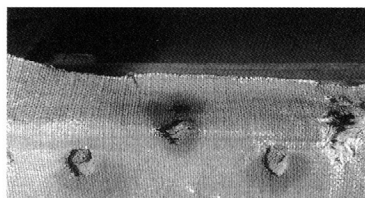


fig.4 上辺張り代の状態(脱落した釘)



fig.5 処置前 紫外線蛍光写真

6. ワニスに対する処置

ワニスの欠損部には画面周辺部の、額に隠れる部分の紙テープに塗布されていたワニスを採取し、このワニスを充填する。ワニスの白亜化はペッテンコッファー法(アルコールの気体でワニスを溶解する方法)を応用して均質な塗膜に戻すと同時に、表面をごく薄く除去し変色を目立たなくする。

7. 画面全体の艶をマスティック樹脂(天然軟質樹脂)で調整する

8. 額装の改善

額のヘダテを新調し画面側にクッションとしてフェルトを貼る。作品保護の為作品の装着方法を改善し、裏板を装着する。

9. 処置後の写真撮影を行い、報告書を作成する

おわりに

今回の修復では紫外線の蛍光反応調査で補彩であると判断でき、また明らかに違和感はあるものの旧補彩に対しては、ほとんど処置を行わなかった。これは来歴調査が十分に成されていない本作品の持つ情報の一部として旧修復を位置付けた為である。同様に、画布にも変形が見られたが裏打ちを除去するといった処置も行わなかった。

これまでの修復においては鑑賞の妨げとなっている旧修復は除去し、新たに処置しなおすといったことが当然のように成されて来た。しかし、この旧修復の技法や使用されている材料も物質としての作品研究においては貴重な資料となる。

美術品の保存や修復が系統だった学問として未整備な日本においては、過去の修復処置について今後より慎重に対処することが必要であろう。

(絵画修復家 石井 亨)

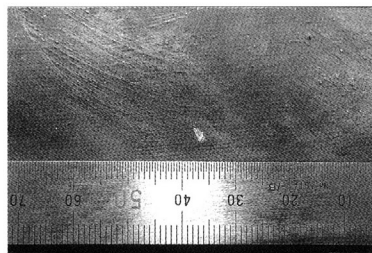


fig.6 処置前 ワニス損傷部の拡大

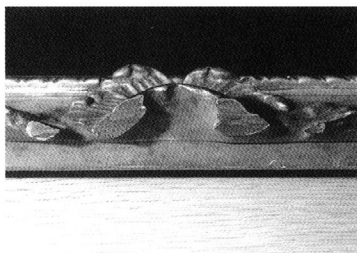


fig.7 処置前 額損傷部の拡大



fig.8 旧修復処置(額の補彩)



fig.9 処置後(額装改善後)全図

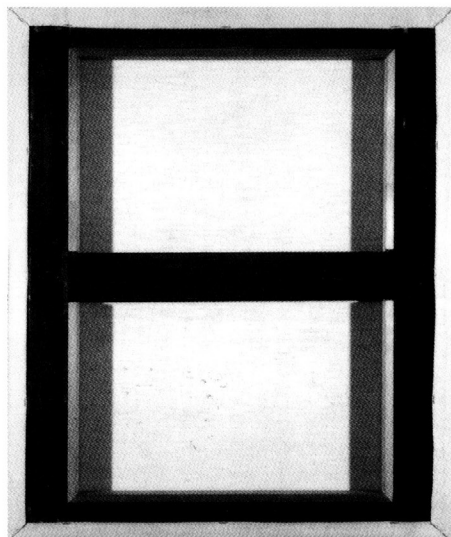


fig.10 処置後 裏面

児島善三郎《立つ》

1928年

油彩・カンヴァス 138.9×77.6cm

石橋美術館

作品の状態

作品は滞欧作(fig.1, 2)。画布側面に以前の釘穴が残っている。帰国後張り直されたものと思われる。

画面寸法は制作当初と同じ。木枠は目の字形に中棧の二本入った既製品。枠部材の幅は66mm、周辺の厚さは25mm、内側で22mm。楔穴は四隅に計8箇所開けられているが楔は使用されていない。裏面左の枠には出品票が貼られ、出品当時の代々木の住所と氏名、命題が書き込まれている。中棧の上方枠には整理用の白色ラベルが貼られ、「10 立つ(裸婦)」と横書きされている。

画布は油性白色の下地が施された既製品。糸密度は1cm四方あたり経糸緯糸共に平均して17本。裏面に書き込みやメーカー印は無い。張り込み時の張力はかなり強く、画布側面の一部に破れも認められる。釘には錆が発生し、釘周辺の画布の腐食が進行している。画布には軽度の経年の劣化は認められるがまだ十分な強度を保っている。

絵具層は白色を多く含むハイライト部分や輪郭線、模様の書き起こし部分が厚く塗られ、背景は比較的薄塗り。厚塗り部分は絵具の乾燥固化時の伸縮等のため膨らむように変形している。絵具層の変形は画布を伴ったもので地塗り層との固着に問題はなく、亀裂の発生も認められない。

側光線や赤外線ヴィジコンカメラによる観察によると、若干の構図の変更や床に置かれた水差しを塗りつぶした事など制作途中の筆触が認められる(fig.3)。経年の温湿

度の変化や過度の湿気により画面ほぼ全面に黴や結晶が析出している。そのため絵具層は曇ったように艶を失い色調も鈍くなっている。作品下方は湿度が溜まりやすかったせいか浮き上がりや剥落などの損傷も多く認められる(fig.4, 5)。画面右下隅には「Z. Z. Kojima」と黒色の横書きサインがある。

制作後にニス塗布された形跡は無い。

作品は数本の釘で額に固定されている。額にはアクリル等のグレージングや裏板も無い。額表面の凸部に擦れ傷が認められる。

処置の方針

木枠画布共に平面を維持する強度を保っている。

画面の軽い変形は絵具の厚みに起因するもので変形修正を要するものではない。絵具層に浮き上がりや剥落が認められるが部分的な剥落止め等の処置で改善が可能。裏打ち等の過剰な処置の必要はない。当初の部材を尊重し取り替えあるいは付加する物を必要最小限にとどめる。付加する物は、ごく限定的に用いる剥落止めの接着剤、楔、腐食した画布釘穴の繕いに用いる麻布のパッチ、絵具欠損部分のみに用いる充填材や補彩用のアクリル絵具等。錆びたタックスはステンレス製のものに取り換える。その際絵具層に修復以前と異なる張力のストレスを与えないように釘は当初と同じ位置に打つ。本作品には制作後にニスを塗布された形跡が無い。現状の画面は黴や埃汚れ、結晶の析出等のため画調が鈍くなっているが、表面の付着物を除去することによりかなりの程度での色調回復を期待できる。画面保護の効果を求めるための厚いニス塗布は作者の制作意図を歪める恐れがある。そのため処置後に塗膜を形成するような厚いニスの噴霧は行わないこととした。黴により変質した部分には色調を回復

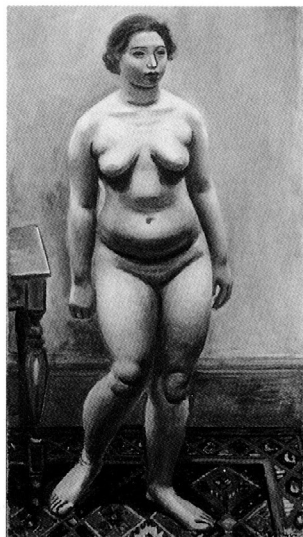


fig.1 児島善三郎《立つ》修復前

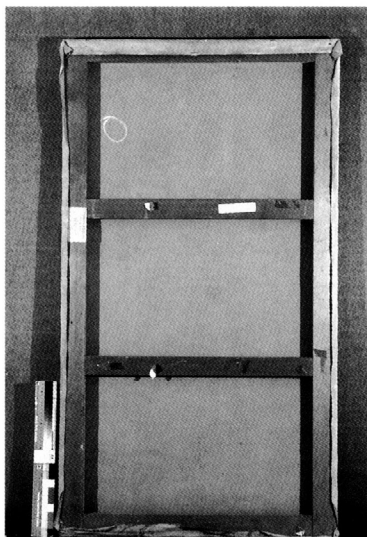


fig.2 修復前 裏面

させるために対症的に合成樹脂を用いることで制作時の質感に近づける事を作品処置の方針とした。

額装に関しては、作品固定方法を改善し裏板及び低反射処置をしたアクリルを装着することとした。

処置内容

- ・写真撮影および状態調査
- ・亀裂と浮き上がり部分の接着と固定（BEVA D-8 エチレン化酢酸ビニル樹脂を主とするエマルジョン接着剤を使用）(fig.6, 7)
- ・画面の汚れと析出物の除去(fig.8, 9)
- ・裏面の清掃
- ・釘錆により腐食した画布釘穴の繕いとステンレス釘による張り込み、楔の作製取り付け
- ・絵具欠損部分への充填及び補彩（胡粉・膠水、アクリル絵具）(fig.10, 11, 12)
- ・艶の調整（パラロイド B-72樹脂 トルエン溶液）
- ・額装の改善（低反射アクリル リアルック FN-72と裏板の装着）
- ・処置後写真撮影および報告書の作成

（小林絵画保存修復工房 小林嘉樹）



fig.3 右下方に描かれている水差し
(赤外線ビジコンカメラによる撮影)



fig.4 サイン付近に発生した微

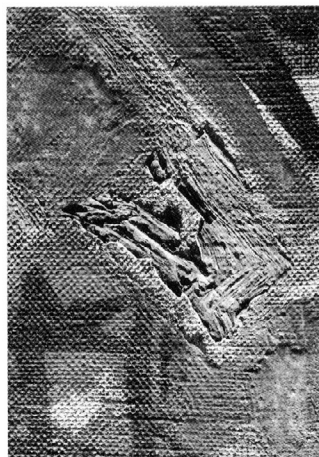


fig.5 絵具層の損傷
(黴による変質・亀裂・浮き上がり・剥落)部分
(測光線による撮影)

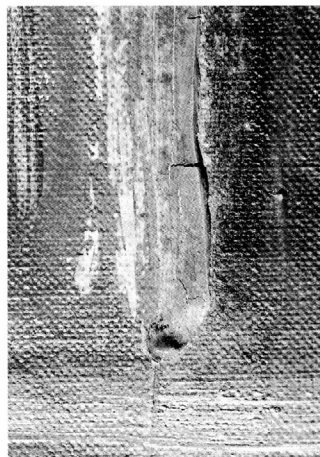


fig.6 損傷部分修復前

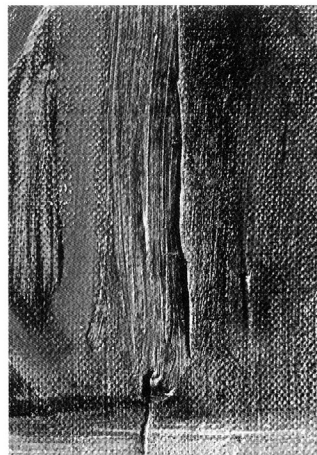


fig.7 同部分修復後

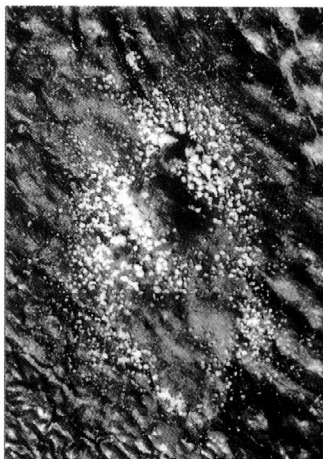


fig.8 結晶の析出部分拡大



fig.10 剥落欠損部

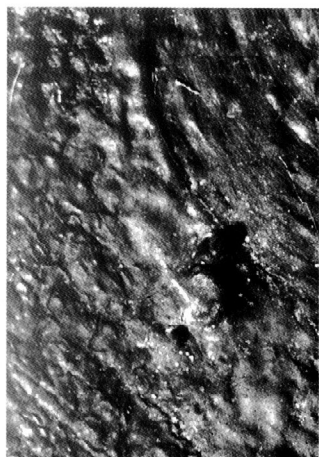


fig.9 同部分結晶の除去



fig.11 欠損部への充填



fig.12 同部分への補彩後

青木繁《車中風景》

1902年

鉛筆、淡彩・洋紙（両画面） 14.4×19.0cm×2枚

石橋美術館

修復前全体寸法（2枚継ぎ）

左辺：143mm 上辺：362mm（右上角欠損）

右辺：130mm（右上角欠損） 下辺：379mm

修復後全体寸法（2枚継ぎ）

左辺：144mm 上辺：381mm

右辺：143mm 下辺：381mm

ラベル

1. 題名・作家名・由来書・鑑定人の氏名？の墨筆による書き込みと朱印が押されたラベルが窓マットの右下に貼られている（fig.1）。

車中風景 左より青木、坂本、丸野、

青木繁遺作 梅野茂人 識（識の文字に重ねて朱印）

2. 額裏板に1と同じラベルが貼られている。

3. 額裏板に墨筆による書き込みがあるラベルが貼られている。

車中風景 青木繁 青木繁の妙義画稿であります

梅野 隆 識（識の文字に重ねて朱印）

4. 額裏板に額装店のラベルが貼られている。

書き込み

右片裏面の鉛筆素描の左部に墨筆による書き込みがある。

青木繁の妙義画稿です

梅野 隆 識

額装・台紙

本紙はあまり質の良くない薄い洋紙を台紙に使用し、セロハンテープや両面テープ、水溶性の接着剤などで周縁部を固定されていた。本紙支持体は2枚であるが中央に継ぎは無く、2枚を並べてそれぞれが固定されていた。台紙はセロハンテープと接着剤で窓マットの裏面に固定されていた（fig.2）。

組成

支持体は機械漉きの洋紙で、スケッチブックの見開き2枚である。そのため、2枚がつながる辺の中央部には糸綴じの跡と思われる穴が開いている。支持体の厚さは2枚共におよそ0.13mm～0.14mmで表面には網状の細かい凹凸がある。紙の色は乳白色で水の浸透は遅い。描画部には2枚にまたがった黒色の鉛筆による素描に、水彩絵具で薄く彩色が行われている。裏面には左右それぞれの紙面に別々に黒色の鉛筆による素描がある。

損傷

支持体は簡易的なpH測定によると5.0の値を示し、酸性化が進行していた。支持体が貼られていた台紙は窓マットと作品の間の露出していた部分に強い変色が生じていたが、作品支持体はやや黄色化の傾向が見られるものの、酸性化による強いやけは見られなかった。

支持体の裏面には台紙に固定するために使用されたテープや接着剤が周縁部に付着していた。右側本紙の右辺中央、左下角、左上角、右上角の4ヶ所、左側本紙の左辺中央、右上角、左上角の3ヶ所の各裏面にテープが付着していた。テープは劣化していたが接着剤の粘性性は残っており、紙の中に浸透して透明化し、黄褐色の染みを生じさせていた。テープの他に水溶性の接着剤の使用も見ら



fig.1 青木繁《車中風景》修復前 マット装着の状態
（右下にラベルが貼られていた）

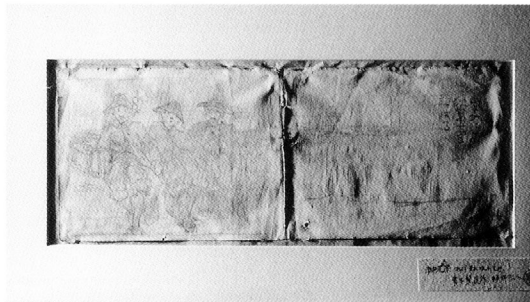


fig.2 修復前 斜光線写真

れ、周縁部の裏面に厚く層を成して付着していた。テープと接着剤は重なって付着している部分も見られた。また、接着剤が使用された部分は支持体にひきつれの変形を生じていた。

支持体の周縁部、特に上辺は劣化により小さな裂けや折れ、細かい欠損が多く生じていた。また、2枚がつながる中央部分には綴じ糸から外した際のものと思われる裂けや小さな欠損、折れなどの損傷が生じていた。右上角は三角形に欠損しており、右側本紙の左下に2ヶ所(4mm×3mm, 2mm×1mm)、右下に2ヶ所(それぞれ(φ1mm)の虫損による穴が生じていた。裏面側には虫損により表層が失われている部分が数カ所見られ、右側本紙裏面の描画部分に顕著である(fig.3, 4)。

処置

1. 写真撮影、状態調査
2. マット及び台紙から作品と鑑定書を分離
3. 鑑定書の裏打ち
4. テープ及び水溶性接着剤の除去
5. セロテープの接着剤除去：アルコール及び石油系溶剤/ サクシオンテーブルを使用
6. テープ痕部分黄変の除去

部分水洗/ サクシオンテーブルを使用

部分脱酸：水酸化マグネシウム/ サクシオンテーブルを使用

部分漂白：過酸化水素水

部分水洗/ サクシオンテーブルを使用

部分脱酸：水酸化マグネシウム/ サクシオンテーブルを使用

7. 折れの展伸
8. 仮プレス
9. 欠損部の繕い：洋紙・メチルセルロース+生麩糊
10. 2枚の接合：和紙・メチルセルロース+生麩糊
11. プレスによる展伸
12. インレイマウント：楮100%手漉紙・メチルセルロース+生麩糊
13. 補彩：色鉛筆・水彩絵具（繕い部分）
14. 写真撮影
15. マットに和紙ヒンジで作品を固定
16. 報告書作成

(山領絵画修復工房 横田直子)

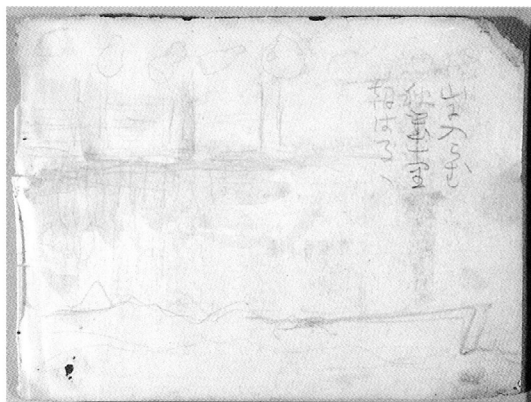


fig.3 右側 台紙から分離後

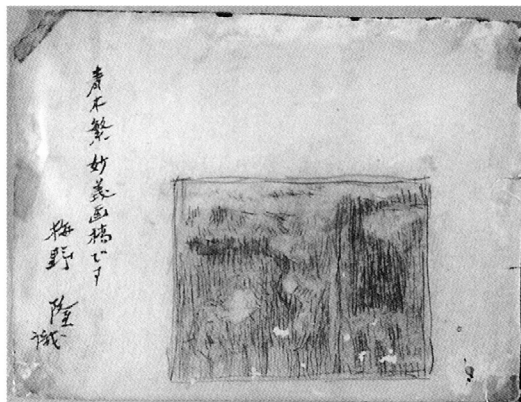


fig.4 右側裏面 台紙から分離後

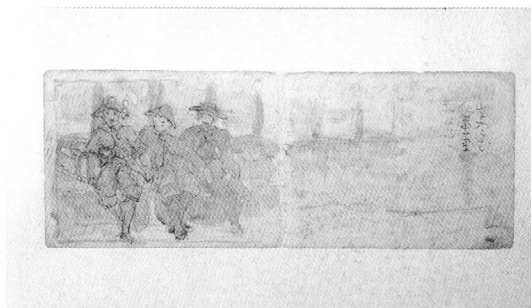


fig.5 修復後

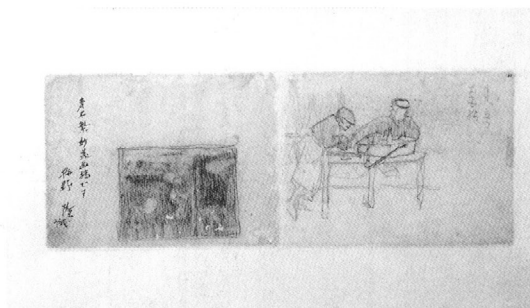


fig.6 裏面 修復後

青木繁《晩帰》

1908年

木炭・洋紙 12.3×18.7cm

石橋美術館

修復前寸法（裏打ち含む）

左辺：124mm 上辺：188mm

右辺：117mm 下辺：188mm

修復後寸法

左辺：123mm 上辺：187mm

右辺：116mm 下辺：187mm

ラベル

1. パネル裏面中央に題名・作家名・所蔵者・作品由来が墨筆により書き込まれた鑑定書が貼付されている。鑑定書は172mm×66mmで欠損があるため裏打ちが施されている。

青木繁作「晩帰」

この絵は青木繁の明治三十六、七年頃の作、信州小諸附近のスケッチである、親友正宗得三郎氏旧蔵品

2. パネル裏面左上に展覧会のラベルが貼られている。
3. パネル裏面左下に額装店のラベルが貼られている。

額装・台紙

和額用下張りの中央に裏打ちを施された本紙が袋貼りで張り込まれていた（fig.1）。下張りは裏面が緑色の紙で化粧貼りされており各ラベルが貼付されていた（fig.2）。

裏打紙は和紙で水溶性の糊が使用されていた。左右辺はそれぞれ1mm～2mm、上下辺はそれぞれ9mm～10mmの幅で本紙より大きく緑が残されていた。

組成

支持体は厚さおよそ0.1mmのあまり質の良くない繊維を原料とした機械漉きの洋紙で、リグニンを含む。紙の表面は網状の細かい凹凸があり、本紙への水の浸透は速い。紙の周囲は四辺とも刃物により切断されているが、下辺は極端に歪んだ不規則な切断面になっている。

描画には黒色の木炭が使用されていると思われる。定着剤が使用された痕跡は無く、紙の表面に粒子が柔らかくのり、全体に広がっている。裏面には墨と鉛筆が使用された素描がある（fig.3）。

損傷

下張りの四隅は隅皺によりひきつれを起こしていた。また下張りの和紙には黄褐色の斑点が生じており、一部は作品の裏面にも移行していた。

支持体は簡易的なpH測定によると5.0の値を示し、酸性化による劣化が進行していた。また、リグニンを含むため暗黄色化の変色が著しく、裏打紙にも移行していた。変色の度合いは二段階で、窓マット内で露出していた部分と思われる内側の変色は特に強く、くっきりと四角の内部が変色していた。画面内は向かって右側の人物の右部に二本の裂けが生じており、以前に裏打が行われた際に木炭の粒子が広がり、沈み込んだためか、裂けの部分に黒色の粒子がたまって線状になっている。また、上辺左方に小さな裂けが見られた。他に、左辺中央に5mm×3mmの破れによる欠損と下辺に2mm×11mmの欠損が見られた。

裏面には周縁四辺の各中央にテープが貼られていた痕跡があり、合い剥ぎになって紙が薄くなっていた。また、テープ痕跡部分の形に沿って支持体の変色が抑えられていた。



fig.1 青木繁《晩帰》修復前 パネルに張り込まれた状態

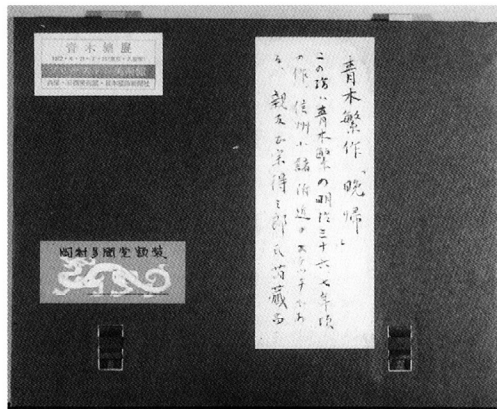


fig.2 修復前 パネル裏面のラベル

処置

1. 写真撮影, 状態調査
2. パネルから作品及び裏面の鑑定書を分離
3. 水洗/ サクシオンテーブルを使用
4. 裏打紙の除去
5. 水洗/ サクシオンテーブルを使用
6. 脱酸: 水酸化マグネシウム/ サクシオンテーブルを使用
7. 漂白: 過酸化水素水/ サクシオンテーブルを使用
8. 水洗/ サクシオンテーブルを使用
9. 木炭の接着強化: クルーセルGアルコール溶液
10. 仮プレス
11. 左辺中央の欠損部分の繕い: 洋紙・メチルセルロース + 生麩糊
12. プレスによる展伸
13. インレイマウント: 楮100%手漉紙・メチルセルロース + 生麩糊
14. 補彩: 色鉛筆・水彩絵具 (繕い部分)
15. 写真撮影
16. 和紙ヒンジで作品をマットに固定
17. 報告書作成

(山傾絵画修復工房 横田直子)



fig.3 裏面 裏打ち除去後



fig.4 修復後



fig.5 裏面 修復後

安井曾太郎《風景素描》

鉛筆・洋紙 22.0×25.2cm

石橋美術館

修復前寸法（裏打ち含む）

左辺：221mm 上辺：253mm

右辺：219mm 下辺：253mm

修復後寸法

左辺：220mm 上辺：250mm

右辺：218mm 下辺：252mm

署名・落款

画面右下に朱印がある。

書き込み

1. 裏面裏打紙右辺側に鉛筆による数字の書き込みがあった（fig.2）。

327

2. 本紙裏面右下に赤インクのスタンプがあり、スタンプ内に墨筆による数字の書き込みがある。また、その上部に鉛筆による数字の書き込みがある（fig.3）。

327

安井曾太郎画室之印NO.327

額装・台紙

酸性のボール紙にベタ貼りされていた。

組成

支持体は機械漉きの洋紙で、スケッチブックの1枚であるため、左辺に止め金具のための穴があいている。紙

の色はやや赤味のある乳白色で、表面は滑らかだが、網状の浅い凹凸がある。本紙への水の浸透は遅い。

描画には黒色の鉛筆が使用されている。

損傷

裏面に貼られた台紙が酸性のボール紙であったためか、支持体は簡易的なpH測定によると5.0の値を示し、酸性化が進行していた。全体に黄色化の傾向があり、特にマットの窓内の露出していたきわの部分に強い変色が生じていた。また、全体に茶褐色の小さな斑点が生じていた。左辺のスケッチブックの留め穴部分は分離する際に引きちぎられているため、残った部分に破れや折れが生じていた。左右辺には台紙に固定するために画面側から貼られた紙製のテープが付着していた。

処置

1. 写真撮影、状態調査
2. 紙テープの除去
3. 裏打ちの除去
4. 水洗/ サクシオンテーブルを使用
5. 脱酸：水酸化マグネシウム/ サクシオンテーブルを使用
6. 漂白：過酸化水素水/ サクシオンテーブルを使用
7. 水洗/ サクシオンテーブルを使用
8. 脱酸：水酸化マグネシウム/ サクシオンテーブルを使用
9. 部分漂白：過酸化水素水
10. 水洗/ サクシオンテーブルを使用
11. 脱酸：水酸化マグネシウム/ サクシオンテーブルを使用
12. 留め穴部分の繕い：和紙・メチルセルロース

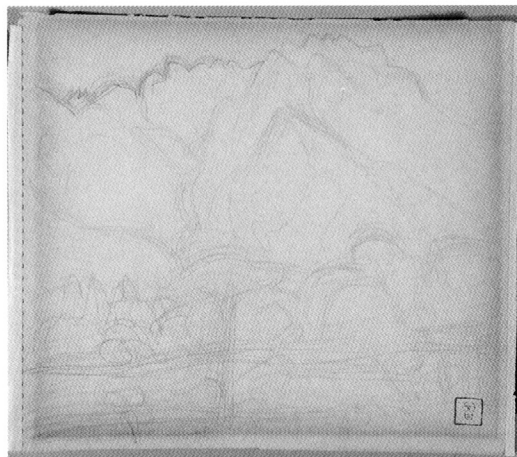


fig.1 安井曾太郎《風景素描》修復前

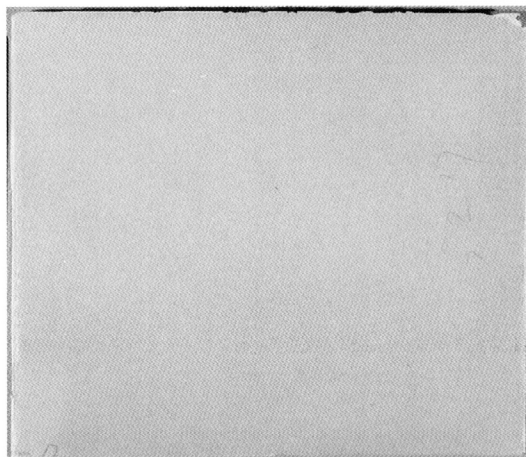


fig.2 裏面 修復前（台紙に数字の書き込みがある）

13. 裏打ち：楮100%機械漉和紙・生麩糊
14. 仮張り
15. 補彩：色鉛筆
16. 写真撮影
17. 裏打ち紙の一部を利用した和紙ヒンジで作品をマットに固定
18. 報告書作成

（山領絵画修復工房 横田直子）

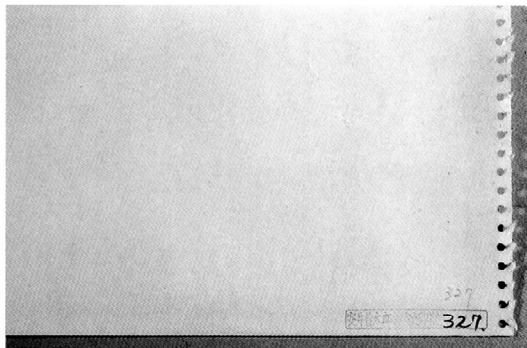


fig.3 裏面(部分)裏打ち除去後
(スタンプと数字の書き込みがある)



fig.4 修復後

「ジョージ・グロス」

神奈川県立近代美術館 / 2000年4月8日－5月21日

伊丹市立美術館 / 6月10日－7月30日

栃木県立美術館 / 8月6日－9月24日

ゲオルゲ・グロス 《プロムナード》(外洋167)

「うらわの画家とその時代」

うらわ美術館 / 2000年4月29日－6月18日

安井曾太郎《焼岳》(日洋264)

「東亞油畫の誕生與開展」

Oil Painting in the East Asia —Its Awakening and Development—

台北市立美術館, 台北 / 2000年6月3日－8月27日

藤島武二《東海旭光》(日洋51)

「小出檣重展」

名古屋市美術館 / 2000年7月15日－9月17日

京都国立近代美術館 / 10月3日－11月19日

小出檣重《帽子をかぶった自画像》(日洋137) *名古屋市美術館

小出檣重《横たわる裸身》(日洋140) *京都国立近代美術館

「岸田劉生展」

徳山市美術博物館 / 2000年8月18日－9月24日

岸田劉生《街道(銀座風景)》(日洋228)

岸田劉生《画家の妻》(日洋229)

「印象派と光の表現」

ふくやま美術館 / 2000年9月23日－10月29日

ピエール＝オーギュスト・ルノワール《水浴の女》(外洋136)

Greek Gods and Heroes in the Age of Rubens and Rembrandt

National Gallery, Athens, September 28–January 8, 2001

Dordrechts Museum, Dordrecht, February 3–May 6

レンブラント・ファン・レイン《ミネルヴァ》(寄託作品)

「20世紀の回顧・鹿児島と洋画」

鹿児島市立美術館 / 2000年9月29日－11月5日

藤島武二《チョチャラ》(日洋25)

藤田嗣治《ドルドーニュの家》(日洋132)

「近代日本の裸婦展」

井原市立田中美術館 / 2000年9月29日－11月12日

山下新太郎《シュザンヌ》(日洋211)

「梅原龍三郎展」

笠間日動美術館 / 2000年9月29日－10月29日

酒田市美術館 / 11月3日－11月26日

島根県立美術館 / 12月22日－2001年2月4日

下関市立美術館 / 2月9日－3月18日

岡山県立美術館 / 3月23日－4月15日

梅原龍三郎《脱衣婦》(日洋200) * 笠間日動美術館, 酒田市美術館

梅原龍三郎《ナポリよりソレントを望む》(日洋271) * 島根県立美術館

梅原龍三郎《椿》(日洋272) * 下関市立美術館, 岡山県立美術館

「牛島憲之展」

府中市美術館 / 2000年10月14日－11月26日

神戸市小磯記念美術館 / 2001年2月10日－4月15日

牛島憲之《タンクの道》(日洋212)

「グレー村の画家たち展」

山梨県立美術館 / 2000年10月21日－11月26日

府中市美術館 / 12月2日－2001年1月21日

西宮市大谷記念美術館 / 1月27日－3月4日

成羽町美術館 / 3月10日－4月15日

佐倉市立美術館 / 4月28日－6月3日

浅井忠《樹下の女》(日洋291) * 山梨県立美術館, 府中市美術館

浅井忠《グレーの洗濯場》(日洋290) * 西宮市大谷記念美術館, 成羽町美術館

浅井忠《グレーの橋》(日洋3) * 佐倉市立美術館

浅井忠《グレーの古橋》(日洋292) * 佐倉市立美術館

「白樺」

調布市武者小路実篤記念館 / 2000年10月28日－12月3日

オーギュスト・ロダン《裸婦》(外洋46)

「マティス、その原点」

兵庫県立近代美術館 / 2000年11月18日－2001年1月21日

アンリ・マティス《オダリスク》(外洋60)

「トゥールーズ＝ロートレック展」

サントリーミュージアム[天保山] / 2000年11月18日－12月24日

東武美術館 / 2001年1月2日－3月4日

アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック《カルナヴァル》(外版41) *サントリーミュージアム[天保山]

アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック《ムーラン・ルージュにて、ラ・ゲーリュとその姉》(外版39) *東武美術館

アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック《シルベリクにてボレロを踊るランデル》(外版44) *東武美術館

アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック《騎手》(外版181) *東武美術館

アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック《マルセル・ランデル嬢》(外版196-15) *東武美術館

「岸田劉生展」

愛知県美術館 / 2001年2月9日－4月1日

神奈川県立近代美術館 / 4月7日－5月20日

笠間口動美術館 / 5月26日－7月8日

岸田劉生《南瓜を持てる女》(日洋293) *愛知県美術館

岸田劉生《街道(銀座風景)》(日洋228)

「常設展示 日本と西洋の近代美術」

群馬県立近代美術館 / 2001年2月3日－7月6日

アメデオ・モディリアーニ《若い農夫》(外洋115)

「近代彫刻」

横浜美術館 / 2001年2月10日－3月31日

オーギュスト・ロダン《青銅時代》(外彫38)

オーギュスト・ロダン《考える人》(外彫39)

オーギュスト・ロダン《立てるフォーンネス》(外彫40)

パブロ・ピカソ《道化師》(外彫61)

アルベルト・ジャコメッティ《ディエゴの胸像》(外彫75)

エドガー・ドガ《アラベスク》(外彫76)

アレキサンダー・アーキベンコ《ゴンドラの船頭》(外彫88)

コンスタンティン・ブランクーシ《接吻》(外彫100)

Henri Rousseau und die Moderne

Kunsthalle Tübingen, Tübingen, February 3–June 17, 2001

アンリ・ルソー《イヴリー河岸》(外洋43)

Bonnard, Vuillard, Denis, Roussel: The Decorative Paintings

The Art Institute of Chicago, Chicago, February 21–May 16, 2001

The Metropolitan Museum of Art, New York, June 18–September 9, 2001

モーリス・ドニ 《ノバッカス祭》(外洋65)

Monet and Japan

National Gallery of Australia, Canberra, March 9–June 11, 2001

Art Gallery of Western Australia, Perth, July 7–September 16

クロード・モネ 《雨のベリール》(外洋164)

Picasso, las grandes series y los maestros del pasado

Museo Nacional Centro de Arte Reina Sofia, Madrid, March 26–June 18, 2001

パブロ・ピカソ 《画家とモデル》(外洋144)

「東亞油畫的誕生與開展」

Oil Painting in the East Asia —Its Awakening and Development—

台北市立美術館, 台北 / 2000年6月3日－8月27日

青木繁《大穴牟知命》(日洋197)

「長谷川利行展」

宇都宮美術館 / 2000年7月15日－8月20日

三重県立美術館 / 8月26日－10月8日

長谷川利行《動物園風景》(日洋155)

長谷川利行《裸婦》(日洋156)

「小出檐重展」

名古屋市美術館 / 2000年7月15日－9月17日

京都国立近代美術館 / 10月3日－11月19日

小出檐重《裸婦》(日洋138)

「小出檐重の素描」

芦屋市立美術博物館 / 2000年9月9日－10月22日

小出檐重《裸婦素描》(日洋139)

「20世紀回顧・鹿児島と洋画」

鹿児島市立美術館 / 2000年9月29日－11月5日

藤島武二《天平の面影》(日洋11)

「近代日本の裸婦展」

井原市立田中美術館 / 2000年9月29日－11月12日

岡田三郎助《髪梳く女》(日洋62)

和田英作《チューリップ》(日洋65)

「グレー村の画家たち展」

府中市美術館 / 2000年12月2日－2001年1月21日

西宮市大谷記念美術館 / 1月27日－3月4日

成羽町美術館 / 3月10日－4月15日

佐倉市立美術館 / 4月28日－6月3日

黒田清輝《針仕事》(日洋7) * 府中市美術館, 西宮市大谷記念美術館

和田英作《読書》(日洋64) * 成羽町美術館, 佐倉市立美術館

< 展覧会カタログ >

「東京国立近代美術館所蔵 近代の名作—日本画・洋画・版画・彫刻」(特別展示)

出品目録

図版(モノクロ5図)

発行: 石橋財団石橋美術館, 石橋財団石橋美術館別館(2000年)

26×19cm 4p



「リクエスト月間—贋作だってお見せします...」(コーナー展示)

“Your requests” month: anything you want to see - even forgeries!

解説

図版(モノクロ11図)

編集・発行: 石橋財団ブリヂストン美術館(2000年)

30×21cm 4p



Glass and ceramics of the Orient

26 × 19cm 93p



30×21cm 一枚もの

[illegible]

「ルノワール―異端児から巨匠への道 1870-1892」(特別展)

Renoir: from outsider to old master, 1870-1892

本文：

1870年代と80年代のルノワール―近代性、伝統、個性 / ポール・ヘイズ・タッカー (p.17-48)

カタログ(第1部 1870-1880; 第2部 1881-1892)

図版(カラー66図, モノクロ1図, 参考75図, 作家の肖像6図)

ルノワールの造形―セザンヌとの関係において / 宮崎克己 (p.177-187)

印象派からサロンへ―1870年代後半のルノワール / 深谷克典 (p.188-195)

ルノワール関連年表 (賀川恭子編)

参考文献リスト (賀川恭子編)

Renoir in the 1870s and '80s: modernity, tradition, and individuality / Paul Hayes Tucker (p.211-230)

The formal elements of Renoir's art and his relationship with Cézanne / Katsumi Miyazaki (p.231-241)

From the Impressionists to the Salon: Renoir in the latter half of the 1870s / Katsunori Fukaya (p.242-250)

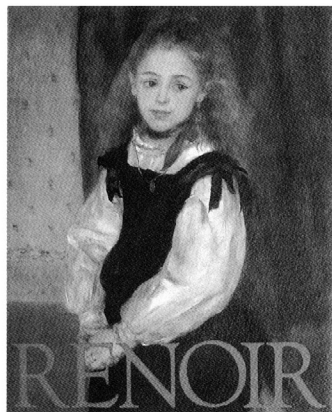
出品作品

編集: ブリヂストン美術館, 名古屋市美術館

制作: 印象社

発行: 中日新聞社 (2001年)

28×22.5cm 255p



<常設展示カタログ>

「2000年度石橋美術館別館常設展示作品目録」

出品目録

図版(モノクロ7図)

発行: 石橋財団石橋美術館別館

30×21cm 8p



< その他の刊行物 >

「館報」48号(1999年度)

Annual report of Bridgestone Museum of Art &
Ishibashi Museum of Art

内容：

設立趣旨，機構・運営

展覧会(特別展示，特集展示，コーナー展示)

教育普及(講座・講演会，ギャラリートーク，団体見学解説，実習生受入など)

入場者数(1999年度)

新収蔵作品(作品24点，資料7点)

新収図書

修復記録

モーリス・ドニ 《バッカス祭》/ 石井 亨 (p.41-44)

池田孤村 《夏秋楓図》/ 富永憲太郎 (p.45-46)

富田溪仙 《梢白鷺》/ 富永憲太郎 (p.47-48)

作品貸出記録

刊行物一覧

リニューアル(ブリヂストン美術館)

ブリヂストン美術館のリニューアル(改修)報告 / 富山秀男 (p.57-59)

地震対策(ブリヂストン美術館)

作品固定作業について / 黒川弘毅 (p.64-65)

絵画作品への地震対策 / 田中千秋 (p.66-68)

研究報告

古賀春江関連記事目次(1957-1990年) / 後藤純子 (p.69-78)

個人活動記録

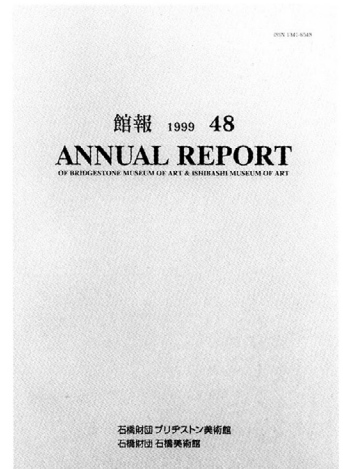
美術館案内

石橋財団職員

編集・発行：石橋財団ブリヂストン美術館，石橋財団石橋美術館(2001年3月)

制作：瞬報社

26×18cm 83p



作品の移管

<日本近代洋画>

ブリヂストン美術館と石橋美術館の両館のコレクションをより有効に活用するため、作品の移管を行った。

I. 石橋美術館よりブリヂストン美術館へ（4点）

1. 岡田三郎助《臥裸婦》/ 1901年 / 油彩・カンヴァス / 45.2×91.9cm / 日洋230
2. 青木繁《海景(布良の海)》/ 1904年 / 油彩・カンヴァス / 36.6×73.0cm / 日洋100
3. 古賀春江《涯しなき逃避》/ 1930年 / 油彩・カンヴァス / 116.6×91.2cm / 日洋166
4. 古賀春江《感傷の静脈》/ 1931年 / 油彩・カンヴァス / 116.9×91.4cm / 日洋165

II. ブリヂストン美術館より石橋美術館へ（78点）

1. 浅井忠《樹下の女》/ 1901年頃 / 油彩・カンヴァス / 45.8×37.8cm / 日洋291
2. 浅井忠《ヴェネツィア》/ 1902年 / 水彩・紙 / 36.0×22.0cm / 日洋5
3. 原田直次郎《童女図》/ 1885年頃 / 油彩・カンヴァス / 51.0×41.0cm / 日洋6
4. 原田直次郎《男の人》/ 1887年 / 油彩・厚紙 / 33.1×23.9cm / 日洋305
5. 原田直次郎《外国の男》/ 1889年 / 鉛筆・紙 / 27.5×24.5cm / 日洋311
6. 原田直次郎《村の風景》/ 油彩・板 / 32.9×24.0cm / 日洋307
7. 原田直次郎《風景》/ 水彩・紙 / 9.3×22.6cm / 日洋309
8. 藤島武二《噴水》/ 1908-09年 / 油彩・カンヴァスボード / 16.0×21.9cm / 日洋20
9. 藤島武二《チョチャラ》/ 1908-09年 / 油彩・カンヴァス / 45.5×38.0cm / 日洋25
10. 藤島武二《ボンベイ》/ 1908-09年 / 油彩・板 / 26.1×35.0cm / 日洋28
11. 藤島武二《雲(ローマ)》/ 1908-09年 / 油彩・カンヴァス / 22.1×38.1cm / 日洋33
12. 藤島武二《イタリアの海》/ 1908-09年 / 油彩・板 / 23.7×32.1cm / 日洋37
13. 藤島武二《浪(大洗)》/ 1931年 / 油彩・カンヴァス / 33.3×45.6cm / 日洋48
14. 藤島武二《屋島よりの遠望》/ 1932年 / 油彩・カンヴァス / 52.9×72.5cm / 日洋50
15. 藤島武二《旭光(新高山)》/ 1935年 / 油彩・カンヴァス / 38.0×45.8cm / 日洋244
16. 藤島武二《琉球の女》/ 1936年 / 鉛筆・紙 / 38.3×28.2cm / 日洋55
17. 藤島武二《黄浦江》/ 1938年 / 水彩・紙 / 27.5×36.2cm / 日洋57
18. 藤島武二《打掛の女》/ 油彩・板 / 29.4×18.5cm / 日洋236
19. 藤島武二《花》/ 油彩・板 / 24.0×18.7cm / 日洋237
20. 藤島武二《日の出》/ 1931-33年頃 / パステル・紙 / 27.4×36.2cm / 日洋239
21. 藤島武二《日の出》/ 1931-33年頃 / 油彩・板 / 23.7×33.2cm / 日洋242
22. 藤島武二《日の出》/ 1931-33年頃 / パステル・紙 / 27.8×36.2cm / 日洋243
23. 藤島武二《日の出》/ 1931-33年頃 / 油彩・板 / 18.8×24.1cm / 日洋246
24. 山下新太郎《シュザンヌ》/ 1909年 / 油彩・カンヴァス / 53.1×42.9cm / 日洋211
25. 山下新太郎《百合子像》/ 1912年 / 油彩・カンヴァス / 12.8×9.5cm / 日洋422
26. 山下新太郎《グレーのホテルの女》/ 1908年 / 油彩・板 / 17.9×13.6cm / 日洋417
27. 山下新太郎《和蘭デルフト花瓶と薔薇》/ 油彩・カンヴァス / 45.5×38.3cm / 日洋430
28. 山下新太郎《和蘭水盤と薔薇》/ 油彩・カンヴァス / 46.2×54.7cm / 日洋431
29. 山下新太郎《薔薇》/ 油彩・カンヴァス / 46.0×55.0cm / 日洋432
30. 山下新太郎《春の庭》/ 1942年 / 油彩・カンヴァス / 40.9×32.8cm / 日洋433
31. 山下新太郎《藤》/ 1942年 / 油彩・カンヴァス / 60.6×72.7cm / 日洋434
32. 山下新太郎《父山下七兵衛の死面》/ 1920年 / 油彩・カンヴァス / 32.7×40.5cm / 日洋435
33. 山下新太郎《フランス人形》/ 水彩, 鉛筆・紙 / 45.9×31.2cm / 日洋441
34. 山下新太郎《婦人像》/ 1906年 / 木炭・紙 / 31.9×24.0cm / 日洋443
35. 山下新太郎《パリの画室にて》/ 1908年 / 鉛筆・紙 / 18.3×10.7cm / 日洋444
36. 山下新太郎《パリにて》/ 1908年 / 鉛筆・紙 / 15.4×10.8cm / 日洋445
37. 山下新太郎《リオン・ド・バルフォール広場》/ 1909年 / 油彩・板 / 13.8×17.9cm / 日洋418
38. 山下新太郎《コンセル・ルージュにて》/ 1909年 / 油彩・板 / 17.5×13.5cm / 日洋420

-
39. 山下新太郎《ヴェニス》/ 1909年 / 水彩・紙 / 27.9×36.0cm / 日洋437
 40. 山下新太郎《靴の女》/ 1910年 / 鉛筆, 水彩・紙 / 16.0×11.6cm / 日洋446
 41. 山下新太郎《妻の母, 山崎ラウラ像》/ 1912年 / 油彩・板 / 17.9×13.5cm / 日洋421
 42. 山下新太郎《端午》/ 1915年 / 油彩・カンヴァス / 55.3×46.0cm / 日洋423
 43. 山下新太郎《山下百合子像》/ 1919年 / 油彩・板 / 22.0×15.3cm / 日洋424
 44. 山下新太郎《和子像》/ 1922年 / 油彩・カンヴァス / 33.4×24.1cm / 日洋425
 45. 山下新太郎《婦女点茶図》/ 1922年 / 水彩, 鉛筆・絹本 / 25.5×16.5cm / 日洋438
 46. 山下新太郎《山下みね八歳像》/ 1930年 / パステル・紙 / 25.7×18.5cm / 日洋436
 47. 山下新太郎《ストロンボリ》/ 1931年 / 油彩・板 / 18.5×23.9cm / 日洋427
 48. 山下新太郎《見物席の一隅, テアトル・ド・ラ・ゲーテ》/ 1932年 / 油彩・板 / 18.4×23.0cm / 日洋428
 49. 山下新太郎《清水成就院》/ 1932年 / 水彩, 鉛筆・紙 / 13.7×20.6cm / 日洋439
 50. 山下新太郎《日食》/ 1943年 / 水彩・紙 / 20.6×18.0cm / 日洋440
 51. 山下新太郎《西芳寺苔寺》/ 1953年 / 油彩・カンヴァス / 27.2×34.7cm / 日洋429
 52. 和田三造《静物》/ 1959年 / 著色・紙本 / 35.9×50cm / 日洋453
 53. 青木繁《子守》/ 1904年頃 / 鉛筆・紙 / 17.2×10.6cm / 日洋296
 54. 青木繁《風景》/ 1910年 / 鉛筆, 淡彩・紙 / 14.9×22.4cm / 日洋447
 55. 金山平三《習作・女》/ 1915-34年頃 / 油彩・カンヴァス / 91.2×72.9cm / 日洋222
 56. 金山平三《菊》/ 1935-45年頃 / 油彩・カンヴァス / 53.0×72.7cm / 日洋257
 57. 金山平三《港》/ 1945-56年頃 / 油彩・カンヴァス / 33.5×52.9cm / 日洋120
 58. 藤田嗣治《横たわる女と猫》/ 1932年 / 油彩・カンヴァス / 65.0×100.0cm / 日洋215
 59. 藤田嗣治《カルボアの公園》/ 1940年 / 油彩・カンヴァス / 31.8×40.9cm / 日洋133
 60. 梅原龍三郎《静物(りんごと梨)》/ 1917年 / 油彩・カンヴァス / 20.7×43.9cm / 日洋270
 61. 安井曾太郎《ばら》/ 水彩・紙 / 26.7×34.9cm / 日洋269
 62. 梅原龍三郎《桜島》/ 1935年 / 油彩・紙 / 24.2×27.2cm / 日洋274
 63. 高島野十郎《筑紫観世音寺》/ 1952年 / 油彩・カンヴァス / 45.6×52.9cm / 日洋466
 64. 牧野虎雄《ひまわり》/ 1929年 / 油彩・カンヴァス / 116.7×90.8cm / 日洋198
 65. 岸田劉生《画家の妻》/ 1914年 / 油彩・カンヴァス / 53.0×45.7cm / 日洋229
 66. 岸田劉生《麗子像》/ 1922年 / テンペラ・カンヴァス / 41.0×31.9cm / 日洋226
 67. 伊原宇三郎《ティツィアーノ〈フローラ〉の模写》/ 1958-59年 / 油彩・カンヴァス / 81.4×64.2cm / 日洋393
 68. 古賀春江《自画像》/ 1916年 / 水彩・紙 / 14.2×8.9cm / 日洋322
 69. 古賀春江《美しき博覧会》/ 1926年 / 水彩・紙 / 38.4×56.5cm / 日洋321
 70. 佐伯祐三《広告貼り》/ 1927年 / 油彩・カンヴァス / 73.4×60.2cm / 日洋176
 71. 高田力蔵《アングル〈泉〉の模写》/ 1938年 / 油彩・カンヴァス / 144.8×74.1cm / 日洋407
 72. 中西利雄《ピアノのある部屋》/ 1947年 / 水彩・紙 / 60.6×47.9cm / 日洋181
 73. 高田力蔵《ミレー〈落穂拾い〉の模写》/ 1958年 / 油彩・カンヴァス / 80.0×109.0cm / 日洋408
 74. 高田力蔵《ターナー〈雨・蒸気・速力〉の模写》/ 1959年 / 油彩・カンヴァス / 71.7×93.7cm / 日洋409
 75. 荻須高德《巴里風景》/ 1949年 / 水彩, ペン, インク・紙 / 25.5×35.4cm / 日洋282
 76. 荻須高德《巴里風景》/ 1949年 / 水彩, ペン, インク・紙 / 25.4×32.7cm / 日洋283
 77. 荻須高德《巴里風景》/ 1949年 / 水彩, ペン, インク・紙 / 24.5×32.6cm / 日洋285
 78. 佐藤敬《作品》/ 1957年 / 油彩・カンヴァス / 89.1×116.0cm / 日洋490

*ただし、浅井忠《樹下の女》は、他館への貸出の関係により、実際には2001年度に移管されることになった。(→ p.54)

<オリエントのガラスと陶器、その他>

石橋美術館別館の常設展示作品の充実のために、財団所蔵作品のうち、地域的に東洋の範疇にあるもの81点をブリヂストン美術館より石橋美術館別館へ移管した。

1. 《仏頭》/ アフガニスタン(ハッダ) / 2-4世紀 / 漆喰 / H.20.5cm / 外彫29
2. 《仏頭》/ 中国 / 7-9世紀 / 石 / H.11.2cm / 外彫83
3. 《仏頭》/ 中国 / 7-9世紀 / 石 / H.11.8cm / 外彫84
4. 《頸飾》/ イラン / 紀元前10世紀 / 雑16
5. 《円形切子碗》/ イラク / 6世紀前半 / ガラス / H.8.8cm, D.11.8cm / 雑17
6. 《貼付幾何文長杯》/ イラン(イラン北部) / 2-3世紀 / ガラス / H.22.7cm, W.9.5cm / 雑18
7. 《突起文括碗》/ シリア・パレスチナ / 3世紀中葉-後半 / ガラス / H.8.6cm, D.11.7cm / 雑19
8. 《円筒形把手付瓶》/ シリア・パレスチナ / 4世紀初頭-中葉 / ガラス / H.24.8cm, W.10.4cm / 雑20
9. 《梨形長頸瓶》/ シリア・パレスチナまたはキプロス / 1世紀中葉 / ガラス / H.22.4cm, W.14.2cm / 雑21
10. 《貼付線文鼓形把手付瓶》/ イラン(イラン北部) / 10世紀末 / ガラス / H.19.2cm, W.14.1cm / 雑22
11. 《脚台把手付瓶》/ シリア・パレスチナ / 4世紀 / ガラス / H.44.3cm, W.17.7cm / 雑26
12. 《大皿》/ エジプト / 4世紀 / ガラス / H.5.8cm, D.34.8cm / 雑27
13. 《五角小瓶》/ シリア・パレスチナ / 3世紀後半-4世紀 / ガラス / H.8.1cm, W.2.4cm / 雑50
14. 《突起文瓶》/ シリア・パレスチナ / 3世紀 / ガラス / H.11.2cm, W.7.3cm / 雑51
15. 《貼付紐文広口瓶》/ シリア・パレスチナ / 4世紀前半 / ガラス / H.11.3cm, W.8.7cm / 雑52
16. 《貼付紐文広口瓶》/ シリア・パレスチナ / 4世紀前半 / ガラス / H.7.8cm, W.7.3cm / 雑53
17. 《梨形瓶》/ シリア・パレスチナまたはキプロス / 1世紀後半 / ガラス / H.12.8cm, W.9.4cm / 雑54
18. 《球形長頸瓶》/ シリア・パレスチナ / 2世紀中葉-後半 / ガラス / H.19.9cm, W.14.7cm / 雑55
19. 《動物幾何文嘴形注口把手付壺》/ イラン / シアルクVI(紀元前1千年紀) / 土器 / H.19.4cm, W.24.2cm / 陶115
20. 《白地多彩鳥文鉢》/ イラン(サーリー) / 10-11世紀 / 陶器 / H.6.8cm, D.18.1cm / 陶116
21. 《白搔落象文鉢》/ イラン(ガルス) / 11-12世紀 / 陶器 / H.12.0cm, D.28.5cm / 陶117
22. 《青釉刻線文輪花鉢》/ イラン / 11世紀後半-12世紀 / 陶器 / H.9.1cm, D.20.0cm / 陶118
23. 《ラスター彩人物文鉢》/ イラン / 13世紀 / 陶器 / H.6.5cm, D.17.4cm / 陶119
24. 《紫釉螢手刻線文鉢》/ イラン / 12世紀 / 陶器 / H.7.8cm, D.19.0cm / 陶120
25. 《ラスター彩幾何文鉢》/ イラン / 13世紀 / 陶器 / H.6.8cm, D.15.5cm / 陶121
26. 《藍釉黒彩花鳥文鉢》/ イラン(カーシャーン) / 13世紀 / 陶器 / H.7.2cm, D.15.9cm / 陶122
27. 《藍釉黒彩魚文鉢》/ イラン(スルターナバード) / 13世紀後半-14世紀前半 / 陶器 / H.10.7cm, D.21.6cm / 陶123
28. 《多彩彩刻線文鉢》/ イラク / 9-10世紀 / 陶器 / H.7.7cm, D.22.6cm / 陶124
29. 《白地多彩人物文鉢》/ イラン / 13世紀? / 陶器 / H.9.7cm, D.22.4cm / 陶125
30. 《白地藍緑彩花文鉢》/ イラン(スルターナバード) / 13世紀後半-14世紀前半 / 陶器 / H.11.2cm, D.21.6cm / 陶126
31. 《青釉文字文鉢》/ イラン / 13世紀後半-14世紀前半 / 陶器 / H.8.9cm, D.16.0cm / 陶127
32. 《白盛上花鳥文鉢》/ イラン(スルターナバード) / 13-14世紀 / 陶器 / H.8.2cm, D.15.9cm / 陶128
33. 《白地藍黒彩花文鉢》/ イラン / 13世紀 / 陶器 / H.8.8cm, D.20.5cm / 陶129
34. 《白釉螢手花文鉢》/ イラン / 18世紀 / 陶器 / H.6.5cm, D.19.2cm / 陶130
35. 《青釉黒搔落金彩花文鉢》/ イラン / 13世紀後半-14世紀前半 / 陶器 / H.8.9cm, D.19.7cm / 陶131
36. 《白釉水煙草瓶》/ イラン? / 19-20世紀 / 陶器 / H.15.5cm, W.8.8cm / 陶132
37. 《白釉刻線文鉢》/ イラン / 18世紀 / 陶器 / H.5.4cm, D.12.8cm / 陶133
38. 《白地多彩騎馬人物文角瓶》/ イラン / 20世紀初頭 / 陶器 / 27.1×11.7×6.9cm / 陶134
39. 《白地藍彩花唐草文壺》/ イランまたはトルコ / 17世紀 / 陶器 / H.12.2cm, W.11.4cm / 陶135
40. 《白地藍彩花鳥文鉢》/ イラン / 17世紀 / 陶器 / H.5.6cm, D.11.4cm / 陶136
41. 《白地多彩花鳥文鉢》/ イラン / 18-19世紀 / 陶器 / H.8.5cm, D.18.4cm / 陶137
42. 《白地多彩狩獵文柑子口瓶》/ イラン / 19世紀 / 陶器 / H.17.5cm, W.13.5cm / 陶138
43. 《青釉黒彩草花文鉢》/ イラン? / 19世紀 / 陶器 / H.9.6cm, D.18.5cm / 陶139
44. 《多彩彩刻線花文台付鉢》/ 東地中海地方 / 12-13世紀? / 陶器 / H.9.2cm, D.14.5cm / 陶140

-
45. 《青緑釉黒彩花文把手付壺》/ シリア(ラッカ?) / 13世紀 / 陶器 / H.16.1cm, W.13.1cm / 陶141
 46. 《青緑釉黒彩壺》/ イランまたはシリア / 13-14世紀 / 陶器 / H.24.3cm, W.17.5cm / 陶142
 47. 《白釉多彩草花幾何文把手付壺》/ 19-20世紀 / 陶器 / H.16.8cm, W.16.8cm / 陶143
 48. 《青緑釉把手付壺》/ シリア / 13-14世紀 / 陶器 / H.12.9cm, W.13.9cm / 陶144
 49. 《青緑釉黒掻落花文鉢》/ イラン / 12-13世紀 / 陶器 / H.8.4cm, D.19.7cm / 陶145
 50. 《青緑釉黒彩蔓草文八耳壺》/ イランまたはシリア / 13-14世紀 / 陶器 / H.18.1cm, W.22.8cm / 陶146
 51. 《白地刻線花文鉢》/ イラン(カスピ海南岸地方) / 11世紀 / 陶器 / H.8.4cm, D.19.7cm / 陶147
 52. 《青緑釉耳付壺》/ イラクまたはイラン / 5-7世紀 / 陶器 / H.17.5cm, W.22.4cm / 陶148
 53. 《青緑釉耳付壺》/ シリア / 7世紀? / 陶器 / H.26.4cm, W.21.1cm / 陶149
 54. 《青緑釉鉢》/ イラン / 12-13世紀 / 陶器 / H.8.6cm, D.21.3cm / 陶150
 55. 《青緑釉黒彩花文皿》/ シリア / 15-16世紀 / 陶器 / H.7.0cm, D.26.5cm / 陶151
 56. 《ラスター彩草花文皿》/ スペイン / 16世紀? / 陶器 / H.6.0cm, D.37.8cm / 陶152
 57. 《ラスター彩草花文皿》/ スペイン / 16世紀? / 陶器 / H.8.0cm, D.37.4cm / 陶154
 58. 《ラスター彩蔓草文四耳壺》/ スペイン / 16世紀? / 陶器 / H.22.0cm, W.17.9cm / 陶155
 59. 《ラスター彩花文皿》/ スペイン / 17世紀? / 陶器 / H.4.5cm, D.18.9cm / 陶156
 60. 《ラスター彩花文皿》/ スペイン / 17世紀? / 陶器 / H.4.3cm, D.18.8cm / 陶157
 61. 《ラスター彩花文皿》/ スペイン / 17世紀? / 陶器 / H.4.7cm, D.19.1cm / 陶158
 62. 《白釉藍彩花文皿》/ スペイン / 17世紀? / 陶器 / H.5.0cm, D.18.2cm / 陶159
 63. 《ラスター彩蔓草文瓶》/ スペイン / 17世紀? / 陶器 / H.22.8cm, W.9.0cm / 陶160
 64. 《ラスター彩蔓草鳥文把手付瓶》/ スペイン / 17世紀? / 陶器 / H.24.1cm, W.13.1cm / 陶161
 65. 《青緑釉ランプ》/ エジプト / 13-14世紀 / 陶器 / H.8.5cm, W.12.6cm / 陶172
 66. 《青緑釉ランプ》/ エジプト / 13-14世紀 / 陶器 / H.8.1cm, W.11.1cm / 陶173
 67. 《青緑釉文字文鉢》/ イラン / 12-13世紀 / 陶器 / H.8.6cm, D.22.8cm / 陶174
 68. 《白釉多彩花文瓶》/ トルコ(キュタフィア) / 17世紀 / 陶器 / H.17.1cm, W.8.2cm / 陶175
 69. 《嘴形注口把手付壺》/ イラン(イラン北部) / シアルクVI(紀元前1千年紀) / 土器 / H.9.1cm, W.19.2cm / 陶180
 70. 《ラスター彩草花文輪花鉢》/ イラン / 13世紀後半 / 陶器 / H.9.5cm, D.15.3cm / 陶181
 71. 《青緑釉耳付壺》/ イラン / 20世紀初頭 / 陶器 / H.26.4cm, W.19.0cm / 陶185
 72. 《青釉黒彩花文鉢》/ イラン(スルターナバード) / 13世紀後半-14世紀前半 / 陶器 / H.10.4cm, D.21.3cm / 陶186
 73. 《幾何文台付鉢》/ イラン(テベ・シアルク) / シアルクIII(紀元前4千年紀) / 土器 / H.17.9cm, D.16.2cm / 陶200
 74. 《白地多彩人物花鳥文タイル》/ イラン / 19-20世紀? / 陶器 / 54.0×36.2×4.7cm / 陶201
 75. 《白地多彩人物草花文タイル》/ イラン / 19世紀 / 陶器 / 26.3×35.1×2.6cm / 陶202
 76. 《青釉黒彩草花文壺》/ イラン / 20世紀? / 陶器 / H.25.7cm, W.20.6cm / 陶203
 77. 《青釉黒彩草花魚文壺》/ イラン / 20世紀? / 陶器 / H.29.7cm, W.23.4cm / 陶204
 78. 《青緑釉藍黒彩花文瓶》/ イラン / 13世紀 / 陶器 / H.31.4cm, W.18.6cm / 陶205
 79. 《白地多彩人物文鉢》/ イラン / 13世紀 / 陶器 / H.7.1cm, D.16.9cm / 陶206
 80. 円空《仏像》/ 江戸時代 / 木 / H.66.0cm / 日彫6
 81. 円空《仏像》/ 江戸時代 / 木 / H.72.0cm / 日彫7
-

ルノワール展の開幕(2001年2月10日)にあわせて、八重洲通り沿い西ショーウィンドー内にビデオ・インスタレーションを設置した。

基本的な目的として次の3つが設定された。

- 1) 目印として(光を発するものによって人目を引き、美術館の存在を知らせる)
- 2) 作品として(ビデオ・インスタレーションとして質の高いものにする)
- 3) 情報として(ギャラリーの光景、絵画の一部などを映像に取り込んで、建物の中の様子を外に伝える)

和田守弘氏に制作を依頼し、ゲスト・キュレーターとして瀬島久美子氏に総括を依頼した。

作品の題名は《認知構造2001》、内容としては、6枚の金属パネルからなる屏風、そこに組み込まれた6台のモニター、屏風とガラス面(内側)へのペインティングという3つの要素(立体、映像、平面)からなるものとなった。和田氏が一貫して追求してきたRGB(赤、緑、青)の三原色を基礎的なテーマとし、映像(1サイクル9分)にはルノワール展にあわせて出品作品から数点を使った。また赤い花、緑の葉など自然物なども映像に取り込まれている。(担当=宮崎克己)

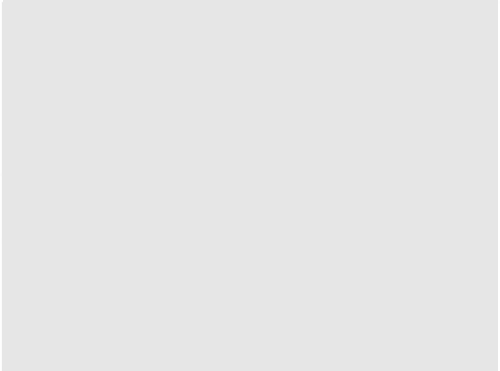


photo by Yamamoto Tadasu

和田守弘：

1947年生まれ。1960年代末からビデオ・アートに取り組む。カッセル・ドクメンタなどに出品、ニューヨーク近代美術館などに収蔵。

瀬島久美子：

1950年生まれ。インディペンデント・キュレーター。アメリカなどで音と映像を組み合わせたプロジェクトに多数参加。通産省、東京都などの諮問委員。

* なお、このインスタレーションの映像内容は、2001年度中に変更される予定。

青木繁《海》について

植野健造

はじめに

石橋財団石橋美術館では平成12年(2000)11月に、青木繁(1882-1911)の絵画作品《海》を収蔵した。本稿は、本作品について紹介するものである。本作品に関連する文献資料の収集や作品に即した調査などになお不足もあるが、ここでは現在までに把握しえた基礎的データを公開し、あわせて今後調査と考察をなすべき問題点をいくつか提示しておくことを目的としたい。

1 本作品の概要

まずは、本作品の概要について報告する。本作品(fig.1)はカンヴァスに油彩で描かれ、寸法は実測で縦36.5cm、横73.0cm、変形の横長の画面といえる。署名や年記はない。画面には、上部高い位置に水平線を取り、上方に空、下方に海面を描く。空の部分は、灰色がかった青紫で彩色される。左上方(画面の左右は向かっての意、以下同様)に水平線に平行するようになだらかな稜線の島山がうっすらと描かれ、その山は噴煙をなびかせているように見える。海上の水平線近くは濃い青色で、遠くより寄せてくるいまだ小さな白波がところどころに描かれる。その下方の画面の大部分は近景描写といえ、岩礁と海面に揺れ動く白い波が描かれる。岩礁は明度を分けた数種の茶

と黒、青などの絵の具が粗い筆触で点描風に、しかもいく重にも塗り重ねられている。波頭も青を下地として白い絵の具の筆触を左右にリズムカルに重ねて彩色される。筆触の配置と動きと重なりあいが、左右にゆきつもどりと激しく揺れる波頭の動きと質感をみごとに表現しえているといえるだろう。画面は絵の具層の上からいつの時代にか塗布されたニスが黄変している感もあるが、絵の具の剥落などの汚損はそれほど認められない。カンヴァスの張り具合に少しの凹凸が認められ、今後これを改善する処置は必要かもしれない。

画面のカンヴァスは、木枠に張られている(fig.2)。画面裏の木枠には昭和28年(1953)に国立近代美術館で開催された「近代洋画の歩み(西洋と日本)」展に出品された際の出品票と「川端家」と書かれた小さな紙、額縁裏に昭和62年(1987)から昭和63年にかけてアメリカ合衆国セントルイス、ニューヨーク、ロサンゼルスで巡回開催された「Paris in Japan」展に出品された際の出品票が貼付されている。木枠は古いもののように、青木在世時のものである可能性がある。額縁はそれほど古いものとは思われない。なお、額縁に取り付けられた吊り金具と、額縁と木枠とを固定する金具は、石橋財団入手後ただちに新しいものに取り替えたものである。

カンヴァス裏面には、おそらく木炭によるとみられる縦書き二行の書き込みが認められる。この書き込みは画面を正画像で裏返した時に右側に横向きとなるかたちで書かれている(fig.5、これを本稿筆者が書き起こしたものがfig.6)。書き込みは、「断雲搔天 / 風激上端」と読め

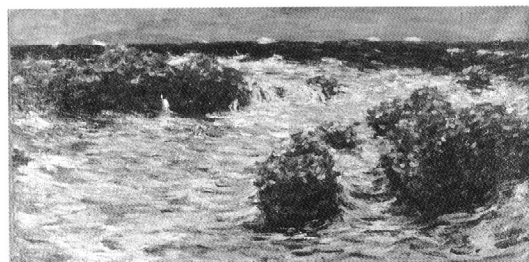


fig.1 青木繁《海》 1904年

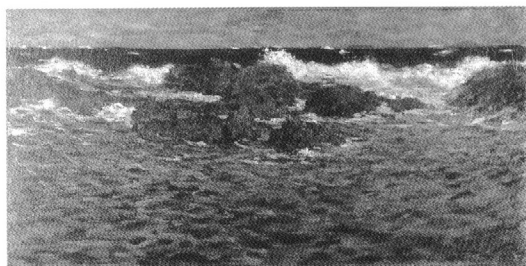


fig.3 青木繁《海景(布良の海)》 1904年

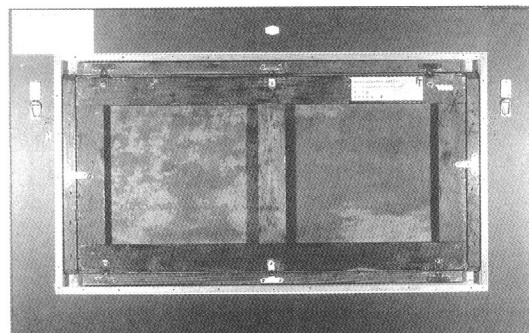


fig.2 《海》裏面

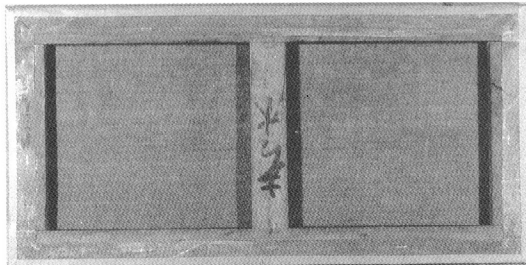


fig.4 《海景(布良の海)》裏面

る。「断雲(ちぎれぐも)天に搔(さわ)ぎ、風激しく湍(たん、急流の意)を上げる」の意であろう。典拠の有無は知りえていない。筆跡は一見して青木のものとするが、ここでは一文字のみに注目してこれを検証しておこう。1行目2字目の「雲」の字をみってみる。これを、青木の明治35年の《落葉径》(fig.7)(註1)の右下に書かれた書き込み2行目「若浮雲(浮雲の若し)」の「雲」の字や、あるいは明治37年の作とされる《歌入り自画像》(fig.8)(註2)の書き込み2行目冒頭の「東雲」の「雲」の字と比較するならば、これらを同一の筆跡として不自然ではなからう。また、中央の木枠に数文字の書き込みがあるようにも見えるが、これについては現在のところ判読できない。さらに、木枠の接合部に組み合わせる際に目印とした「*」「○」「×」「|」「||」「||」の墨書がある。

2 制作時期、関連作品

本作品には年記がないが、青木の年譜などから従来より明治37年(1904)の作とされてきた。制作状況、関連作品などを確認しておく。

青木繁は、東京美術学校を卒業した明治37年7月から8

月にかけて、坂本繁二郎、森田恒友、福田たねとともに写生旅行に出て房州布良海岸(現・千葉県館山市)に滞在し、海を題材としたすぐれた作品を少なからず制作した。青木の代表作《海の幸》(石橋美術館)(註3)は布良滞在中に制作されたものである。布良滞在中に青木は他に、海景を描いたいくつかの作品を制作したようであるが、比較的大画面の油彩画で完成度の高い作品としては3点が知られ、青木のカタログレゾネともいえる河北倫明『青木繁』(註4)に掲載されている。その1点がブリチストン美術館所蔵の《海景(布良の海)》(油彩、カンヴァス、36.6×73.0cm)(註5)であり、1点が本作品《海》である。もう1点は、青木没後の大正2年(1913)に発行された『青木繁画集』(註6)の「絵画目次」に「四九、磯、油、同(註: 明治)三十七年、2.00×1.50(註: 単位は尺、60×45cm)、野口氏蔵」として図版掲載される「磯(油画)」(fig.9)である。しかし、この作品は文献にも展覧会にもその後登場したことはなく、おそらく現存していないのではないかと想像する。《海景(布良の海)》については後でふたたびふれる。なお、《海》、《海景(布良の海)》のいずれの題名も青木がつけた当初のものではなく、作品の伝世の過程で定着していった現在の作品名であることをこたわっておきたい。

ところで、青木がこの年明治37年秋の白馬会第9回展に《海の幸》を出品し、画壇の注目を引いたことはよく知られている。白馬会第9回展については、現在のところ出品目録の存在が確認されておらず、出品内容の詳細は明らかではない。しかし、当時の新聞紙上や雑誌の展覧会評から、青木がこの時の展覧会に《海の幸》とともに「磯」と題する作品を出品していたことがわかる。それで、この「磯」と題する作品がどの作品にあたるのがさしあたり問題となろう。

白馬会第9回展における、青木の「磯」に関する展覧会評を引用してみることにする。

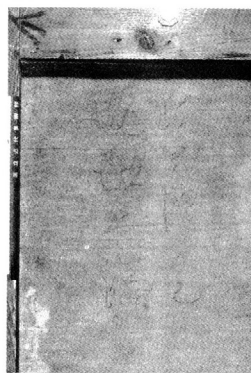


fig.5 《海》裏面の書き込み

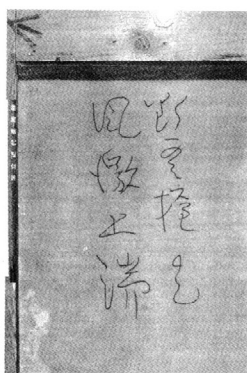


fig.6 《海》裏面の書き込みを描き起こしたもの

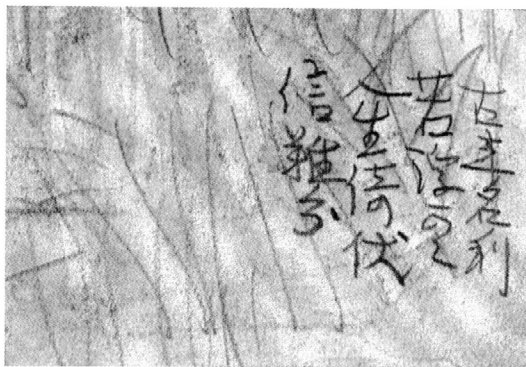


fig.7 青木繁《落葉径》の書き込み



fig.8 青木繁《歌入り自画像》

展覧会評 1)

石井柏亭「白馬会画評」『明星』辰歳第11号, 明治37年11月1日

「青木繁氏の『磯』は用筆堅固にして、よく潑刺たる海波と、粗き岩とを翻出し得、吾人をして理想画に耽れる氏に、尚此写実の筆あることを悦ばしめたり。」

展覧会評 2)

不美子「白馬会画評」『明星』辰歳第11号, 明治37年11月1日

「唯青木さんの『磯』は場所が暗い為めに一寸眼にも付きませんが、能く見ますと中々面白い画で、此室では第一を占めるでせう。」

展覧会評 3)

〇生記「白馬会展覧会(下)」『東京朝日新聞』明治37年10月24日

「青木繁氏の『磯』は怒濤の岩礁に激して洶湧せる趣がよく描出してあるが、中部以下が面白いと思ふ。」

現在までに筆者が把握している「磯」に関する展覧会評は以上の三つのみである。これだけでは、展覧会出品作「磯」がどれにあたるのかを特定することはできない。しかし実は、《海景(布良の海)》に関する次のような文献資料から、出品作品は《海景(布良の海)》であったものと推察されるのである。その資料とは、青木の友人であった高島宇朗が昭和5年(1930)に雑誌『みづゑ』に寄稿した一文である。この中で、当時この作品の所蔵者であった高島は作品について解説し、文中に高島に宛てた青木の書簡が紹介されている。高島の解説には重要な内容が含まれているし、青木の書簡も現存が確認されていないもので青木の文集『仮象の創造』(註7)にも収載されていない貴重なものである。《海》にとっても貴重な関連文獻となるので、長くなるがここに引用しておきたい。



fig.9 青木繁《磯》(『青木繁画集』より)

文献 1)

高島宇朗「青木繁の『波の磯』について」『みづゑ』第306号, 昭和5年8月

「『波の磯』は、明治三十七年の夏、青木君が房州布良旅行中、有名な『海の幸』と同じ頃に出来たものである。

これを岩の上で描きあげるまでに、三度ほど海風にさらはれたといふて居った。何せ、風も波もひどい処で、今度はと、しつかり気をつけ、左手で力一杯つかまえて描いているが興が乗って何時の間に加力がゆるむ隙に、ばあつとやられる。波に持つて行かれることよりも、岩角にぶつつけられ破られるかの方が一層心配で、着たぐるみ、何もかなく、いきなりに飛び込んで、泳ぎ取って、やつと天日に乾して描いて居て、亦やられる。仕舞には、飛び込むのを覚悟の、前後三回人と絵と汐を潜つた一所懸命の製作。当時の意気冲天の青木君でなければ、やらない業だ。

画面の水平線上右寄に、二つある島影の最右端の頭の尖つてるのが大島である。もと中央下部の波の上に、一羽の白い海鳥、翼を張つて飛んで居るのがあつたけれど、青木君に相談して消して貰つた。どうも素人受をねらつて、取つてつけたやうで、目触になつて仕方がなかつたからである。最初は或は無かつたかと思ふ。

色は、極めて鮮明で、南海の盛夏、朗晴の畫なけば、洋上高く横流する黒潮の紫藍を、湧きあがる洪音を、磯波の砕け、砲を、如実に見聞くのであつた。が、時とともに調子が大分沈鬱になつた。

『波の磯』について、青木君の書簡がある。差支のないやうな処を抜いてみる。

前略先日は参堂御邪魔御厚礼申上候時に小生は来十七日又は十九日に当地出立可仕組罷仕候

……既に小生は何れにしても貴下へ進呈せん心ありて候故且つは小生の菲才無能をも捨てず『波の磯』を好み玉ふ様を見て心中此事を覚え候故……

玆今回小生帰省既九ヶ月の長日月に及び候へ共曾て御約束申上候紀年製作之儀如何にしても筆を執る能はず気が進まず腕にぶりて貴下に対し幾度か御謝絶せんかと考候へ共折角の事かつは何時か健康を復するの日あらんと空しく今日に及び候へばむしろ彼『波の磯』を差上げんと決心仕候改めて御納被下候はゞ幸甚に候……御承知之通彼『波の磯』は絵具代のみにて〇〇〇円余を要し居り申候(佛国スモールチューブ)其他雜費種々の運賃等彼画には別に甚だ少からざる額を費し小生には愛着離す能はざる位にて既に白馬会展覧会出品之折も〇〇〇〇〇(額縁付)の評定価格にて陳ね候へ共右の事情にて売逸を恐れ中ごろ非売品と改め候其の後小生と貧苦を共にしたる紀念物として他の何れの作よりもこの画を見れば中心非常の慰藉を得無限の感興を覚え候ものに候(何とぞ可愛がつて下さい)……………如期不

十月十二日 / 高島 兄 / 座下 / 青木栞

………

例の達筆で巻紙二間位に書きつづけたものゝ中から、三分一ばかりの抜抄である、巻紙の初の小口は、ぞんざいながら刃物で押切つてあるけれど、末尾は、面倒臭くなつたのかいきなり引裂いてある。封筒には、肩に「野中山荘」として「高島宇朗兄」、脇に「托使乞返書」、裏は「青木繁」、左肩に「十月十二日晚景」と、きもちよく書き流されてある。」

文中に引用される青木の書簡が書かれた年が残念ながら明らかなでない。「叔今回小生帰省既九月月の長日月に及び候へ共」と「十月十二日」の日付が判断材料となるのであるが、これまで知られている青木の年譜にうまくおさまらないためである。ここでは、この問題に深く立ち入ることを避けるが、明治39年か明治41年のいずれかの年、より絞れば明治39年の可能性が高いことを指摘するにとどめておきたい。そのことはさておき、この資料から、《海景(布良の海)》が白馬会第9回展の出品作であったと判断されるのである。青木の書簡から、この作品の制作にあたってはずいぶんと苦心したために愛着があり、白馬会展に出品した際も当初は売価をつけて展示していたが、会期途中から手放すのを惜しみ非売品に改めたことが記されている。また、《海景(布良の海)》が青木在世中に高島の手にわたったことがこれよりわかる。ちなみに高島は青木と同郷の久留米の生まれで、《輪転》(明治36年、石橋美術館)をやはり青木在世中の明治40年に青木から譲り受けている。《海景(布良の海)》にしても《輪転》にしても、作品を買い取るというよりも、金銭的援助の見返りというかたちでの作品譲渡であったと想像される。

さて、《海景(布良の海)》と《海》にもどってこれを見比べてみよう。同サイズのこれら2作品は、《海景(布良の海)》が画面右下に「T.B.S. Aoki, 1904」の署名・年記をもち、より緊密な構図と細緻な筆致によって比較的に静かな落ち着いたある雰囲気を示すのにたいし、《海》には署名・年記はなく、より近景に焦点をあわせた構図と大ぶりの筆致を重ねることによっていきいきとした動勢感のある作品となっている。一見すると似通った構図と画風を示しながら、それぞれ特色ある作品となっていると言えるだろう。作品の質としては甲乙つけがたい感があるが、完成度は署名・年記のある《海景(布良の海)》の方がやや高いように思われる。この点からも、白馬会第9回展の出品作は《海景(布良の海)》であったものと推察することが妥当であろう。

3 来歴、展覧会歴

次に、本作品の来歴、展覧会歴について述べておく。

先にみたように、本作品が制作された明治37年(1904)

の白馬会第9回展に出品されたのは《海景(布良の海)》とみられる。本作品はその後青木在世中の展覧会には出品された記録はない。本作品が初めて文献等に登場するのは、前出の大正2年(1913)発行の政教社版『青木繁画集』においてである。この画集において、「絵画目次」の「四〇、海、油、同三十七年、2.30×1.15、蒲原氏」とあり、カラー図版掲載されるのが本作品である。この画集は、刊行の前年、すなわち青木の没した翌年の明治45年(大正元年)の3月15日から3月31日まで東京上野の竹之台陳列館で開催された「青木繁君遺作展覧会」に出品された作品を中心として編纂されたものと想像されるが、本作品がこの展覧会に出品されたのかどうかは不明である。この時に発行された『青木繁君遺作展覧会目録』(註8)には本作品と特定できるものはみあたらない。ただ、この目録の「9 海景 正宗氏蔵」とあるのが本作品にあたる可能性はある。大正2年の政教社版『青木繁画集』に所蔵者として「蒲原氏」とあるのは、生前の青木と交友のあった詩人の蒲原隼雄(有明)のことである。この作品がどのような経緯で大正2年以前のいつ蒲原の所蔵となったのかは定かではない。考えられるのは二つである。一つは、青木生前の明治37年頃に青木自身から蒲原に譲られたとする見方である。後でみるように、この時期、蒲原は本作品を青木の下宿で見ており、しかも高く評価していたことがわかるからである。ただし、この見方に立てば、蒲原も開催に尽力した明治45年の遺作展に出品されてよいはずなのであるが、先にみたようにこの時の出品目録に本作品が載っていないことが説明しづらい。いま一つは、遺作展の開催や画集の編集の過程で蒲原の所蔵となったとする見方である。この遺作展や画集の刊行にあたっては、蒲原とともに坂本繁二郎らの友人が奔走したのであるが、その費用の捻出にずいぶんと苦勞をしたようである(註9)。この中にあって、蒲原はすでに象徴派詩人として成功しており、その費用を負担するかわりに本作品を引き取ったという可能性もあるのではないだろうか。現時点ではいずれとも断定しがたい。ともかくその後長らく、第二次大戦後まで本作品は蒲原の所蔵であった。その蒲原は昭和27年(1952)に没するが、蒲原の晩年に作家の川端康成に譲られたようである(註10)。

その後の来歴と展覧会歴については以下に箇条書き風に列記しておく。

- ・昭和28年(1953)2月1日－4月15日、「近代洋画の歩み(西洋と日本)」展、国立近代美術館に出品される(no.7)。
- ・昭和47年(1972)4月22日－6月4日(ブリヂストン美術館)、6月11日－7月16日(石橋美術館)、「生誕90周年記念 青木繁展」に出品される(no.17)。
- ・昭和47年(1972)、河北倫明『青木繁』、日本経済新聞社、no.140
- ・昭和59年(1984)10月2日－10月14日、「海・その幸と形

象」展、三重県立美術館に出品される(no.33)。この展覧会開催時には、フジキ画廊(東京都中央区銀座)の所蔵であったとみられる。

・昭和62年(1987)10月2日－11月22日(Washington University Gallery of Art, St. Louis, Missouri), 12月11日－1988年2月7日(Japan House Gallery, New York), 2月21日－4月3日(Wight Art Gallery, University of California at Los Angeles), 「Paris in Japan」展に出品される(no.1, 東京・フジキ画廊)。

・平成12年(2000)11月25日、東京都中央区銀座で開催されたオークションジャパン株式会社によるA.J.C.オークションに出品される。石橋財団が落札。

4 蒲原有明(隼雄)の本作品に関する言説

本作品は詩人の蒲原有明が長く所蔵するところであったが、その蒲原がこの作品の意義と来歴などに関して貴重な言説を残しているのが、これもあわせてここに引用しておきたい。

文献 2)

蒲原隼雄「蠱惑的画家(伝説と印象)」『青木繁画集』, 政教社, 大正2年4月

(明治37年秋、蒲原が初めて神明町の青木の下宿を訪ねた時を回想して)

「談話はまたちみちな画のことに移つて来た。青木君は例の鴨居の上の海の画を見あげて、『君あの画をどう思ふね、あの赤い巖には随分こまつたのだ。』といつて、僕が画面の深い色と烈しい光とに見入て居るひまに、『まるで蜂の巣、蜂の巣』と附加へた。僕はひょいと調子をはづされて、青木君の軽い諧謔の気持の中に浸つて行つた。

だがこの海の画は何うしても魔術者の描いた画である。単にスペクトラムの原理からは出来ない画である。絵具で捏ね廻した幻感に頼つたものでは素よりない。青木君のこの時の自然の観取が、まるで神話のやうに直接で、象徴的で、そして個性的であつたことは今更繰返すまでもないことである。青木君がどうしてもあの強い日光を画面に捕へて圧搾したらう。沸きたつ海の動揺そのものゝ中には、画家の神経が溺れもせずに微笑んで居るではないか。巖に射返す真赤な日光は恰も画家の魂の発散のやうである。そして青木君はこれを描くに独創的で、自由で大胆なアンプレッショニズムを行つたのである。」

※註) 本文章は多少の変更を加えられて、蒲原有明『飛雲抄』, 昭和13年12月, 書物展望社, に収載。

文献 3)

蒲原有明『夢は呼び交す』, 昭和22年11月, 東京出版
(蒲原有明『夢は呼び交す』, 岩波文庫, 昭和59年4月,

所載)

「一旦古い説話に出てくる盲人の活手段を身に引き当てて蘇生のおもいをしたものの、それもその当座だけで、そのあとで鶴見はまた一層の疲労をおぼえた。実はこの一か月ばかり前から、どういふものか、たあいもなくぐったりしていたのである。それではいけぬと反撥して、気を変えてみる手段をいよいよ実行することにした。このほどから客間も自由に使えるようになったので、床の壁に青木の絵をかけるというだけの仕事である。それを億劫がつて躊躇していたのを、今日はもはや猶予もせず、直ちに老刀自を呼んで相談して、娘にいつけて、青木の絵を取り出してかけさせた。

青木の絵が戦災から助かったのには、こんないきさつがある、衣類や蒲団などを少しばかり纏めて静岡市近郊の農家に預けた当時、急に思いついて、掛けてあった壁からおろして、古毛布にくるんだまま、蒲団の間に押込んでおいたものである。それがまだそのままにしてある。あちらこちらと持ち運んで来たものであるが、毛布を剥いで見れば、どこにも損傷がない。それを見て鶴見は無性に嬉しがる。

多数の蔵書はその殆どすべてを焼いてしまった。それであるのに、この一幀の画を戦火から救つておこうとした、あの発作的の行動は、そもそもどこから生れて来たものであろうか。鶴見はそれも一つの不思議である。

とにかく青木の画は、戦火から救われたのである。娘の静代がその絵を床の壁に掛けるのに骨を折っている。油絵には珍らしい横長の型である。しばらくするとそれが工合よく掛けられた。

故友の青木繁はその絵を房州の布良で描いた。一見印象派風のものであるが、故人は単に写実を目えてに筆を運んだものであろうか。鶴見はうべなわれない。かれにはどうしてもそうは思われぬからである。多分に作者の特異な個性と空想とが全画面に混り合い、融け合っている。印象は重んずるが、その表現は物象に直接ではなくて、幻想のつばを通して来たものである。真の意味における創作である。

海の水平線は画幀の上部を狭く割って、青灰色の天空が風に流れている。そこには島山の噴煙が靡き、雲が這っている。地理的にいえばこの島山はこの絵を描いた位置からは少しわきにはずれているのであるが、青木はそれを知りつつも、ことさらに画の正面に移して据えた。青木の心眼にはそう見えるのである。この島山は伊豆の大島である。

その天空の帯の下に、これも左に細く右へややひろがった青緑の海が動いている。ところどころに波頭がたつ。その海が前方に迫るに従って海中の岩礁に砕けてしぶきをあげる。更に前景には大きな岩礁が横たわり突き出ている。その間を潮流が湍津瀬をなして沸きあがり崩れ落ちる。岩礁には真夏の強い日光が反射す

る。紫褐色の地にめった無性に打たれた赤い斑点がちかちかと光ったり唸ったりしている。青木はこれをつつき廻していたので、蜂の巣蜂の巣といったが、その岩礁は蜂の巣というよりもむしろ怪獣のような巨大な生物に見える。狂乱に近い画家の精神が一種の自爆性を帯びて激しく発散する。いかなる怒濤にも滅されまいとする情意の熱がそこに眩いばかりの耀きを放って、この海景の気分をまとめようとさせる。それほどまでもこの岩礁は誰の眼にも異様に映るのである。

全画面はかくして、左から右へ、うしろから前へ、絶間なく揺すりどよめいて、動乱の極に達している。それがメヅウサの頭にもつれ絡まる蛇をおもわせる。

これが青木繁の若い時に描いた海景である。額縁の横幅約二尺八寸、縦幅一尺八寸はあろうと思われる。

鶴見は海と共に際涯もない感情を抱いてその画を丹念に見返し見返ししている。波と岩との争闘の外に火と海との相剋がそこにある。揺すり動かし砕き去ろうとする狂瀾怒濤に抗して、不滅を叫ぶ興奮から岩礁はいやが上にも情熱の火を燃やす。遠空にかすむ火山の円錐がこの死闘を静かに見おろして煙を噴く。

鶴見はその画の中に、人生における情熱と冷酷な現実との瞬間に縮められた永遠のたたかいを、ふいと見てとって深い深い息をつく。」

※註)『夢は呼び交す』は、小説風の形式による蒲原有明の自伝。詩人・野田宇太郎の依頼によって、野田らが創刊した『藝林間歩』に、昭和21年6月号から昭和22年5月号まで「黙子覚書」の題名で連載された。

むすび

本稿では、新収蔵品である青木繁の《海》についての概要を紹介してきた。本作品が青木の画業の中で、さらには日本近代洋画史の中でしめる意義や問題点についての考察は今後の課題としたい。ここではその問題の所在と展望について二つばかり指摘しておきたい。

まず、本作品《海》や《海景(布良の海)》が示すフランス印象派風の画風を青木がどのようにして獲得したのかが問題となる。青木の印象派受容のあり方が検証されるべきであろう(註11)。ただし、この問題の解明にあたっては、青木が印象派を受容しつつも、これら2作品が示す画風は青木なりに咀嚼消化されたものであり、蒲原が指摘したようにたんに印象派を模倣したものではないということに注意しておく必要があるだろう。

また、これら2作品において青木が示す印象派風を独自に消化した写実力や油彩画としての濃密なマティエールと、《海の幸》が示す画家のたぐいまれな想像力や未完成ともみられる薄塗りの彩色との対照をどのように意義づけるかという問題も重要と思われる。その際には、青木が明治40年に《わだつみのいるこの宮》(石橋美術館)を発表した際の自作解説において、自身の過去と将来の研究課題について次のように述べていることが注意される。すなわち、絵画の成立には「想」「知」「技」の三要素が必要であり、明治37年の《海の幸》では「想」に、明治40年の《わだつみのいるこの宮》では「知」に、それぞれおもに意を注いだが、今後は「技」に重点をおき「対象を現実の自然に採り所謂写実なる者が如何なる点迄及ぶ可きかを試みる筈」と述べているのである。ここで青木が述べた写実的方向という点で、おそらく《海》はなにがしかの意義をになっていたのではないだろうか。しかし一方で、本稿筆者が本作品の制作された布良海岸を訪れ、その風景を眼にした実感としては(fig.11)、現実のありのままの風景を写真的に再現したものとはどうてい思われず、蒲原がこれも指摘しているように、青木の写実が「多分に作者の特異な個性と空想とが全画面に混り合い、融け合っている」ものであり、「印象は重んずるが、その表現は物象に直接ではなくて、幻想のるつばを通して来たものである。真の意味における創作である」という言説が説得力をもつもののように思われるのである。

(うえのけんぞう 石橋美術館)

註:

- 1) 鉛筆、淡彩・紙、13.0×18.0cm×2枚、北御牧村立梅野記念絵画館
- 2) 鉛筆、チョーク・紙、22.5×15.5cm、北御牧村立梅野記念絵画館
- 3) 油彩・カンヴァス、70.2×182.0cm
- 4) 河北倫明『青木繁』、日本経済新聞社、昭和47年10月
- 5) 《海景(布良の海)》は、昭和55年に修復を受けていて、画面に裏打ちのためのカンヴァスが貼られている。画面裏の木枠には「青木」「第九十九号」という墨書があり、さらに木枠の接合部に《海》と同様に、「○」「||」といった墨書が認められる。
- 6) 『青木繁画集』、政教社、大正2年4月
- 7) 河北倫明編、青木繁『仮象の創造』、中央公論美術出版社、昭和41年1月
- 8) 『青木繁君遺作展覧会目録』、博文館、明治45年3月
- 9) 明治45年の青木の遺作展開催や大正2年の『青木繁画集』刊行にあたって、蒲原有明、坂本繁二郎らが奔走した事情については、竹藤寛『青木繁・坂本繁二郎とその友一芸術をめぐる悲愴なる三友の輪一』、福岡ユネスコ協会、昭和61年、に詳しくうかがうことができる。
- 10) 河北倫明・陰里鉄郎『巨匠の名画10 青木繁』、学習研究社、昭和51



fig.11 千葉県館山市の布良海岸(2001年5月21日)

年9月、の「作品解説」。また、蒲原有明と川端康成との関係については、蒲原有明『夢は呼び交す』、岩波文庫、昭和59年4月、に収載される野田宇太郎の解説が参考になる。

- 11) この問題については、すでに、宮崎克己「日本におけるモネの受容」『モネ展』図録、石橋財団ブリヂストン美術館・他、平成6年2月、中でもふれられている。この論文の中では青木についてもふれられ、《海》などとの関係を念頭においたうえで、林忠正旧蔵のモネの《ペリールのライオン岩》(1886年、fig.10)が当時すでに日本に将来されていたことなどが指摘されている。また、長谷川洋・武沢喜美子編「林忠正年譜」『フランス絵画と浮世絵―東西文化の架け橋 林忠正―展』図録、高岡市美術館・他、平成8年、の明治33年の記事には、「帝室博物館内に林忠正コレクションの西洋画を常設展示する」という記載があり注意される。これらについての調査も今後の課題である。



fig.10 モネ《ペリールのライオン岩》1886年

個人活動記録

植野健造（石橋美術館・石橋美術館別館）

執筆：

- 『『近代の名作』展から』（1）～（7）『西日本新聞』2000年4月16日，17日，18日，19日，20日，22日，23日（筑後版）
- 『『新収蔵・移管名作選』から』『西日本新聞』2001年1月23日，24日，25日，26日，28日，29日，30日（筑後版）
- 「青木繁 わだつみのいろこの宮」「東郷青児 パラソルさせる女」「坂本繁二郎 壁」（作品解説，作家解説）20世紀の美編纂委員会編『20世紀の美 日本の絵画100選』日本経済新聞社，2000年10月

口頭発表・講演：

- 「日本近代洋画における郷土の画家たち—青木繁と坂本繁二郎」（久留米市立中学校美術教諭研修会）石橋美術館，2000年6月15日
- 「青木繁再考」（美術講座）石橋美術館，2000年11月11日
- 「新収蔵作品の紹介—青木繁《海》を中心に—」（美術講座）石橋美術館，2001年2月3日
- 「青木繁《海》をめぐって」（第39回日本近代美術研究会）石橋美術館，2001年2月24日
- 「青木繁の芸術」（青木繁記念大賞公募展ギャラリートーク）石橋美術館，2001年3月18日

出講・対外活動：

- 帝京大学福岡短期大学非常勤講師「美術史」2000年4月—9月
- 九州産業大学非常勤講師「日本美術史」2000年9月—2001年3月
- 柳川市史専門研究員，2000年4月—2001年3月

貝塚 健（ブリヂストン美術館）

執筆：

- 「美術館の教育普及の現場」『国立博物館ニュース』635号，2000年4月
- 「小出楢重 帽子をかぶった自画像」「藤島武二 芳恵」「岡鹿之助 雪の発電所」（作品解説，作家解説）20世紀の美編纂委員会編『20世紀の美 日本の絵画100選』日本経済新聞社，2000年10月

口頭発表・講演：

- 「日本人画家のヨーロッパ体験」（日曜レクチャー）ブリヂストン美術館，2000年4月23日
- 「日本近代美術を読む—黒田清輝《ブレハの少女》」（日曜レクチャー），ブリヂストン美術館，2000年4月

23日

- 『『文藝春秋』表紙絵から見た安井曾太郎』（美術講座）石橋美術館，2000年6月3日
- 「阪神大震災と美術館（阪神大地震と美術館）」（博物館災害防阻及危機処理研習營）中華民国台北市天母國際會議中心，2000年9月27日
- 「美術館と市民—美術館の，言いぐさ，言いわけ，言いがかり」（三重県立美術館「連続講演会—美術館と市民，地域社会を考える」）三重県立美術館，2000年11月5日
- 「ブリヂストン美術館の実践」（平成12年度 教員と学芸員のディスカッションvol.2「美術館での鑑賞教育の実践」）埼玉県立近代美術館，2000年12月9日
- 「全国美術館会議の美術館基準（案）に書かれていないこと」（平成12年度美術館等運営研究協議会「美術館の運営—国立美術館の独立行政法人化を前にして」）国立西洋美術館，2000年12月12日
- 「博物館資料の管理—美術館のコレクション・マネージメント」（平成12年度ミュージアム・マネージメント研修）国立科学博物館，2001年2月19日

出講・対外活動：

- 東京大学教育学部非常勤講師「博物館学特別研究II」2000年10月—2001年3月
- 全国美術館会議，博物館法検討委員会委員 ※継続
- さいたま市おおみや芸術創造館基本計画検討委員会委員 ※継続

後藤純子（石橋美術館・石橋美術館別館）

執筆：

- 「古賀春江関連記事目次（1957—1990年）」『館報』48号（1999年度），2000年3月

坂本恭子（ブリヂストン美術館）

口頭発表・講演：

- 「美術の中の「日本」—ジャポニズム」（日曜レクチャー）ブリヂストン美術館，2000年6月25日
- 「世紀末の接吻」（日曜レクチャー）ブリヂストン美術館，2000年6月25日
- 「世紀末ウィーンの装飾」（日曜レクチャー）ブリヂストン美術館，2000年7月23日
- 「かざる壁画—クリムト《ベートーヴェン・フリーズ》」（日曜レクチャー）ブリヂストン美術館，2000年7月23日
- 「装飾の構造—クリムトの場合」（美学会東部例会）早稲田大学，2000年9月30日

田内正宏（石橋美術館・石橋美術館別館）

執筆：

- 「青木繁の短歌」『黄櫨』2001年3月号

口頭発表・講演：

- 「絵画に登場するビーナス像」（早朝緑陰講座）石橋文化センター図書館南側広場，2000年6月16日
- 「青木繁と八女」（八女地区教育委員研修会）八女市役所，2000年10月30日
- 「19世紀末パリと日本趣味」（美術講座）石橋美術館，2000年11月25日
- 「青木繁と坂本繁二郎」（八女市文化講演会）八女市文化会館，2001年2月18日

出講・対外活動：

- 久留米大学非常勤講師「美術I」2000年4月－9月／「美術II」2000年9月－2001年3月／「博物館経営論」2000年4月－9月
- 九州産業大学非常勤講師「造形研究」「世界の美術館」2000年4月－2001年3月
- 西日本短期大学非常勤講師「美術史」2000年9月－2001年3月

田中千秋（ブリヂストン美術館）

執筆：

- 「日本の美術館，ここが悪い」『あいだ』53号，2000年5月

出講・対外活動：

- 東北芸術工科大学「博物館資料論」「文化財保存特講2」2000年4月－2001年3月

富山秀男（ブリヂストン美術館）

執筆：

- 「20世紀の洋画」20世紀の美編纂委員会編『20世紀の美 日本の絵画100選』日本経済新聞社，2000年10月
- 「香月泰男の素描―思い出すままに―」『“私の”素描集』（展覧会カタログ）山口県三隅町立香月泰男美術館，2000年6月
- 「都心のオアシスをめざして」『博物館研究』Vol.35, No.7, 日本博物館協会，2000年7月
- 「猪熊弦一郎 芸術と交遊の軌跡」（上・下）『四国新聞』7月30日，8月6日
- 「梅原龍三郎の赤について」『梅原龍三郎』（展覧会カタログ）中日新聞社，2000年9月

- 「晩年の岸田劉生―古画収集を中心に」『岸田劉生展』（展覧会カタログ）徳山市美術博物館，2000年9月
- 「聖なる山の画家 今野忠一の芸術」『今野忠一』（展覧会カタログ）天童市美術館，2000年10月

口頭発表・講演：

- 「安井曾太郎の芸術」（美術講座）石橋美術館，2000年5月20日
- 「近代日本洋画の作家たち」上原近代美術館，2000年9月10日
- 「梅原龍三郎芸術の特質」下関市立美術館，2001年3月11日

中田裕子（ブリヂストン美術館）

口頭発表・講演：

- 「日本近代洋画考―壁画」（日曜レクチャー）ブリヂストン美術館，2000年5月28日

中村節子（ブリヂストン美術館）

口頭発表・講演：

- 「インターネットと美術情報」（日曜レクチャー）ブリヂストン美術館，2000年5月14日

出講・対外活動：

- アート・ドキュメンテーション研究会，幹事 ※継続

福満葉子（ブリヂストン美術館）

口頭発表・講演：

- 「『レスタンプ・オリジナル』について」（日曜レクチャー）ブリヂストン美術館，2000年4月9日，5月14日，28日
- 「『レスタンプ・オリジナル』について」（ジャポニスム学会）ブリヂストン美術館，2000年4月15日
- 「『レスタンプ・オリジナル』とは何か？」（美術講座）石橋美術館，2000年8月26日
- 「アンソールと幻想の系譜」姫路市立美術館，2000年11月5日
- 「ルノワール―人と芸術」府中市生涯学習センター，2001年3月5日／豊島区民センター文化ホール，3月16日／足立区生涯学習センター，3月24日

平間理香（石橋美術館・石橋美術館別館）

口頭発表・講演：

- 「日本絵画と草花」（美術講座）石橋美術館，2000年11月4日

出講・対外活動：

- 柳川市史専門研究員，2000年4月－2001年3月

宮崎克己（ブリヂストン美術館）

執筆：

- 「ルノワールの麦わら帽子を被った女」『西日本新聞』2000年7月14日
- 「フランスー一八九〇年以降一装飾の時代ー」ジャポニスム学会編『ジャポニスム入門』思文閣出版，2000年11月15日
- 「ルノワールの造形ーセザンヌとの関係において」『ルノワール：異端児から巨匠への道 1870-1892』（展覧会カタログ）ブリヂストン美術館・名古屋市美術館，2001年2月
- 「より創造的な前期作品群」（ルノワール展）『東京新聞』2001年2月9日
- 「ルノワール展」『新美術新聞』2001年2月21日
- 「リニューアルによって美術館のアイデンティティを表現ーブリヂストン美術館ー」『服飾美学』32，服飾美学会，2001年3月

口頭発表・講演：

- 「印象派って何？」（日曜レクチャー）ブリヂストン美術館，2000年4月9日
- 「ジャポニスムと世紀末フランスの絵画，版画，装飾」（ジャポニスム学会）ブリヂストン美術館，2000年4月15日
- 「印象派画家ルノワール」北九州市立美術館，2000年4月16日
- 「絵の見方」（日曜レクチャー）ブリヂストン美術館，2000年6月11日，7月9日
- 「パリ美術案内」（日曜レクチャー）ブリヂストン美術館，2000年6月11日，7月9日
- 「フランスの世紀末美術」（美術講座）石橋美術館，2000年8月5日
- 「実篤と相馬政之助」調布市武者小路実篤記念館，2000年11月11日
- 「ルノワール」「セザンヌ」早稲田大学オープンカレッジ，2000年11月18日，25日
- 「メッセージの力」（VOCA展記念シンポジウム）上野の森美術館（パネリスト：高階秀爾，酒井忠康，本江邦夫，建昌哲，草薙奈津子，宮崎克己）2001年2月16日

- 「ルノワールの魅力」（ルノワール展記念講演会，NHK主催）中野区ZERO，2001年2月20日/ 北とぴあ，2月22日/ 調布市文化会館たづくり，3月17日
- 「ルノワール展」日本工業倶楽部，2001年3月23日

出講・対外活動：

- ジャポニスム学会実行委員 ※継続
- 美術史学会査読委員
- 地中海学会事務局委員 ※継続
- VOCA 展実行委員 ※継続

森山秀子（石橋美術館・石橋美術館別館）

口頭発表・講演：

- 「安井曾太郎『文藝春秋』表紙絵展のみどころ」（アクロス文化であい塾）アクロス福岡，2000年7月1日
- 「萬鐵五郎の裸婦像をめぐる」（夜の美術館ー日本近代美術の躍動期）田川市美術館，2000年8月29日
- 「近代洋画における群像表現」（美術講座）石橋美術館，2000年11月18日

出講・対外活動：

- 久留米大学非常勤講師「博物館概論」「博物館経営論」2000年4月－9月
- 九州産業大学非常勤講師「博物館概論」2000年4月－9月/「博物館学各論」2000年4月－2001年3月
- 九州造形短期大学非常勤講師「日本美術史」2000年9月－2001年3月
- 佐賀大学非常勤講師「博物館学III」2000年4月－9月

美術館案内 Guide to the Museums

ブリヂストン美術館

Bridgestone Museum of Art

所在地	東京都中央区京橋1-10-1(〒104-0031) TEL (03) 3563-0241	Address	10-1, Kyobashi 1-chome, Chuo-ku, Tokyo 104-0031, Japan Phone: +81 (3) 3563-0241
URL	http://www.bridgestone-museum.gr.jp	URL	http://www.bridgestone-museum.gr.jp
開館時間	午前10時～午後6時	Hours	10:00 to 18:00 Closed on Mondays, New year holidays
休館	毎月曜日 年末年始	Admission	Individual: Adults ¥700; Students ¥500; Children under 15 ¥300 Group (15 or more): Adults ¥600; Students ¥400; Children under 15 ¥200 Different fees will be charged during major special exhibitions.
入場料	個人: 一般 700円 大・高生 500円 中・小生 300円 団体 (15名以上): 一般 600円 大・高生 400円 中・小生 200円 なお、特別展の場合は変更することがある。		

石橋美術館

Ishibashi Museum of Art

所在地	福岡県久留米市野中町1015(〒839-0862) TEL (0942) 39-1131	Address	1015, Nonaka-machi, Kurume-shi, Fukuoka 839-0862, Japan Phone: +81 (942) 39-1131
URL	http://www.ishibashi-museum.gr.jp	URL	http://www.ishibashi-museum.gr.jp
開館時間	4月～9月 午前9時30分～午後5時30分 10月～3月 午前9時30分～午後5時	Hours	April～September 9:30 to 17:30 October～March 9:30 to 17:00 Closed on Mondays, New year holidays
休館	毎月曜日 年末年始	Admission	Individual: Adults ¥300; Students ¥200; Children under 15 ¥150 Group (20 or more): Adults ¥250; Students ¥150; Children under 15 ¥80 Different fees will be charged during major special exhibitions.
入場料	個人: 一般 300円 大・高生 200円 中・小生 150円 団体 (20名以上): 一般 250円 大・高生 150円 中・小生 80円 なお、特別展の場合は変更することがある。		

石橋美術館別館

Ishibashi Museum of Art, Asian Gallery

所在地	福岡県久留米市野中町1015(〒839-0862) TEL (0942) 39-0124	Address	1015, Nonaka-machi, Kurume-shi, Fukuoka 839-0862, Japan Phone: +81 (942) 39-0124
URL	http://www.ishibashi-museum.gr.jp	URL	http://www.ishibashi-museum.gr.jp
開館時間	4月～9月 午前9時30分～午後5時30分 10月～3月 午前9時30分～午後5時	Hours	April～September 9:30 to 17:30 October～March 9:30 to 17:00 Closed on Mondays, New year holidays
休館	毎月曜日 年末年始	Admission	Individual: Adults ¥300; Students ¥200; Children under 15 ¥150 Group (20 or more): Adults ¥250; Students ¥150; Children under 15 ¥80 Different fees will be charged during major special exhibitions.
入場料	個人: 一般 300円 大・高生 200円 中・小生 150円 団体 (20名以上): 一般 250円 大・高生 150円 中・小生 80円 なお、特別展の場合は変更することがある。		

石橋財団職員

常務理事

城多 秀年
富山 秀男

事務局

局長

遠藤 長夫
押本 仁子
小原田 鶴子
森田 麻利子
寺島 弘二
石黒 経子
土屋 益子

ブリヂストン美術館

館長

事務部 事務部長
事務部次長

富山 秀男
尾島 聰
黒田 昌弘
中村 邦子
金森 大輔
渡辺 清美
青柳 真子
金子 伸子
原 永子
石川 久子

学芸課 学芸課長

宮崎 克己
中田 裕子
塚田美香子
田中 千秋
貝塚 健
中村 節子
福満 葉子
坂本 恭子

石橋美術館・石橋美術館別館

館長

事務部 事務部次長

喜多村 禎勇
郷原 耕亮
野田 朋子
富松 弘美
原 朋子

学芸課 学芸課長

田内 正宏
森山 秀子
植野 健造
後藤 純子
平間 理香

2001年3月31日現在

